

大学等名	佐賀大学
プログラム名	佐賀大学データサイエンス教育プログラム(応用基礎レベル)(農学部)
適用モデルカリキュラム	改訂版モデルカリキュラム(2024年2月22日改訂)

応用基礎レベルのプログラムを構成する授業科目について

① 申請単位 ② 既認定プログラムとの関係

③ 教育プログラムの修了要件

④ 対象となる学部・学科名称

⑤ 修了要件
 「AI・数理・データサイエンスⅠ」2単位、「AI・数理・データサイエンスⅡ」2単位及び「農業ICT学」2単位を修了し、かつ、「基礎数学」2単位、「基礎統計学」2単位、「生物統計学」2単位のいずれか1科目を修了すること。

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

⑥ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
AI・数理・データサイエンスⅠ	2	○		○	○	○							
AI・数理・データサイエンスⅡ	2	○	○		○								
基礎数学	2		○			○							
基礎統計学	2		○										
生物統計学	2		○			○							

⑦ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-10	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-10	
AI・数理・データサイエンスⅠ	2	○	○			○																		
AI・数理・データサイエンスⅡ	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○													
基礎統計学	2			○																				
生物統計学	2			○				○																
農業ICT学	2	○	○		○		○			○	○													

⑧ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
AI・数理・データサイエンスⅠ	2	○			
AI・数理・データサイエンスⅡ	2	○			
生物統計学	2				

⑨ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
AI・数理・データサイエンスⅡ	AI応用基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
<p>(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。</p>	<p>1-6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表値、分散、標準偏差:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第3回)、「基礎統計学」(第1,2,3,14,15回)、「生物統計学」(第1回)、「基礎数学」(第9,10回) ・相関係数、相関関係と因果関係:「基礎統計学」(第4回) ・確率分布、正規分布:「基礎統計学」(第5回)、「生物統計学」(第2回) ・点推定と区間推定:「基礎統計学」(第9,10,11,12回)、「生物統計学」(第3回) ・帰無仮説と対立仮説、片側検定と両側検定、第1種の過誤、第2種の過誤、p値、有意水準:「基礎統計学」(第13回)、「生物統計学」(第4,5,6回) ・ベクトルと行列:「基礎数学」(第8,9回) ・ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍、内積:「基礎数学」(第8,9回) ・行列の演算、行列の和とスカラー倍、行列の積:「基礎数学」(第8,9回) ・逆行列:「基礎数学」(第8,9回) ・多項式関数、指数関数、対数関数:「基礎数学」(第5,6,7,8回) ・関数の傾きと微分の関係、積分と面積の関係:「基礎数学」(第1,2,3,4回) ・1変数関数の微分法、積分法:「基礎数学」(第4,11,12,13,14,15回)
	<p>1-7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの表現(フローチャート):「AI・数理・データサイエンスⅠ」(第2~4回) ・並び替え(ソート):「AI・数理・データサイエンスⅠ」(第5,6,7,8回) ・ソートアルゴリズム:「AI・数理・データサイエンスⅠ」(第8回)
	<p>2-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造化データ、非構造化データ:「AI・数理・データサイエンスⅠ」(第5回) ・コンピュータで扱うデータ:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第2回)
	<p>2-7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字型、整数型、浮動小数点型:「AI・数理・データサイエンスⅠ」(第2回)、「生物統計学」(第1回) ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成:「AI・数理・データサイエンスⅠ」(第3,4回) ・関数:「AI・数理・データサイエンスⅠ」(第7回)、「基礎数学」(第1~8回) ・変数、四則計算、論理演算:「生物統計学」(第1~8回)
<p>(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。</p>	<p>1-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ駆動型社会、Society 5.0:「AI・数理・データサイエンスⅠ」(第1回)、「農業ICT学」(第1回) ・データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など):「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第13回)、「農業ICT学」(第4~9回) ・データを活用した新しいビジネスモデル:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第14回)、「農業ICT学」(第6,7回)
	<p>1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第11,14回)、「生物統計学」(第1~4回)、「基礎統計学」(第13回) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど):「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第5,6,7,10回) ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など):「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第4回) ・データの収集、加工、分割/統合:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第3回)
	<p>2-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第13回)、「農業ICT学」(第6,7回) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス:「農業ICT学」(第6,7回) ・ビッグデータ活用事例:「農業ICT学」(第3,4,6,7回)
	<p>3-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第1回) ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI):「AI・数理・データサイエンスⅠ」(第15回) ・機械学習ライブラリ、ディープラーニングフレームワーク:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第3~11回)
	<p>3-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIの公平性、AIの安全性:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第15回)、「農業ICT学」(第7回) ・AI倫理、AIの社会的受容性:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第15回) ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第15回)
	<p>3-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実世界で進む機械学習の応用と発展:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第13回) ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第1,4,5,6,7,10回) ・学習データと検証データ:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第9回)、「生物統計学」(第12,13回) ・過学習、バイアス:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第9回)、「生物統計学」(第12,13回)
	<p>3-4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実世界で進む深層学習の応用と革新:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第1,13回) ・ニューラルネットワークの原理:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第8回)
	<p>3-5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実世界で進む生成AIの応用と革新:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第13回)、「農業ICT学」(第6,7回) ・生成AIの留意事項:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第12回)、「農業ICT学」(第7回) ・プロンプトエンジニアリング:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第12回)
	<p>3-10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIの学習と推論、評価:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第6,11回)、「農業ICT学」(第7回) ・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第13,14回)

(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I	<ul style="list-style-type: none"> ・代表値、分散、標準偏差:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第3回)、「生物統計学」(第1回) ・構造化データ、非構造化データ:「AI・数理・データサイエンスⅠ」(第5回) ・コンピュータで扱うデータ:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第2回) ・文字型、整数型、浮動小数点型:「AI・数理・データサイエンスⅠ」(第2回)、「生物統計学」(第1回) ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成:「AI・数理・データサイエンスⅠ」(第3, 4回) ・関数:「AI・数理・データサイエンスⅠ」(第7回)
	II	<ul style="list-style-type: none"> ・単回帰分析、重回帰分析:「AI・数理・データサイエンスⅠ」(第9～15回)、「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第7回)、「生物統計学」(第8～15回) ・可視化目的に応じた図表化、1～3次元の図表化:「AI・数理・データサイエンスⅠ」(第9～13回)、「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第4回) ・機械学習ライブラリ、ディープラーニングフレームワーク:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第3～11回) ・実世界で進む深層学習の応用と革新:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第1,13回) ・ニューラルネットワークの原理:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第8回) ・実世界で進む機械学習の応用と発展:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第13回) ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習:「AI・数理・データサイエンスⅡ」(第1,4,5,6,7,10回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIに関する基礎能力を有するとともに、これらを自らの専門分野や関連分野などへ応用・活用するための能力を身に付けられる。具体的には、データ・AI利活用に必要な数学やアルゴリズム、プログラミング、目的に応じたデータ分析手法や可視化手法、AI関連技術やその具体例など、データサイエンス、データエンジニアリング、AIの基礎を身に付けられる。また、表計算ソフトによる演習やPythonによる実習を通じて、実践的なスキルも身に付けられる。

応用基礎レベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和5 年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数 男性 3242 人 女性 2535 人 (合計 5777 人)
 (令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数												
農学部	618	145	580	150	0	146	0									296	51%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	618	145	580	150	0	146	0	0	0	0	0	0	0	0	0	296	51%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

数理・データサイエンス教育推進に関する事業を行い、全学的な数理・データサイエンス教育の浸透を図ることにより、佐賀大学の教育の質の向上に資することを目的として、佐賀大学全学教育機構数理・データサイエンス教育推進室(以下「推進室」という。)を設置している。推進室は、全学教育機構における数理・データサイエンス教育の企画、各学部及び各研究科における数理・データサイエンス教育に関する提言及び支援、各学部及び各研究科において利用可能な数理・データサイエンス教育に係る教材開発、数理・データサイエンス教育に関する質保証などを行う。

⑦ 具体的な構成員

副学長 山下 宗利
 数理・データサイエンス教育推進室長 皆本 晃弥
 全学教育機構 准教授 高崎 光浩
 アドミッションセンター 教授 西郡 大
 教育学部 教授 和久屋 寛
 芸術地域デザイン学部 准教授 阿部 浩之
 経済学部 教授 中村 博和
 医学部 教授 川口 淳
 農学部 教授 田中 宗浩
 理工学部 教授 只木 進一
 理工学部 准教授 木下 武彦
 総合情報基盤センター 教授 堀 良彰

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	51%	令和7年度予定	100%	令和8年度予定	100%
令和9年度予定	100%	令和10年度予定	100%	収容定員(名)	580

具体的な計画

本プログラムは、令和5年度から入学する農学部全学生を対象として開設した。本プログラムは卒業要件の必修科目のみから構成されているため、令和5年度以降の農学部全入学生は本プログラムを履修する。そのため、令和5年度入学生からは本プログラムの履修率は100%である。ただし、令和7年度から3年次へ入学する編入学生は、本プログラムで指定した科目が1および2年次の必修科目であることから、全科目の履修は困難となっているため除外する。ただし、編入学生が認定を希望する場合は履修可能とする。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムは、令和5年度から入学する農学部全学生を対象として開設され、必修科目のみで構成されているため、令和5年度以降の農学部入学生は本プログラムを全員が履修する。そのため、コースに関係なく学生全員が履修可能である。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

学生向けのチラシを作成し、入学後のオリエンテーションで配布・周知するとともに、数理・データサイエンス教育推進室Webページでも情報を提供している。
また、本プログラムは必修科目のみで構成されているため、令和5年度以降、農学部の学生は全員履修する。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本プログラムは必修科目のみで構成されているため、令和5年度以降、農学部学生は全員履修する。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本プログラムを構成する科目の担当教員は、授業時間内に質問を受け付けるとともに、オフィスアワーも設定し、授業時間外の質問にも対応している。また、履修者の多い授業においては、教員を複数配置し、履修者からの質問に対応している。さらに、Teamsのチャット機能を使った質問の受付・回答も行っている。

大学等名 佐賀大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

佐賀大学全学教育機構数理・データサイエンス教育推進室

(責任者名) 鯉川 雅之

(役職名) 全学教育機構長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムは農学部において令和4年度入学生から開始し、必修科目と選択必修科目でプログラムが構成されているため、履修率は100%である。 また、数理・データサイエンス教育推進室において、年度末にプログラムの履修・修得状況を確認している。</p>
学修成果	<p>本教育プログラムの学習到達目標として設定されている学修成果は、各授業科目のスラバスに学習到達目標として設定されており、試験や課題等でその達成度を確認している。また、教育委員会質保証専門委員会からの依頼に基づき、全学教育機構運営委員会や農学部教育委員会において各科目の単位取得状況や成績分布も確認しており、不合格者の割合が高い科目については、その原因と対策を報告する体制を整えている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本教育プログラムの履修者全員に対して、「佐賀大学データサイエンス教育に関するアンケート」を実施し、本教育プログラムの構成要素ごとに「関心をもった項目」と「難しいと感じた項目」を回答させている。これにより、学生の内容の理解度を把握できる。また、各授業科目の課題や小テストなどでも理解度を把握するとともに、各授業科目でも授業アンケートにより理解度を把握している。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本プログラムは農学部において令和5年度から開始し、必修科目のみでプログラムが構成されているため、令和5年度以降の入学生については履修率は100%である。そのため、後輩への推奨度に関係なく、次年度以降に入学する学生も全員が履修する。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本プログラムは、令和5年度から入学する農学部の全学生を対象として開設した。本プログラムは卒業要件の必修科目のみから構成されているため、令和5年度以降の農学部全入学生は本プログラムを履修する。そのため、令和5年度入学生からは本プログラムの履修率は100%である。 編入生(3年次から入学)については、本プログラムは2年生までの必修科目により構成されているため、必要となる科目を3年生から全て履修することが困難となっている。従って、本プログラムの必修化からは除外する。ただし、希望する場合は履修可能である。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本教育プログラムの修了生は、卒業していないため、進路・活躍状況や企業などの評価は把握できない。本学では、これまでにデータサイエンス教育の在り方について地元企業・自治体と意見交換会を行っており、本教育プログラム修了者についても、これらの企業・自治体を協力して活躍状況などを把握する予定である。</p> <p>また、これまでに定期的に実施している卒業生・修了生・就職先アンケートにおいても、本教育プログラムの修了生の状況について把握する予定である。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>農学部では1年生必修科目「農業ICT学」や、3年次選択科目「インターンシップS及びL」を、IT企業をはじめとする様々な産業界と連携して実施しており、定期的な意見交換を行い、これらを講義へ反映させながら改善を行っている。また、IT企業エンジニアや金融機関（フィンテックを担当）の複数名を毎年農学部の特任教員として招聘し協力して講義を構築しながら、講義内容や手法についても常に意見交換を行いながら、産業界で取り扱われる知見や視点を反映した教育が展開できる仕組みとしている。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>履修者が「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を理解できるようにすることを目的として、数理・データサイエンス教育推進室において、共通教材を作成し、各学部の授業担当教員はこれらを適宜カスタマイズして利用できる。また、複数のIT企業や、佐賀市で長年に渡ってビジネススクールを主催しているNPO法人と協力し、起業家教育と連動させながら、様々な数理・データサイエンス・AIの活用事例を取り入れた教材を開発しており、これらの団体にも実際に教壇に立つてもらいながら講義を進めることによって、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させる事に取り組んでいる。学生アンケートによれば、多くの学生がデータサイエンスやAIに興味を持つようになっており、ある程度は目的が達成されたと思われる。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本教育プログラムでは、AI、とりわけ機械学習について「正確に理解し、実装する能力を養うこと」を重要な教育目標として掲げている。学生アンケートの結果からは、「プログラミングの基礎」や「ソースコードの理解」に対して難しさを感じる学生の声が多く寄せられたが、これらの多くは学習の初期段階における戸惑いに起因するものであり、講義内容自体が過度に難解であったわけではない。実際には、配布資料にはコメント付きの丁寧なコード例を示しており、復習によって理解が深まる構成としている。今後も講義内容について関係者間での検討と修正を継続し、水準を維持・向上しつつ、めまぐるしく変化する社会情勢を反映させつつ、より分かりやすい授業となる教材を開発していく必要がある。</p> <p>そのためには、学生アンケートだけでなく、地元企業からの意見、関連学会・研究会・協議会・コンソーシアムの動向、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムの応用基礎レベルモデルカリキュラム対応教材等を参考にしたいと考えている。</p>

確定状態	確定済
タイトル	2024年度
フォルダ	教養教育科目
開講年度	2024年度
コースナンバー	2-410x000
科目コード	G1312026
科目名	AI・数理・データサイエンス I
曜日・校時	木 2
単位数	2.0
開講時期	1 クォータ
担当教員(所属)	只木 進一,大村 肇,石本 志高
授業担当コマ数	只木 進一(理工学部)[15.00]、石本 志高(理工学部)[]、大村 肇(全学教育機構)[15.00]
外部参照用のURL	https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=027300248116&formatCD=1
学士力番号	2-(1),2-(3),3-(1),3-(2)
曜/限追記	
講義形式	講義
講義概要	プログラミングができれば、大量のデータを処理する、あるいは作業を自動化することができます。効率があがるだけでなく、間違いも少なくなります。しかし、プログラミングは難しいのでは？Pythonは、比較的簡単に習得でき、かつ短いプログラムで様々なことができるプログラミング言語です。本講義は、プログラミングを全く知らない人が、Pythonの初歩を習得させることを目指します。
開講意図	EXCELファイルを分析する、インターネット上の情報を収集する、そうしたことは分野を問わず、必要な作業です。こうした作業を効率よく間違いなく実施するには、プログラムが必要です。本講義では、Pythonプログラミングの基礎を習得することを目指します。データの例には、佐賀県の人口などを利用します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なPythonプログラムを書くことができる ・Pythonプログラミングに関する情報を集め、問題を解決できる
聴講指定	本講義は、プログラミング未経験者を対象とするため、理工学部の学生は履修できない。
履修上の注意	<p>受講者各自のPC上にプログラミング環境を構築します。8GB以上のメモリ、5GB以上のディスク容量が必要です。ディスクは外付けUSBでも構いません。</p> <p>対面を基本としつつ、Teamsを用いて情報共有を行う。特に、毎回、Formsを使用しオンラインで小テストを行う。小テストを5回以上受験しない者は不可とする。</p>
授業計画(内容)	<p>1 序論：プログラミングで何ができる？ プログラムで何ができるか/データサイエンスとは/環境構築</p> <p>2 値と変数 簡単な計算/データ構造/2進数/変数と型/代入/関数</p> <p>3 条件分岐、繰り返し1：ifとwhile ifを使った条件分岐/whileを使った繰り返し</p> <p>4 条件分岐、繰り返し2：for forを使った繰り返し</p> <p>5 リスト 構造の無いデータと構造のあるデータ/リストとその操作</p> <p>6 タプル、集合、辞書 その他の基本的なデータ構造と基本的操作</p> <p>7 関数を定義する 関数の定義/型の明示</p> <p>8 アルゴリズムとデータ構造</p> <p>9 Excelを読む pandasの利用/Excelファイル読み込み/DataFrameとSeries/佐賀県の人口</p> <p>10 Excelを書く DataFrameやSeriesを作る/ファイルに書き出す</p> <p>11 作図の基本：佐賀県の人口構成、九州各県の人口 matplotlibの利用/折れ線グラフ/棒グラフ/円グラフ</p> <p>12 エクセルのデータを作図する：佐賀県の人口構成推移</p>

	<p>佐賀県の人口をExcelファイルから読み込む／必要な部分を作図する</p> <p>13 Webの利用：佐賀の天気</p> <p>WebページからDataFrameを読む／データクレンジング／作図</p> <p>14 課題演習支援</p> <p>レポート課題作成を支援</p> <p>15 機械学習紹介</p> <p>機械学習の例題を見る</p>
授業計画(授業以外の学習)	<p>1 講義の最後に課題を提示する。</p> <p>2 講義の最後に課題を提示する。</p> <p>3 講義の最後に課題を提示する。</p> <p>4 講義の最後に課題を提示する。</p> <p>5 講義の最後に課題を提示する。</p> <p>6 講義の最後に課題を提示する。</p> <p>7 講義の最後に課題を提示する。</p> <p>8 講義の最後に課題を提示する。</p> <p>9 講義の最後に課題を提示する。</p> <p>10 講義の最後に課題を提示する。</p> <p>11 講義の最後に課題を提示する。</p> <p>12 講義の最後に課題を提示する。</p> <p>13 講義の最後に課題を提示する。</p> <p>14 期末レポート</p> <p>15 期末レポート</p>
成績評価の方法と基準	<p>成績は、毎回の小テスト（40%）と期末レポート（60%）により評価する。毎回の小テスト及び期末レポートでは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なPythonプログラムを書くことができる ・Pythonプログラミングに関する情報を集め、問題を解決できる <p>という観点で評価を行う。</p>
開示する成績評価の根拠資料等	毎回の小テストの解答例
開示方法	下記資料ページにて
教科書	詳細! Python 3 入門ノート
参考図書	
リンク	講義資料
オフィスアワー	木曜5校時
カテゴリー 4	0
カテゴリー 3	0
カテゴリー 2	0
カテゴリー 1	70
カテゴリー 0	30
その他	担当者の一人、大村 肇は、機械学習等の実務経験者です。

確定状態	確定済
タイトル	2024年度
フォルダ	教養教育科目
開講年度	2024年度
コースナンバー	2-410x000
科目コード	G1312027
科目名	AI・数理・データサイエンスⅡ
曜日・校時	木 2
単位数	2.0
開講時期	3 クォータ
担当教員(所属)	木下 武彦,大村 肇
授業担当コマ数	木下 武彦(理工学部)[15.00]、大村 肇(全学教育機構)[15.00]
外部参照用のURL	https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=027300248117&formatCD=1
学士力番号	2(1)(3)
曜/限追記	木曜2校時
講義形式	講義
講義概要	<p>現代のAI・データサイエンスには機械学習が必要不可欠です。</p> <p>この講義では「機械学習とは何か?」をテーマとして、機械学習の数理的な背景とそのプログラミングについて講義します。</p> <p>また、AIやデータサイエンスではどのように機械学習を使っているかを事例を通して説明します。</p> <p>データさえ入力すれば自動的に結果が出てくるといような、計算機が出力した結果を鵜呑みにするのではなく、その機械学習モデルの背景の知識とそれを実際に計算する能力を身につけてください。</p>
開講意図	<p>現代のAI・データサイエンスでは機械学習が重要な役割を果たします。</p> <p>本講義では機械学習とは何かを理解し、実際に機械学習モデルを計算するスキルを身につけます。</p> <p>また、AIの運用事例を通して解決すべき問題に対する機械学習モデルの作成手法を身につけます。</p>
到達目標	<p>AIの歴史と運用事例を理解する。</p> <p>データの処理と可視化ができるようになる。</p> <p>機械学習モデルを作れるようになる。</p> <p>機械学習モデルの状態を把握し、調整できるようになる。</p> <p>AIの運用と倫理を理解する。</p>
聴講指定	
履修上の注意	<p>データサイエンス(リテラシーレベル)の知識が必要です。</p> <p>AI・数理・データサイエンスIで学んだ程度の Python の知識が必要です。</p>
授業計画(内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1 AIの歴史と応用分野 2 データ表現 3 データ加工 4 データ可視化 5 クラスタリング 6 分類問題 7 回帰問題 8 深層学習 9 機械学習の基礎と展望 10 アンサンブル法 11 分析設計 12 生成AI 13 ビッグデータとエンジニアリング 14 AIの構築・運用 15 AIと社会

授業計画(授業以外の学習)	<p>1 自分の PC で Python 3 を利用可能にしてください(講義内で解説します).</p> <p>2 講義内容を復習し, 指示された課題に取り組んでください.</p> <p>3 講義内容を復習し, 指示された課題に取り組んでください.</p> <p>4 講義内容を復習し, 指示された課題に取り組んでください.</p> <p>5 講義内容を復習し, 指示された課題に取り組んでください.</p> <p>6 講義内容を復習し, 指示された課題に取り組んでください.</p> <p>7 講義内容を復習し, 指示された課題に取り組んでください.</p> <p>8 講義内容を復習し, 指示された課題に取り組んでください.</p> <p>9 講義内容を復習し, 指示された課題に取り組んでください.</p> <p>10 講義内容を復習し, 指示された課題に取り組んでください.</p> <p>11 講義内容を復習し, 指示された課題に取り組んでください.</p> <p>12 講義内容を復習し, 指示された課題に取り組んでください.</p> <p>13 講義内容を復習し, 指示された課題に取り組んでください.</p> <p>14 講義内容を復習し, 指示された課題に取り組んでください.</p> <p>15 講義内容を復習し, 指示された課題に取り組んでください.</p>
成績評価の方法と基準	到達目標に記載されている内容に関する期末レポートの成績で評価し, 60点以上で合格となります.
開示する成績評価の根拠資料等	期末レポートの問題と解答を開示します.
開示方法	Microsoft Teams で開示します.
教科書	教科書は指定しません
参考図書	詳細! Python 3 入門ノート
リンク	
オフィスアワー	水曜5校時 電話: 0952-28-8842 メール: kinosita (あっと) edu.cc.saga-u.ac.jp ※メール送信の際は (あっと) を @ に変換してください.
カテゴリー 4	0
カテゴリー 3	0
カテゴリー 2	0
カテゴリー 1	50
カテゴリー 0	50
その他	

確定状態	確定済
タイトル	2024年度
フォルダ	農学部
開講年度	2024年度
コースナンバー	1413x254
科目コード	E1010400
科目名	基礎数学
曜日・校時	火1
単位数	2.0
開講時期	1クォータ
担当教員(所属)	川中子 正
授業担当コマ数	川中子 正(教育学部)[15.00]
外部参照用のURL	https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=027300249594&formatCD=1
学士力番号	1(3)
曜/限追記	
講義形式	講義
講義概要	1変数関数の微積分学に関して解説する。 演習も出来るだけ行う予定である。
開講意図	1変数関数の微積分学の基礎的な内容を理解する。 演習を通じて、基礎的な計算が出来るようにする。
到達目標	1変数関数の微積分学の基礎的な内容を理解している。 演習を通じて、基礎的な計算が出来る。
聴講指定	
履修上の注意	授業は原則 対面で行う。 授業担当者の連絡先：tadashi@cc.saga-u.ac.jp チャットによる連絡は受け付けない。
授業計画(内容)	1 第1回：関数および逆関数の定義 2 第2回：関数の極限 3 第3回：連続関数の定義と性質 4 第4回：微分および導関数の定義と性質 5 第5回：合成関数および逆関数の微分法 6 第6回：三角関数と逆三角関数 7 第7回：指数関数、対数関数、双曲線関数 8 第8回：高次導関数 9 第9回：平均値の定理と応用 10 第10回：ロピタルの定理 11 第11回：不定積分の定義と基本的性質 12 第12回：不定積分の計算 13 第13回：定積分の定義と基本的性質 14 第14回：定積分の計算 15 第15回：変数分離形、同次形の微分方程式
授業計画(授業以外の学習)	1 注意：各授業の後には、常に各自で授業内容を復習する必要がある。
成績評価の方法と基準	期末試験（85%）、レポート（15%）を総合的に評価する。
開示する成績評価の根拠資料等	期末テストの問題とその答案
開示方法	希望者には 直接見せる。
教科書	微積分学の基礎
参考図書	微積分学講義
リンク	
オフィスアワー	火2
カテゴリー4	0
カテゴリー3	20
カテゴリー2	0
カテゴリー1	20
カテゴリー0	60
その他	

確定状態	確定済
タイトル	2024年度
フォルダ	農学部
開講年度	2024年度
コースナンバー	1417x254
科目コード	E1010500
科目名	基礎統計学
曜日・校時	金 3
単位数	2.0
開講時期	1 クォータ
担当教員(所属)	日比野 雄嗣
授業担当コマ数	日比野 雄嗣(理工学部)[15.00]
外部参照用のURL	https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=027300249595&formatCD=1
学士力番号	1(3)
曜/限追記	
講義形式	対面授業
講義概要	<p>本講義で学ぶ統計学とは、データの整理・分析の理論である。主な内容は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられたデータを整理し、その特徴を明らかにするいくつかの方法を解説する。特に、データを表現する方法、データ全体を一つの数値で表すこと、データの広がり具合を数値で表すことについて述べる。また、二種類のデータの間の関連を把握したり特徴づける方法についても述べる。 ・統計学を理論的に記述するための言葉である確率論について、特に確率変数といくつかの代表的な確率分布のあつかいについて解説する。 ・母集団(全体)の性質がどのように標本(部分)に反映しているかを標本分布を通して理解させる。 ・以上の知識を用いて、区間推定・仮説検定についての基本的な事項を講義する。
開講意図	数理統計学の基礎的な考え方を学ぶ。
到達目標	正規分布を用いた推定・検定ができるようになることを目標とする。
聴講指定	
履修上の注意	
授業計画(内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1 [1.1]度数分布表 2 [1.2]代表値 [1.3]分散と標準偏差 3 [1.4]平均, 分散, 標準偏差の性質 4 [2.1]相関 [2.2]回帰直線 5 [4.1]確率変数と確率分布 6 [5.1]二項分布 7 [5.2]正規分布 8 [6.1]標本分布 9 [7.1]点推定 10 [7.2]母平均の区間推定(母分散が既知の場合) 11 [7.2]母平均の区間推定(母分散が未知の場合) 12 [7.3]母比率の区間推定 13 [8.1]仮説の検定 14 [8.2]母平均の検定 15 [8.3]母比率の検定
授業計画(授業以外の学習)	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容について復習し, 教科書の演習問題を解いておくこと 2 授業内容について復習し, 教科書の演習問題を解いておくこと 3 授業内容について復習し, 教科書の演習問題を解いておくこと 4 授業内容について復習し, 教科書の演習問題を解いておくこと 5 授業内容について復習し, 教科書の演習問題を解いておくこと 6 授業内容について復習し, 教科書の演習問題を解いておくこと 7 授業内容について復習し, 教科書の演習問題を解いておくこと 8 授業内容について復習し, 教科書の演習問題を解いておくこと 9 授業内容について復習し, 教科書の演習問題を解いておくこと 10 授業内容について復習し, 教科書の演習問題を解いておくこと 11 授業内容について復習し, 教科書の演習問題を解いておくこと 12 授業内容について復習し, 教科書の演習問題を解いておくこと 13 授業内容について復習し, 教科書の演習問題を解いておくこと 14 授業内容について復習し, 教科書の演習問題を解いておくこと 15 授業内容について復習し, 教科書の演習問題を解いておくこと

成績評価の方法と基準	定期試験(100%)により評価する。
開示する成績評価の根拠資料等	定期試験問題とその解答例・配点を開示する。
開示方法	採点終了後，研究室前に掲示する。
教科書	確率統計
参考図書	高校の数学Bの教科書
リンク	過去問(日比野のHP)
オフィスアワー	火4
カテゴリー 4	0
カテゴリー 3	0
カテゴリー 2	0
カテゴリー 1	10
カテゴリー 0	90
その他	

確定状態	確定済
タイトル	2024年度
フォルダ	農学部
開講年度	2024年度
コースナンバー	1417x-251
科目コード	74100500
科目名	生物統計学
曜日・校時	金 3
単位数	2.0
開講時期	3 クォータ
担当教員(所属)	本島 浩之
授業担当コマ数	本島 浩之(農学部)[15.00]
外部参照用のURL	https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=027300249512&formatCD=1
学士力番号	1(3), 2(1)
曜/限追記	
講義形式	すべての講義はMicrosoft社のTeamsを用いてオンラインにて行う。 教科書の例題などを紹介しながら、EXCELとJMPを使用して説明をする。 毎講義ごとにパソコンで行う課題を課す。 学生の皆さんにはTeamsに参加登録の招メールはLiveCampusから送ります。
講義概要	統計学の概要を教え、その後分析統計学の基本的考え方や手法を紹介する。
開講意図	分析において知識と技術を提供する統計学の初歩を学ぶ。これにより、科学の証明をどのように実践すればよいか理解できる。
到達目標	生物統計学の基本的知識と技術を身につける。
聴講指定	旧カリキュラム生
履修上の注意	必ず、教科書「入門 統計学(第2版)」を事前に購入し、パソコンにEXCELの「分析ツール」をアドオンし、さらにJMPをインストールしておくこと。JMPのダウンロードは総合情報基盤センターのホームページの学内専用ソフトウェアダウンロードサイトから「統計解析ソフトウェア(JMP)」にある最新バージョンを選ぶ。 https://www.cc.saga-u.ac.jp/software-download 授業に出席して、講義を聞き内容を理解するように努力して初めて、成績評価の対象となる。
授業計画(内容)	1 第01章データの整理 2 第02章確率分布 3 第03章推定と誤差 =推測統計学= 4 第04章信頼区間の推定 5 第05章 χ^2 分布とF分布 6 第06章仮説検定と検出力 7 第07章2群の平均の差の検定 8 第08章分散分析 9 第09章多重比較法 10 第10章実験計画法 11 第11章ノンパラメトリック検定 12 第12章回帰分析 13 第13章ロジスティック回帰分析とクラスター分析 14 第14章主成分分析と因子分析 15 第15章ベイズ統計学

授業計画(授業以外の学習)	<p>1 事前に第01章のテキスト等を予習する。講義後、課題01を提出すること。</p> <p>2 事前に第02章のテキスト等を予習する。講義後、課題02を提出すること。</p> <p>3 事前に第03章のテキスト等を予習する。講義後、課題03を提出すること。</p> <p>4 事前に第04章のテキスト等を予習する。講義後、課題04を提出すること。</p> <p>5 事前に第05章のテキスト等を予習する。講義後、課題05を提出すること。</p> <p>6 事前に第06章のテキスト等を予習する。講義後、課題06を提出すること。</p> <p>7 事前に第07章のテキスト等を予習する。講義後、課題07を提出すること。</p> <p>8 事前に第08章のテキスト等を予習する。講義後、課題08を提出すること。</p> <p>9 事前に第09章のテキスト等を予習する。講義後、課題09を提出すること。</p> <p>10 事前に第10章のテキスト等を予習する。講義後、課題10を提出すること。</p> <p>11 事前に第11章のテキスト等を予習する。講義後、課題11を提出すること。</p> <p>12 事前に第12章のテキスト等を予習する。講義後、課題12を提出すること。</p> <p>13 事前に第13章のテキスト等を予習する。講義後、課題13を提出すること。</p> <p>14 事前に第14章のテキスト等を予習する。講義後、課題14を提出すること。</p> <p>15 事前に第15章のテキスト等を予習する。講義後、課題15を提出すること。</p>
成績評価の方法と基準	基本的には、毎講義課題の点数(60%)と、期末試験(40%)から、生物統計学の基礎知識と技術を身につけた程度を考慮して総合的に評価する。授業の中身や進行によって総合評価への各配分は変化する。
開示する成績評価の根拠資料等	後学期定期試験の問題、解答及び総合評価への配点等を開示する。
開示方法	成績の閲覧を希望する者(履修登録した者に限る)は、直接もしくは電子メール(motos[アット]edu.cc.saga-u.ac.jp)で担当教員に申込むこと。
教科書	入門 統計学(第2版)ー検定からの多変量解析・実験計画法・ベイズ統計学までー
参考図書	JMPによるデータ分析:統計の基礎から多変量解析まで フリー統計ソフトEZR(Easy R)でカンタン統計解析:サラっとできる! 生物・農学系のための統計学 ー大学での基礎学修から研究論文までー
リンク	
オフィスアワー	木3限
カテゴリー 4	0
カテゴリー 3	0
カテゴリー 2	0
カテゴリー 1	80
カテゴリー 0	20
その他	

確定状態	確定済
タイトル	2024年度
フォルダ	農学部
開講年度	2024年度
コースナンバー	1417x254
科目コード	E1020700
科目名	生物統計学
曜日・校時	金 3
単位数	2.0
開講時期	3 クォータ
担当教員(所属)	本島 浩之
授業担当コマ数	本島 浩之(農学部)[15.00]
外部参照用のURL	https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=027300249602&formatCD=1
学士力番号	1(3), 2(1)
曜/限追記	
講義形式	すべての講義はMicrosoft社のTeamsを用いてオンラインにて行う。 教科書の例題などを紹介しながら、EXCELとJMPを使用して説明をする。 毎講義ごとにパソコンで行う課題を課す。 学生の皆さんにはTeamsに参加登録の招メールはLiveCampusから送ります。
講義概要	統計学の概要を教え、その後分析統計学の基本的考え方や手法を紹介する。
開講意図	分析において知識と技術を提供する統計学の初歩を学ぶ。これにより、科学の証明をどのように実践すればよいか理解できる。
到達目標	生物統計学の基本的知識と技術を身につける。
聴講指定	1年生、2年生、3年生、4年生
履修上の注意	必ず、教科書「入門 統計学(第2版)」を事前に購入し、パソコンにEXCELの「分析ツール」をアドオンし、さらにJMPをインストールしておくこと。JMPのダウンロードは総合情報基盤センターのホームページの学内専用ソフトウェアダウンロードサイトから「統計解析ソフトウェア(JMP)」にある最新バージョンを選ぶ。 https://www.cc.saga-u.ac.jp/software-download 授業に出席して、講義を聞き内容を理解するように努力して初めて、成績評価の対象となる。
授業計画(内容)	1 第01章データの整理 2 第02章確率分布 3 第03章推定と誤差 =推測統計学= 4 第04章信頼区間の推定 5 第05章 χ^2 分布とF分布 6 第06章仮説検定と検出力 7 第07章2群の平均の差の検定 8 第08章分散分析 9 第09章多重比較法 10 第10章実験計画法 11 第11章ノンパラメトリック検定 12 第12章回帰分析 13 第13章ロジスティック回帰分析とクラスター分析 14 第14章主成分分析と因子分析 15 第15章ベイズ統計学

授業計画(授業以外の学習)	<p>1 事前に第01章のテキスト等を予習する。講義後、課題01を提出すること。</p> <p>2 事前に第02章のテキスト等を予習する。講義後、課題02を提出すること。</p> <p>3 事前に第03章のテキスト等を予習する。講義後、課題03を提出すること。</p> <p>4 事前に第04章のテキスト等を予習する。講義後、課題04を提出すること。</p> <p>5 事前に第05章のテキスト等を予習する。講義後、課題05を提出すること。</p> <p>6 事前に第06章のテキスト等を予習する。講義後、課題06を提出すること。</p> <p>7 事前に第07章のテキスト等を予習する。講義後、課題07を提出すること。</p> <p>8 事前に第08章のテキスト等を予習する。講義後、課題08を提出すること。</p> <p>9 事前に第09章のテキスト等を予習する。講義後、課題09を提出すること。</p> <p>10 事前に第10章のテキスト等を予習する。講義後、課題10を提出すること。</p> <p>11 事前に第11章のテキスト等を予習する。講義後、課題11を提出すること。</p> <p>12 事前に第12章のテキスト等を予習する。講義後、課題12を提出すること。</p> <p>13 事前に第13章のテキスト等を予習する。講義後、課題13を提出すること。</p> <p>14 事前に第14章のテキスト等を予習する。講義後、課題14を提出すること。</p> <p>15 事前に第15章のテキスト等を予習する。講義後、課題15を提出すること。</p>
成績評価の方法と基準	基本的には、毎講義課題の点数(60%)と、期末試験(40%)から、生物統計学の基礎知識と技術を身につけた程度を考慮して総合的に評価する。授業の中身や進行によって総合評価への各配分は変化する。
開示する成績評価の根拠資料等	後学期定期試験の問題、解答及び総合評価への配点等を開示する。
開示方法	成績の閲覧を希望する者(履修登録した者に限る)は、直接もしくは電子メール(motos[アット]edu.cc.saga-u.ac.jp)で担当教員に申込むこと。
教科書	入門 統計学(第2版)―検定からの多変量解析・実験計画法・ベイズ統計学まで―
参考図書	JMPによるデータ分析:統計の基礎から多変量解析まで フリー統計ソフトEZR(Easy R)でカンタン統計解析:サラっとできる! 生物・農学系のための統計学 ―大学での基礎学修から研究論文まで―
リンク	
オフィスアワー	木3限
カテゴリー 4	0
カテゴリー 3	0
カテゴリー 2	0
カテゴリー 1	80
カテゴリー 0	20
その他	

確定状態	確定済
タイトル	2024年度
フォルダ	農学部
開講年度	2024年度
コースナンバー	1007x254
科目コード	E1020300
科目名	農業ICT学
曜日・校時	火 3
単位数	2.0
開講時期	3クォータ
担当教員(所属)	田中 宗浩,北垣 浩志,稲葉 繁樹
授業担当コマ数	稲葉 繁樹(農学部)[1.00]、北垣 浩志(農学部)[1.00]、田中 宗浩(農学部)[13.00]
外部参照用のURL	https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=027300249598&formatCD=1
学士力番号	2(1)(3), 3(1)(2)(3)
曜/限追記	火3
講義形式	対面講義とする。
講義概要	この講義では、ICTやIoT技術の利活用の観点から、農業、植物、食品、環境、経営や流通といった分野で利用される情報技術を解説する。また、関連するビックデータの種類や解析の方法、これらのデータから得られる成果の利用方法など、実際の事例を取り上げながら考察して理解を深めてもらう。また、講義を受講している学生間で議論をしながら、アグリビジネスに関係するアイデアを出し合いながら議論を行い、ビジネスプランの作成にトライする。その際に、知的財産権の扱いについても説明を行い、これらにも配慮したプラン作成に取り組む。アントレプレナーシップ入門として、前学期に学習したHTMLやJAVAスクリプトを用いて、webサイトの構築に取り組む。
開講意図	第4次産業革命とも呼ばれている高度情報化社会では、IoT、データ通信、ビックデータ、AI等を用いた解析、フィードバックの連携が重要である。この講義では、今までは個人の知恵や経験に依存してきた知識や技術を、どのようにしてビックデータへ変換したらよいか、その後、どのような目的で、どのような方法を用いて利用したら良いのかをを考えながら、自分自身で自立的に使うことができる能力を醸成することを目的とする。
到達目標	①決まったテーマについて自分で考えを生み出し発信することができる。 ②情報を整理し、論理的に集約をすることができる。 ③アグリビジネスに関係した知的財産の考え方を理解できる。 ④プログラミングの基礎が身についている。
聴講指定	農学部1年生
履修上の注意	自分で自由に使用することができるPCを保持していること。また、毎回の講義でPCを使用する。PCの充電やソフトウェアのアップデートは事前に必ず行っておくこと。 講義には必ず自分のPCを用いて参加する事。 講義には必ず大学のアカウント(***@edu.cc.saga-u.ac.jp)を用いて参加すること。
授業計画(内容)	1 ガイダンス～農業とICTについて(田中) 2 グループディスカッション「私が農学部で目指すこと、それを達成するためにすべきこと」(田中) 3 キャリア分析ワークショップ「大学で身につける専門知識と進路」(稲葉) 4 「大学発ベンチャーと知的財産」リージョナル・イノベーションセンター シニアURA 予定 5 アイデアを生み出す、発想の転換と集約(NPO法人鳳雛塾) 6 ビジネスプランと事業計画書(佐賀銀行) 7 IoTを活用したスマートビジネスの実例「IT農業の取り組み」(OPTiM) 8 「アグリビジネス案の構築1」プレインストーミング「あなたが考えるアグリビジネス～理念の決定」(田中) 9 「アグリビジネス案の構築2」ワークショップ「あなたが考えるアグリビジネス～事業計画」(田中) 10 「アグリビジネス案の構築3」成果報告へ向けたweb作成(田中・稲葉) 11 「アグリビジネス案の構築4」成果報告へ向けたweb作成(稲葉) 12 「アグリビジネス案の構築5」成果報告へ向けたweb作成(稲葉) 13 成果発表会1 あなたが考えるアグリビジネス(田中/北垣/稲葉) 14 成果発表会2 あなたが考えるアグリビジネス(田中/北垣/稲葉) 15 成果発表会3 発表会の講評、自己評価(田中/北垣/稲葉)

授業計画(授業以外の学習)	<p>1 資料等を復習し、疑問があれば、メール等を通して解決しておく。</p> <p>2 資料等を復習し、疑問があれば、メール等を通して解決しておく。レポート課題を出題するので対応すること。</p> <p>3 資料等を復習し、疑問があれば、メール等を通して解決しておく。レポート課題を出題するので対応すること。</p> <p>4 資料等を復習し、疑問があれば、メール等を通して解決しておく。課題を出題するので対応すること。</p> <p>5 資料等を復習し、疑問があれば、メール等を通して解決しておく。課題を出題するので対応すること。</p> <p>6 資料等を復習し、疑問があれば、メール等を通して解決しておく。課題を出題するので対応すること。</p> <p>7 資料等を復習し、疑問があれば、メール等を通して解決しておく。課題を出題するので対応すること。</p> <p>8 資料等を復習し、疑問があれば、メール等を通して解決しておく。課題を出題するので対応すること。</p> <p>9 資料等を復習し、疑問があれば、メール等を通して解決しておく。課題を出題するので対応すること。</p> <p>10 資料等を復習し、疑問があれば、メール等を通して解決しておく。課題を出題するので対応すること。</p> <p>11 資料等を復習し、疑問があれば、メール等を通して解決しておく。課題を出題するので対応すること。</p> <p>12 成果報告用のプレゼンテーションは、講義時間外を使用してチームの共同作業でまとめておくこと。</p> <p>13 成果報告用のプレゼンテーションは、講義時間外を使用してチームの共同作業でまとめておくこと。</p> <p>14 成果報告用のプレゼンテーションは、講義時間外を使用してチームの共同作業でまとめておくこと。</p> <p>15 資料等を復習し、疑問があれば、メール等を通して解決しておく。課題を出題するので対応すること。</p>
成績評価の方法と基準	<p>・講義毎に出題される課題を採点し、これらを積算して成績とする。</p> <p>目標 (1) は毎回課題および成果発表会で評価する。</p> <p>目標 (2) は毎回課題および成果発表会で評価する。</p> <p>目標 (3) は第2回、第9～13の課題内容で評価する。</p> <p>目標 (4) は第4～8回の課題内容で評価する。</p>
開示する成績評価の根拠資料等	各課題の出題意図、回答例、評価基準、採点結果を開示する。
開示方法	個人の評価は、希望者に対して個別に開示する。
教科書	特に指定しない。必要に応じて資料を提供する。
参考図書	
リンク	
オフィスアワー	田中：毎水1
カテゴリー 4	10
カテゴリー 3	30
カテゴリー 2	30
カテゴリー 1	20
カテゴリー 0	10
その他	

佐賀大学データサイエンス教育プログラム（応用基礎レベル）実施要項

（令和4年1月31日教育委員会決定）

目次

（趣旨）

第1条 この要項は、佐賀大学が開設する佐賀大学データサイエンス教育プログラム（応用基礎レベル）（以下「プログラム」という。）の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 プログラムは、数理・データサイエンス・AI（Artificial Intelligence：人工知能）に関する基礎能力を有するとともに、これを自らの専門分野や関連分野などへ応用・活用して、様々な課題解決や価値創造などを担う人材を育成することを目的とする。

（授業科目、単位数及び修了要件）

第3条 学生の所属する学部毎に定めるプログラムの対象となる教育科目の区分、授業科目、単位数及び修了要件は、別表1のとおりとする。

2 前項の規定にかかわらず、理工学部の3年次編入学生については、別表2のとおりとする。

（修了の認定）

第4条 学長は、佐賀大学全学教育機構運営委員会の議を経て、プログラムの修了を認定する。

（修了証の授与）

第5条 学長は、プログラムの修了の認定を受けた者に、卒業時に修了証（別記様式）を授与する。

（事務）

第6条 プログラムに関する事務は、学務部教育企画課が行う。

（雑則）

第7条 この要項に定めるもののほか、プログラムの実施に関し必要な事項は、佐賀大学教育委員会が別に定める。

附 則

この要項は、令和4年4月1日から施行する。

附 則（令和4年5月11日改正）

この要項は、令和4年5月11日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

附 則（令和5年3月2日改正）

1 この要項は、令和5年4月1日から実施する。

2 令和5年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

3 前2項の規定に関わらず、改正後の別表（第3条関係）に規定する授業科目のうち、経済学部の専門教育科目については、令和4年4月1日から適用する。

附 則（令和5年3月30日改正）

1 この要項は、令和5年4月1日から実施する。

2 令和5年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（令和6年5月2日改正）

この要項は、令和6年5月2日から実施し、令和6年4月1日から適用する。

別表 1 (第 3 条関係)

対象学部	教育科目の区分	授業科目	単位数	修了要件
教育学部	教養教育科目	AI・数理・データサイエンス I	2	必修
		AI・数理・データサイエンス II	2	必修
芸術地域デザイン学部	教養教育科目	AI・数理・データサイエンス I	2	必修
		AI・数理・データサイエンス II	2	必修
経済学部	教養教育科目	AI・数理・データサイエンス I	2	必修
		AI・数理・データサイエンス II	2	必修
	専門教育科目	基本統計学	2	必修
		経済数学	2	必修
		統計学	2	必修
		統計学演習	2	必修
		計量経済学	2	必修
		マーケティングリサーチ	2	必修
プログラミング	2	必修		
医学部	教養教育科目	AI・数理・データサイエンス I	2	必修
		AI・数理・データサイエンス II	2	必修
理工学部	専門教育科目	微分積分学 I a	2	2 単位選択必修
		微分積分学 I b	2	
		線形代数学 I a	2	2 単位選択必修
		線形代数学 I b	2	
		微分積分学 II a	2	2 単位選択必修
		微分積分学 II b	2	
		線形代数学 II a	2	2 単位選択必修
		線形代数学 II b	2	
		データサイエンス I	2	必修
		データサイエンス II	2	必修
		コンピュータプログラミング	2	必修
		サブフィールドPBL	3	必修
		理エリテラシー-S3	1	必修
		農学部	教養教育科目	AI・数理・データサイエンス I
AI・数理・データサイエンス II	2			必修
専門教育科目	農業ICT学		2	必修
	基礎数学		2	2 単位選択必修
	基礎統計学		2	
	生物統計学		2	

別表 2 (第 3 条関係)

対象学部	対象コース	教育科目の区分	授業科目	単位数	修了要件
理工学部	機械エネルギー工学、メカニカルデザイン、 電気エネルギー工学、電子デバイス工学	専門教育科目	微分積分学 I a	2	2 単位選択 必修
			微分積分学 I b	2	
			線形代数学 I a	2	2 単位選択 必修
			線形代数学 I b	2	
			微分積分学 II a	2	2 単位選択 必修
			微分積分学 II b	2	
			線形代数学 II a	2	2 単位選択 必修
			線形代数学 II b	2	
			データサイエンス I	2	必修
			データサイエンス II	2	必修
			コンピュータプログラミング	2	必修
			サブフィールドPBL	3	必修
	理工リテラシーS3	1	必修		
	数理サイエンス、知能情報工学、情報ネットワーク工学、 生命化学、応用化学、物理学、都市基盤工学、 建築環境デザイン	教養教育科目	AI・数理・データサイエンス I	2	必修
			AI・数理・データサイエンス II	2	必修
		専門教育科目	サブフィールドPBL	3	必修
			理工リテラシーS3	1	必修
	データサイエンス	専門教育科目	サブフィールドPBL	3	必修
			理工リテラシーS3	1	必修
			実践データサイエンス	2	必修
データサイエンス演習			2	必修	

別記様式（第5条関係）

別記様式（第5条関係）（PDF）

令和6(2024)年度

教養教育センター 履修の手引き

佐賀大学

佐賀大学の教育目的

国際的視野を有し、豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個人を育成する。

佐賀大学 学士力

1. 基礎的な知識と技能

(1) 市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能

様々な学問分野(自然、文化、社会)における基本概念や思考方法を理解し、現代社会の諸問題を自らの力で合理的かつ論理的に推論し判断することができる。

(2) 市民社会の一員として思考し活動するための技能

- ① 日本語による文書と会話で他者の意思を的確に理解し、自らの意思を表現し、他者の理解を得ることができる。
- ② 英語を用いて知識を修得し、グローバル社会に向けて自らの考えを発信することができる。
- ③ 情報を収集し、その適正を判断し、適切に活用・管理することができる。

(3) 専門分野に必要とされる基礎的な知識・技能

専門分野について、基本概念や原理を理解して説明することができ、一般的に用いられている重要な技法に習熟している。

2. 課題発見・解決能力

(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力

現代社会における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集し分析することができる。

(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力

専門分野の課題を発見し、その解決に向けて専門分野の知識と技法を応用することができる。

(3) 課題発見につながる協調性と指導力

課題解決のために、他者と協調・協働して行動ができ、また、他者に方向性を示すことができる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力

歴史や文化・伝統などの違いを踏まえて、平和な社会の実現のために、自己と同時に他者の立場に立って物事を考えることができ、また自然環境や社会的弱者に配慮することができる。

(2) 地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力

地域や社会の様々な問題に関心を持ち、地域や社会における自らの役割を主体的に選択・決定し、課題に向けて、主体的に学び行動することができる。

(3) 高い倫理観と社会的責任感

高い倫理観によって社会生活で守るべき規範を遵守することができ、社会の健全な維持・発展に主体的に寄与する姿勢を身に付けている。

佐賀大学学士力と教養科目の対応表

	1. 基礎的な知識と技能			2. 課題発見・解決能力			3. 個人と社会の持続的発展を支える力		
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)
大学入門科目				○		○			
共通基礎科目		○							
基本教養科目	○								
インターフェース科目				○		○	○	○	○

全学教育機構 教育課程編成・実施の方針

教育課程の編成の方針

1. 基礎的な知識と技能の分野

教養教育において、文化と自然に関する授業科目(基本教養科目の自然科学と技術の分野、及び文化の分野)、現代社会と生活に関する授業科目(基本教養科目の現代社会の分野)、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目(大学入門科目、外国語科目、情報リテラシー科目及び基本教養科目の自然科学と技術の分野)を、必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。

教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における応用へと発展的な学習に繋げる。

2. 課題発見・解決能力の分野

教養教育において、様々な課題を探求し、少人数クラスでの検討を通じて解決の道を探るための授業科目を、初年次の必修として配置する(大学入門科目)。また、現代的な課題を発見・探究し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけさせるための科目を、必修として配置する(インターフェース科目等)。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力の分野

教養教育において、多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力、持続的な学習力と社会への参画力、及び高い倫理観と社会的責任感に関する授業科目を、必須として履修できるように配置する(インターフェース科目)。また、実践的なキャリア教育科目を配置する(総合科目)。

教育の実施体制

1. 教養教育の授業科目は、定められた人事方針のもと高度な専門性と教育力を有する専任教員と併任教員による授業科目と、学部協力教員の教養科目担当を配置し、実施する。
2. 教養教育は、全学教育機構の部会長会議・運営委員会が企画、立案、点検、および改善を行う。
3. 各学期末には学生による授業評価アンケートを実施し、これをもとに教員は授業改善を行う。

教育課程における教育・学習方法に関する方針

1. 講義形式による授業と演習・実習方式による授業とを組み合わせ、多様でバランスのとれた教育課程を実施する。
2. 基本教養科目(リベラルアーツ)、外国語能力、情報・科学リテラシー、問題発見・課題解決型授業等を通して、専門教育に繋げる教育を実施する。
3. 外国語教育(英語)においては、学習履歴や習熟度に応じたクラス編成をとり、発展的学習として留学を支援する国際化教育の特別プログラムを実施する。
4. 学修者の積極的・能動的な授業への参加を促す多様なアクティブ・ラーニングを実施し、アクティブ・ラーニングの手法・導入頻度をシラバスに明記する。
5. インターフェースプログラムに地域志向教育を導入し、社会の持続的発展と社会への参画力を支える力を養成する教育を実施する。

6. 復習時間を確保する環境を構築し、課題を提示しての授業時間外での学習時間を確保する。
7. ティーチング・ポートフォリオに基づいた教育理念と教育方法を学生に説明する。

学修成果の評価

1. 授業科目の学修成果を評価するために、授業科目担当教員は、測定する到達目標の特性に応じて、筆記試験、レポート(論文)、プレゼンテーション等により多面的評価を行う。グループワーク等のアクティブ・ラーニング型の授業科目においては、必要に応じて、ルーブリック評価を実施する。
2. 個別の授業科目の成績評価方法については、シラバスに明示する。
3. 成績評価は成績評価基準に基づき判定する。

評語 (評価)	評点	評価基準	合否判定	成績評定 (GP)
秀	90 点以上	学修到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を上げている。	合格	4
優	80 点以上 90 点未満	学修到達目標を十分に達成している。		3
良	70 点以上 80 点未満	学修到達目標をおおむね達成している。		2
可	60 点以上 70 点未満	学修到達目標を最低限達成している。		1
不可	60 点未満	学修到達目標を達成していない。	不合格	0

※評点は 0 点から 100 点とする。

※上記により評価が難しい授業科目は、合又は不可の評語によって表し、合を合格とし、不可を不合格とする。

4. 教育課程を通じた学修成果を、各授業科目の成績を用いて評価する。
5. 成績評価の結果は、評価分布等を使用して定期的に点検を行い、必要に応じて教育方法等の改善を行う。
6. 教員は試験問題、解答用紙、レポートを保存し、成績評価に対する説明責任を果たす。

教養教育科目の単位数・履修方法等早見表

卒業に必要な教養教育科目の単位数

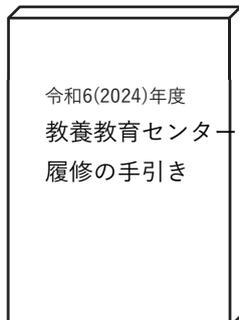
学部	学科・課程・コース	教養教育科目								
		大学入門科目	共通基礎科目			基本教養科目			インターフェース科目	合計
			外国語科目	情報リテラシー科目	情報基礎演習	自然科学と技術の分野	文化の分野	現代社会の分野		
教育学部	学校教育課程	2	4	2	1	「自然科学と技術の分野」、「文化の分野」の各分野から2単位以上、「現代社会の分野」から日本国憲法、体育実技Ⅰ及び体育実技Ⅱを含み4単位以上、計10単位以上			8	27
芸術地域 デザイン学部	芸術表現コース	2	4	2		各分野から2単位以上、計12単位以上			8	28
	地域デザインコース	2	4	2		各分野から2単位以上、計12単位以上			8	28
経済学部	経済学科	2	4	2		各分野から4単位以上、計14単位以上			8	30
	経営学科	2	4	2		各分野から4単位以上、計14単位以上			8	30
	経済法学科	2	4	2		各分野から4単位以上、計14単位以上			8	30
医学部	医学科	4	4	2	1	各分野から2単位以上、計14単位以上			8	33
	看護学科	2	4	2		各分野から2単位以上、計14単位以上			8	30
理工学部	理工学科	2	4	2		各分野から2単位以上、「文化の分野」及び「現代社会の分野」から8単位以上、計12単位以上			8	28
農学部	生物資源科学科	2	4	2	1	「自然科学と技術の分野」からAI・数理・データサイエンスⅠ、AI・数理・データサイエンスⅡを含め6単位以上、「文化の分野」、「現代社会の分野」の各分野から2単位以上、計12単位以上			8	29

便利なツール

学生生活における授業の疑問や悩みを、以下のツールで解決してみましょう。

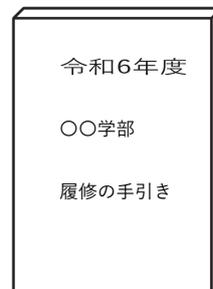
教養教育科目の内容について

この手引き又はシラバス(※)を参照してください。※シラバスについてはこの手引きの「2 シラバス」を参照してください。



専門教育科目の内容について

各学部の手引き(画像はサンプル)又はシラバス(※)を参照してください。佐賀大学 HP (<http://www.saga-u.ac.jp/>) へアクセスし、「在学生の方へ」→「履修の手引き」をクリック



授業の履修登録方法等について

LiveCampus 利用説明資料を参照してください。佐賀大学 HP (<http://www.saga-u.ac.jp/>) へアクセスし、「在学生の方へ」→「教務システム(LiveCampus)の利用について」をクリック



※シラバスについてはこの手引きの「2 シラバス」を参照してください。

その他授業に関する疑問について

佐賀大学 AI チャットボットを参照してください。
URL (<https://sdcunivchat.qabot.jp/>)



教養教育センター「履修の手引き」

目 次

1 はじめに:履修に際しての留意点	- 8 -
1-1 はじめに	- 8 -
1-1-1 単位	- 9 -
1-1-2 履修登録	- 9 -
1-1-3 単位の基準	- 9 -
1-2 卒業に必要な教養科目	- 10 -
1-2-1 教養科目の編成	- 10 -
1-2-2 卒業に必要な教養教育科目の単位数	- 11 -
1-2-3 教育職員免許状取得の要件となる授業科目	- 12 -
2 シラバス	- 13 -
3 大学からの連絡と掲示板	- 14 -
4 オンライン授業	- 15 -
5 教養教育科目の履修方法	- 17 -
5-1 大学入門科目	- 17 -
5-2 共通基礎科目	- 17 -
5-2-1 外国語科目	- 17 -
5-2-2 情報リテラシー科目	- 19 -
5-3 基本教養科目	- 19 -
5-3-1 基本教養科目の教育目標・目的・内容	- 19 -
5-3-2 総合科目	- 20 -
5-3-3 外国人留学生向けの授業科目:「日本事情」	- 20 -
5-3-4 授業科目の選択	- 20 -
5-3-5 授業科目の履修登録と抽選	- 21 -
5-3-6 他大学との単位互換制度	- 21 -
5-4 インターフェース科目	- 21 -
5-4-1 インターフェース科目の目的	- 21 -
5-4-2 インターフェース科目の構成	- 21 -
5-4-3 インターフェースプログラムの履修方法	- 22 -
5-4-4 インターフェースプログラムの登録	- 22 -

5-4-5 インターフェース演習科目	- 22 -
5-5 遠隔授業の履修について	- 22 -
6 特定の教育プログラム.....	- 23 -
6-1 佐賀大学データサイエンス教育プログラム(リテラシーレベル)	- 23 -
6-2 佐賀大学データサイエンス教育プログラム(応用基礎レベル)	- 24 -
7 副専攻について	- 26 -
7-1 欧米の言語文化専攻—英語コース	- 26 -
7-2 欧米の言語文化専攻—独語コース	- 28 -
7-3 歴史文化専攻	- 28 -
7-4 データサイエンス専攻	- 29 -
7-5 副専攻の認定.....	- 31 -
8 試験と再履修	- 32 -
8-1 定期試験.....	- 32 -
8-2 追試験	- 32 -
8-3 再試験	- 32 -
8-4 再履修	- 32 -
8-4-1 再履修.....	- 32 -
8-4-2 外国語科目の再履修・過年度履修	- 32 -
8-4-3 情報リテラシー科目の再履修.....	- 33 -
9 教養教育センター開講科目の概要	- 35 -
10 役立つリンク	- 56 -
10-1 時間割	- 56 -
10-2 教養教育関連事務手続日程.....	- 56 -
10-3 教養教育1号館・2号館 建物配置図	- 56 -
10-4 オンラインシラバス	- 57 -
10-5 LIVECAMPUS.....	- 57 -
10-6 佐賀大学規程集.....	- 57 -
11 令和6年度 教養教育センター開講科目一覧.....	- 58 -

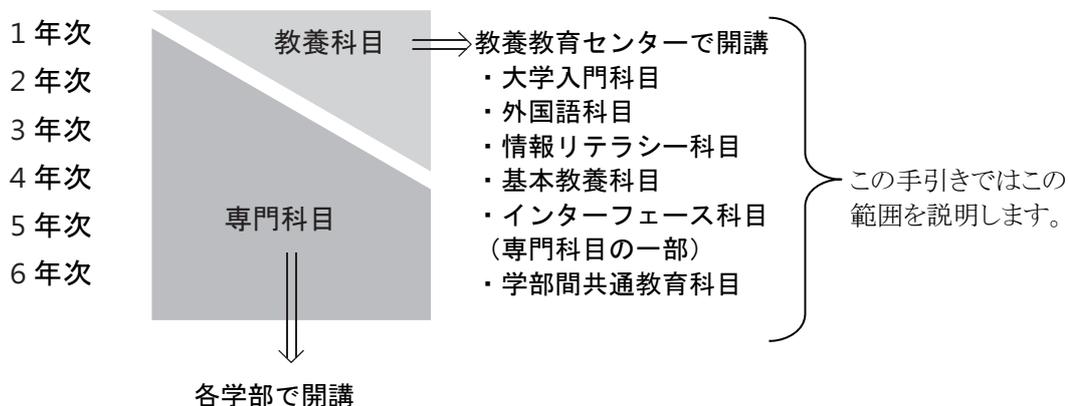
令和6年度 教養教育センター 履修の手引き

1 はじめに：履修に際しての留意点

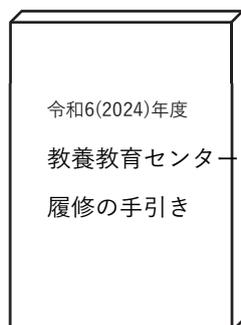
1-1 はじめに

佐賀大学(以下では、本学といいます。)の教育課程は、主に各学部において実施される専門教育科目と、主に教養教育センターで実施される教養教育科目から構成されています。この「履修の手引き」では、教養教育センターが開講する教養教育科目と専門教育科目の一部を履修する際に必要な事柄について説明します。

佐賀大学の教育課程



この手引き又はシラバス(※)を参照してください。※シラバスについてはこの手引きの「2 シラバス」を参照してください。



各学部の手引き(画像はサンプル)又はシラバス(※)を参照してください。佐賀大学 HP (<http://www.saga-u.ac.jp/>)へアクセスし、「在学生の方へ」→「履修の手引き」をクリック



LiveCampus 利用説明資料を参照してください。佐賀大学 HP (<http://www.saga-u.ac.jp/>)へアクセスし、「在学生の方へ」→「教務システム(LiveCampus)の利用について」をクリック



※シラバスについてはこの手引きの「2 シラバス」を参照してください。

佐賀大学 AI チャットボットを参照してください。URL (<https://sdcunivchat.qabot.jp/>)



1-1-1 単位

「単位制度」に基づいた本学の授業科目は、講義、演習、実験、実習もしくは実技で構成されています。そして、それぞれの授業で与えられる単位数は異なります。本学の教育課程を修了するためには、各学部が定める科目ごとの単位数をすべて満たす必要があります。詳しくは「1-2-2 卒業に必要な教養教育科目の単位数」を参照してください。

1-1-2 履修登録

単位を修得するためには、学期の初めの一定期間内に「履修登録」をする必要があります。基本的に、学内外のパソコン等からLiveCampusという教務システムを利用して行います。履修登録をしていない授業科目は、試験を受けても履修が無効となりますので履修登録は忘れないでください。教養教育科目については、一部事務が代行で履修登録を行う授業科目があります。科目区分と履修登録方法の対応は以下のとおりです。

科目区分	履修登録方法
大学入門科目	自分で履修登録を行います。新入生オリエンテーションでクラスが割り当てられますので、自分がどのクラスを履修すればよいか確認してから履修登録を行きましょう。
外国語科目 (英語、実践日本語)	「英語」は教務課が代行で履修登録を行います。ただし、再履修及び本来の履修年度と異なる年度に履修する場合には手続きが異なります。詳しくは「 8-4-2 外国語科目の再履修・過年度履修 」を参照してください。 外国人留学生向けの「実践日本語」は自分で履修登録を行います。
情報リテラシー科目	自分で履修登録を行います。一部の学部・学科では複数のクラスに分かれていますので、新入生オリエンテーションで自分がどのクラスを履修すればよいか確認してから履修登録を行きましょう。
基本教養科目・日本事情	自分で希望登録を行い、抽選によって履修科目が決まります。抽選で当選した科目には自動的に履修登録されます。抽選に漏れてしまった場合は、空きのある科目に追加で履修登録できます。 「日本事情」は外国人留学生向けの授業科目ですので、外国人留学生以外の学生は、誤って履修登録しないように注意しましょう。
インターフェース科目	自分で履修登録を行います。インターフェース科目は、4科目8単位で1つのプログラムになっているので、履修登録よりも前に「プログラム登録」を行う必要があります。詳しくは「 5-4-4 インターフェースプログラムの登録 」を参照してください。

1-1-3 単位の基準

本学では1単位の授業科目を「45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」と定められています。つまり、2単位を得るためには90時間の学修時間が必要です。そして、各授業の種類ごとに必要な授業時間数を次のように定めています。

本学では90分間の授業を2時間の授業とみなしますが、15回の授業では合計で30時間の学修時間にしかなりません。2単位の修得に必要な90時間の学修時間の残りの60時間は予習・復習などの自学自習の時間です。予習や復習も怠ることなく行ってください。

1-2 卒業に必要な教養科目

1-2-1 教養科目の編成

本学の教養教育は、次のような内容の科目により構成されています。これらの科目の概要については、[\[9 教養教育センター開講科目の概要\]](#)を参照してください。

科目区分	内 容
大学入門科目	高等学校と大学との教育の接続を図ります。
共通基礎科目	英語活用能力や、情報リテラシー能力の向上により、高度技術社会のなかで求められる知識や技能の修得を図ります。
基本教養科目	市民社会の諸相を「自然科学と技術」「文化」「現代社会」の視点から学びます。
インターフェース科目	大学で学んだことと社会とを接続し、個人と社会の持続的発展を支える力を育成します。

1-2-2 卒業に必要な教養教育科目の単位数

本学の教育課程を修了するために必要な教養教育科目の単位数は、各学部の学科や課程ごとに異なります。卒業に必要な教養教育科目の単位数を確認して履修登録してください。

卒業に必要な教養教育科目の単位数

学部	学科・課程・コース	教養教育科目								
		大学入門科目	共通基礎科目			基本教養科目			インターフェース科目	合計
			外国語科目	情報リテラシー科目		自然科学と技術の分野	文化の分野	現代社会の分野		
				英語	情報基礎概論					
教育学部	学校教育課程	2	4	2	1	「自然科学と技術の分野」、「文化の分野」の各分野から2単位以上、「現代社会の分野」から日本国憲法、体育実技Ⅰ及び体育実技Ⅱを含み4単位以上、計10単位以上			8	27
芸術地域デザイン学部	芸術表現コース	2	4	2		各分野から2単位以上、計12単位以上			8	28
	地域デザインコース	2	4	2		各分野から2単位以上、計12単位以上			8	28
経済学部	経済学科	2	4	2		各分野から4単位以上、計14単位以上			8	30
	経営学科	2	4	2		各分野から4単位以上、計14単位以上			8	30
	経済法学科	2	4	2		各分野から4単位以上、計14単位以上			8	30
医学部	医学科	4	4	2	1	各分野から2単位以上、計14単位以上			8	33
	看護学科	2	4	2		各分野から2単位以上、計14単位以上			8	30
理工学部	理工学科	2	4	2		各分野から2単位以上、「文化の分野」及び「現代社会の分野」から8単位以上、計12単位以上			8	28
農学部	生物資源科学科	2	4	2	1	「自然科学と技術の分野」からAI・数理・データサイエンスⅠ、AI・数理・データサイエンスⅡを含め6単位以上、「文化の分野」、「現代社会の分野」の各分野から2単位以上、計12単位以上			8	29

1-2-3 教育職員免許状取得の要件となる授業科目

本学では、多くの学部で様々な教育職員免許状が取得できます。教育職員免許状を取得する場合には、専門教育科目以外にも、教育職員免許法施行規則の第66条の6で「日本国憲法」、「外国語コミュニケーション」、「体育」及び「情報機器の操作」の修得が義務づけられています。本学では、それぞれの科目に対応する以下の授業が開講されています。

<教育職員免許法施行規則の第66条の6>

日本国憲法

外国語コミュニケーション

体育

情報機器の操作

<本学の授業科目>

→ 日本国憲法

→ 英語A、英語B、英語C、英語D

→ 体育実技 I、体育実技 II

→ (各学部の履修細則で確認)

2 シラバス

シラバスには、授業科目名、授業の開講年度・学期・曜日校時、授業担当教員、単位数のほか、授業計画、授業以外の学習、成績評価の方法と基準など、授業についての様々な情報が記載されています。履修登録前に「オンラインシラバス参照方法」を見て授業内容を確認しましょう。

オンラインシラバスの参照方法

①佐賀大学 HP (<http://www.saga-u.ac.jp/>) へアクセスし、「在学生の方へ」→「オンラインシラバス」をクリックします。

②「タイトル」「カテゴリ」(例えば、2024、教養教育科目)を選択し、「検索」ボタンを押してください。

教務関係

> 情報セキュリティについて

> 履修関係

(休講情報や時間割等、講義に関する情報を確認できます)

- 休講情報
- 補講情報
- 教務日程
- 学年暦
- 時間割
- 履修の手引き
- コースナンバリング
- シラバス説明文 (学生用)
- オンラインシラバス
- 共通シラバス
- 遠隔授業を受けるための準備について

シラバス検索

※ 検索したいタイトルは必須してください。
一部から科目を絞り込んでください。

講義部のシラバスはこちらから。
医学系研究科課程と理療のシラバスはこちらから。

タイトル

カテゴリ

検索条件

教員氏名

シラバス情報

開講学期

開講時期

科目コード

科目名

科目種別

曜日 指定なし 月 火 水 木 金 土 日 特設除外 集中講義

授業 指定なし 1 授業 2 授業 3 授業 4 授業 5 授業 6 授業 7 授業

③参照したい科目名をクリックすると和文のシラバスが表示されます。表示されない場合は、ページ右上のボタンで英文に切り替えてください

検索結果 547 件中、1 件目から 10 件目を表示 表示件数 件

< 1 2 3 4 5 ... 55 > 絞り込み

タイトル	カテゴリ	科目コード	科目名	担当教員	学年	クラス	開講学期	曜日・校時
2023年度	教養教育科目	G1110001	大学入門科目 I	古島 智恵	1年	a1	前期	火4、火5
2023年度	教養教育科目	G1110001	大学入門科目 I	野方 大輔	1年	a6	前期	金2
2023年度	教養教育科目	G1110001	大学入門科目 I	田中 宗浩 他	1年	a8	前期	月3
2023年度	教養教育科目	G1110001	大学入門科目 I	日川 隆	1年	a9	前期	火4

3 大学からの連絡と掲示板

大学からの授業連絡及び休講・補講の連絡は、LiveCampusを通して皆さんのパソコン・スマートフォン等へメールが届きます。もし、LiveCampusからのメールが届かない場合は、すぐに**教務課教務情報管理窓口(学生センター1階)**まで相談に来てください。履修関係や試験・成績などに関する重要な連絡は、原則としてLiveCampusの連絡通知又はホームページにより行います。

「定期的にLiveCampusからの連絡及びホームページを確認する」という習慣を身につけてください。

4 オンライン授業

佐賀大学には対面授業の他に、リアルタイム型のオンライン授業やネット授業のようなオンデマンド型のオンライン授業があります。

それぞれで受講方法が異なりますので、受講前に違いを理解し受講方法を確認しましょう。

●ネット授業とは？

ネット授業は 2002 年より他大学に先駆けて、フル e ラーニングで単位が取得できる授業として始まりました。オンデマンド型のオンライン授業の一種で、インターネットに接続されたパソコンがあれば、指定された講義日程にしたがってどこからでも繰り返して受講できます。何度も見直すことができるので、自分のペースでじっくりと学習することができます。

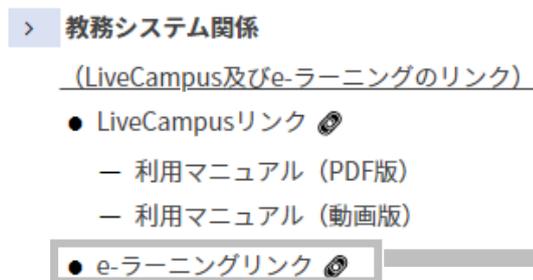
●受講方法

1.

オンラインシラバスで授業内容を確認し、通常の授業と同様に履修登録します。

2.

佐賀大学のホームページの【在学生の方へ】タブより、教務システム関係の【eラーニングリンク】をクリックし、【eラーニング(オンライン授業支援システム)】をクリックします。



3.

<<佐賀大学シングルサインオン ログイン認証へ>>をクリックし、「シングルサインオン ログイン認証」でユーザーID とパスワードを入力します。

※ ユーザーID は学籍番号、パスワードは総合情報基盤センターに登録したパスワードです。

4.

履修登録した科目をクリックし、学修を始めます。(画像は表示例)

まず初めに履修マニュアルを確認し、コース TOP に表示される案内事項を熟読の上、履修してください。

小テストや課題レポートの締切は自己管理となりますので、スケジュールをしっかりと確認しましょう。



●受講上の注意

- ① eラーニングコースや学籍番号のメールは定期的にチェックしましょう
- ② 期限までに課題（小テスト・レポート等）を提出しましょう
- ③ アクセス状況や受講履歴・課題提出状況等は記録されています

●オンライン授業について

佐賀大学では、オンライン授業のツールとして、ZoomやTeams、Moodle(オンライン授業支援システム)があります。どのツールを使用して授業を行うのかは担当教員の指示に従ってください。

TeamsやMoodleについてはMicrosoft365多要素認証や佐賀大学シングルサインオンログイン認証を利用してログインしますが、Zoomについては、利用開始時にアクティベートとパスワード設定を必要とします。

このページでは、Zoomのアクティベートについて解説をします。

●Zoomのアクティベートについて

入学後4月中旬以降に一斉に「佐賀大学Zoom管理者」よりアクティベートを依頼するメールが配信されます。メールの指示に従って登録をして下さい。

※差出人は「Zoom」、配信アドレスは「no-reply@zoom.us」です。登録の際には左記のアドレスより配信されている事を確認してください。

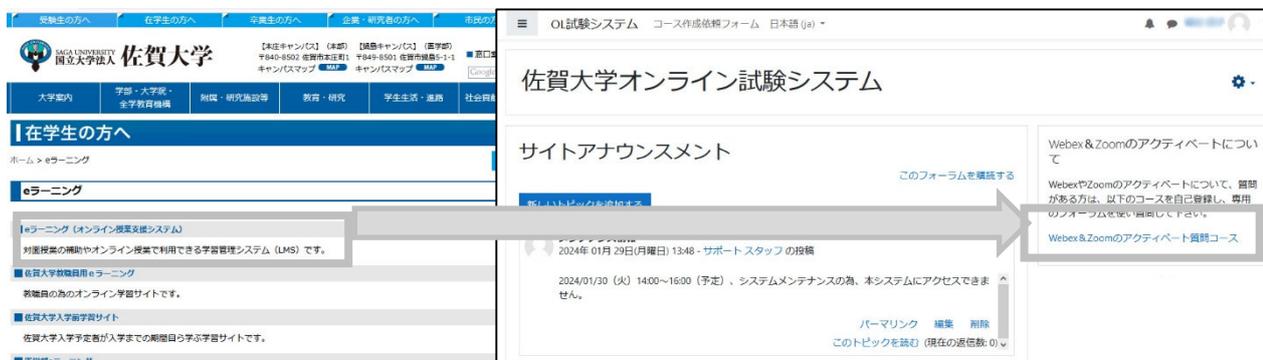


【Zoomアカウントのアクティベート】をクリックし、【パスワードでサインアップ】を選択してください。

このパスワードは、Zoomでのみ使用するパスワードです。パスワードポリシーはZoomに準拠してください。

このアクティベーションメールの有効期限は30日です。期間を過ぎてしまうとクリックしてもアクティベートすることが出来なくなります。

アクティベーションメールが無効になってしまった場合や、Zoomについての質問がある場合には、下記の「Zoom質問掲示板」へ書き込んでください。



佐賀大学公式サイト】→【eラーニング】をクリックし、【eラーニング(オンライン授業支援システム)】→【Zoomのアクティベートについて】内の【Zoomアクティベート質問コース】をクリックし、書き込んでください。

5 教養教育科目の履修方法

以下では、教養教育科目の履修方法について説明します。

5-1 大学入門科目

新入生に必要とされる学習及び生活に関するガイダンスや、各学部の特性に応じた導入教育などを内容としています。大学入門科目は、各学部の教育方針に沿って開講します。学科や課程によっては、前学期と後学期を通じて開講する場合がありますので、注意してください。

5-2 共通基礎科目

「外国語科目」、「情報リテラシー科目」は、学部・学科・コースなどで開講される曜日校時が異なりますので注意してください。

5-2-1 外国語科目

a) 英語

英語は、英語を用いて、専門分野の知識を修得し、自己の考えを発信できる力の修得を目標とし、1年次の前学期に「英語A」を、後学期に「英語B」を、2年次に「英語C」及び「英語D」を開講します。ただし医学部の学生には、1年次の前学期に「英語A」及び「英語B」を、後学期に「英語C」及び「英語D」を開講します（「[9 教養教育センター開講科目の概要](#)」参照）。「英語B」では、1年次の前学期に実施するTOEIC IPの成績によって、習熟度別クラスを編成します（医学部を除く）。「英語A」および「英語B」の授業では、それぞれの学部（一部は学科）ごとに、受講するクラスが指定されますので、指定されたクラスにおいて受講しなければなりません。「英語C」の授業では、外国人教員と日本人教員のクラスを学生が選択できます（医学部を除く）。「英語D」の授業では、e-learningを活用します（医学部を除く）。まず、自分が受講するクラスを確認しましょう。

b) 日本語

日本語は、外国人留学生（本学一般入試で合格し、入学した者は除く）を対象とし、日本語を用いて、専門分野の知識を修得し、自己の考えを発信できる力の修得を目標とします。日本語は「実践日本語C（以下、C）」、「実践日本語D（以下、D）」、「実践日本語E（以下、E）」、「実践日本語F（以下、F）」からなります。前学期には、D、Fが、後学期にはC、Eが開講されます。必要に応じ各学期の最初に行うプレースメントテストによって、日本語の能力に応じたクラスを編成します。掲示に注意してプレースメントテストを受けてください。

c) 外国語科目を履修する際その他の注意事項

① 外国人留学生の外国語科目履修についての特例(一般入試で合格し、入学した外国人留学生を除く)

外国人留学生は、母語以外の外国語科目(英語、日本語)を、2科目または1科目選択して履修することができます。つまり、1科目を修得する必要がある場合には、英語に代えて日本語のアカデミック・ジャパニーズを外国語科目として修得することができます。

② 英語能力・技能検定試験の単位認定

英語能力・技能検定試験を受験し一定の成績をおさめれば、その成績結果を、英語の単位として認定することができます。認定する英語能力・技能検定試験、及びそれぞれの検定試験成績の認定基準、認定科目、認定単位数、及び評価については、下の表を見てください。これらの検定試験で認定基準となる成績を取得し、認定を希望する場合には、原則として、学期始めの指定された期間内に、申請書及び合格を証明する書類を教養教育教務に提出してください。

ただし、次の点に注意してください。

(a) すでに修得した単位がある場合には、卒業に必要な単位数に不足している単位数までが認定されます。

(英語で、すでに3単位を修得している場合には、英検で1級を取得し2単位の認定を申請しても、認定されるのは1単位です。)

(b) 複数の能力・技能検定試験で同一レベルの成績を取得している場合には、1種類の成績だけが認定の対象となります。

例: 英検で準1級を取得し、すでに英語Bの認定を受けている場合、TOEICで650点を取得しても英検準1級と同一レベルの成績となるため、英語Cの認定を受けることはできません。

認定基準、認定科目、認定単位数、及び評価

認定科目	認定対象とする学修	オンライン方式による認定	認定基準・認定単位数		評価
英語B 英語C	TOEFL*1 iBT*2	可	71-83	1 単位	認定
			84 以上	2 単位まで	
	TOEFL ITP*3 (Pre-TOEFL*4 は含まない)	—	520-560	1 単位	
			561 以上	2 単位まで	
	TOEIC® L&R*5 (TOEIC IP*6 を含む)	可 (オンライン不可*7)	640-760	1 単位	
			765 以上	2 単位まで	
	英検 (実用英語技能検定試験)	可(英検 S-CBT)	準1 級	1 単位	
			1 級	2 単位まで	
	IELTS	可 (オンライン不可*7)	5.0 以上	1 単位	
			6.0 以上	2 単位まで	
	TEAP	—	308 点以上	1 単位	
			342 点以上	2 単位まで	
TEAP CBT	—	595 点以上	1 単位		
		698 点以上	2 単位まで		

*1 TOEFL - Test of English as a Foreign Language

*2 iBT - Internet-Based Test (インターネット版)

- *3 ITP - Institutional Testing Program (団体向けTOEFLテストプログラム)
- *4 Pre-TOEFL - TOEFL ITP Level 2
- *5 TOEIC - TOEIC® Listening & Reading Test
- *6 IP - Institutional Program (団体特別受験制度)
- *7 自宅受験したものについては、不正防止の観点から認定不可とする。

③ TOEIC IPテストを利用した全学統一英語能力テストの実施

本学では、英語学習について明確な学習目標を与えることで、学生の皆さんの自律的かつ持続的学習を促すとともに、入学後の英語力の推移を測定・検証し、本学の英語教育の改善と大学全体としての英語力の向上を図るため、「全学統一英語能力テスト」と称してTOEIC IPテストを実施しています。1年次前期の1回目のテストは義務化されていますが、2年次後期(医学部については1年次後学期)の2回目は任意となっています。なお、実施日時、実施場所等の詳細については、学年暦や通知等で別途周知します。

○テスト結果の利用

1年次の前学期に受験し、自らの英語力を測定して、今後の学習目標や方向性を定めます。また、2年次の後学期(医学部は1年次後学期)の受験結果については、学生が自らの英語力の推移を測定するために利用します。

※TOEIC Programの実施団体である一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会及びIPテスト委託業者へ個人情報を提供します。

5-2-2 情報リテラシー科目

情報リテラシー科目は、「情報を収集し、その適正を判断し、適切に活用・管理する」力の修得を目標とする「情報基礎概論」と、「情報及び情報を処理する技術」の修得を目標とする「情報基礎演習」とによって構成されます。「情報基礎概論」は講義科目(2単位)、「情報基礎演習」は演習科目(1単位)です。「情報基礎概論」及び「情報基礎演習Ⅰ」は、各学部・学科・課程が必要に応じて開講しますので、所属する学科・課程が履修を要するかどうかを「履修細則」などで確認してください。

5-3 基本教養科目

5-3-1 基本教養科目の教育目標・目的・内容

基本教養科目は、「世界を認識するための幅広い知識」や「健全な社会や健康的な生活に関する知識」を修得し、高い市民性を培うことを教育目標とします。基本教養科目は、原則として1年次及び2年次に履修します。各学部の「履修の手引き」などに記載されている「履修細則」や、「[1-2-2 卒業に必要な教養教育科目の単位数](#)」に従って、「自然科学と技術の分野」、「文化の分野」及び「現代社会の分野」から選択して履修してください。各分野の授業科目の目的と内容は、次のとおりです。

分野	授業科目の目的と内容
自然科学と技術	自然を科学的な目で認識し、主体的な判断に基づき行動する素養を身につけることを目的とし、科学・技術の基本的な概念・科学的思考方法・科学的認識の歴史などや、現代社会における科学・技術の役割と限界などを内容とする。

文化	文化の捉え方や違い、歴史的変遷などの理解によって世界を認識し、その下に行動する素養を身につけることを目的とする。言語と文化、文学と芸術、言語と表現、歴史と文化などを内容とする。
現代社会	現代社会の現状を捉え、健全な社会と生活の質の向上に向けて、主体的に判断し行動できる素養を身につけることを目的とし、基礎社会科学や教育と人間、現代社会の構造などを内容とする。

5-3-2 総合科目

基本教養科目には、総合科目として「海外交流科目群」及び「キャリア教育科目群」を設けています。

なお、総合科目の履修により習得した単位は、4単位を上限として基本教養科目の各分野のいずれかの単位として含めることができます。

(1) 海外交流科目群

海外交流科目群には、「海外交流実習」、「Online Immersion Program」及び「Overseas Practicum」があります。大学が定めた海外での様々な学習活動プログラムに基づいて行われる授業です。この授業科目の履修は本学の基本教養科目の履修として認定され、各分野いずれかの単位数に含めることができます。授業計画がまとめ次第、履修希望者を募ります。

※一度単位を修得した授業科目を再度履修することはできません。なので、例えば2単位科目「海外交流実習」で修得できる単位数は2単位までです。

(2) キャリア教育科目群

キャリア教育科目群は、自らの興味や適性を理解し、さらに企業や社会の仕組み、多様な働き方を知ることで、将来のキャリアビジョンを明確化していくことを目的としています。

「キャリアデザイン」は、第一線で活躍する社会人を講師に迎え、多様な働き方を学ぶことができます。また就職活動や卒業後のキャリアデザインに必要な知識を学びます。「グループワークの技法と実践」では、企業や団体等の採用選考にも用いられることが多いグループワークの技法を学び、それらを実践することでコミュニケーション力やファシリテーション力を養成します。

「チャレンジ・インターンシップA・B」では、企業や自治体等と協力し、就業体験を通じて、「チームで仕事をするための基礎的な知識と能力」を育成します。

「ライフデザインとセルフ・リーダーシップ」では、ライフマネジメントを行うためのセルフ・リーダーシップ(セルフ・コーチング)の手法を修得します。

5-3-3 外国人留学生向けの授業科目:「日本事情」

外国人留学生は、基本教養科目として「日本事情」を履修することができます。「日本事情」は、「日本事情－自然科学と技術」、「日本事情－文化」、「日本事情－現代社会」からなりますが、「日本事情－自然科学と技術」は自然科学と技術の分野の、「日本事情－文化」は文化の分野の、「日本事情－現代社会」は現代社会の分野の授業科目です。ただし、学部・学科・課程によっては、これらの授業科目のうちで、卒業に必要な単位数に含めることができるものを限定している場合がありますので、履修する際には、この点を各学部の「履修細則」で確認してください。

5-3-4 授業科目の選択

授業科目は、シラバス(「2 シラバス」参照)と時間割を確認して、選択してください。各分野の「区分」は、授業科

目を便宜的に整理したものですので、どの区分から選択しても構いません。ただし、授業科目の内容によっては、受講できない学科や課程、または学年が指定されている授業科目がありますので、選択する際には、シラバスをよく読んで確認してください。また、後にも述べる「副専攻プログラム欧米の言語文化専攻—英語コース」、「副専攻プログラム欧米の言語文化専攻—独語コース」及び「副専攻プログラム歴史文化専攻」の履修を認められた学生は、それぞれのプログラムが指定する授業科目を優先して選択し、その上で、卒業に必要な基本教養科目の単位数を満たすために必要な授業科目を選択してください。履修する順序は、特に指定がなければどの授業科目が先でも構いません。

佐賀大学 HP 時間割 <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/jikanwari.html>

5-3-5 授業科目の履修登録と抽選

履修を希望する基本教養科目の授業科目は、学期ごとに指定された期間内に履修登録をしなければなりません。各授業科目の履修希望者が使用する教室の収容可能な人数を超えた場合、また授業を効果的に行うために必要な人数の制限を超えた場合には、抽選を行って履修者を決定します。もし、抽選に漏れた場合には、人数に余裕のある別の授業科目への履修登録を行うことができます。

佐賀大学 HP 教務日程 <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/schedule.html>

5-3-6 他大学との単位互換制度

本学は、佐賀県内の6大学・短大で構成する大学コンソーシアム佐賀に参加しており、これらの大学で履修した授業科目の単位を本学の卒業要件単位数として認定する制度を作っています。詳細については、下記を参照してください。

佐賀大学 HP 単位互換 <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/tani.html>

5-4 インターフェース科目

5-4-1 インターフェース科目の目的

インターフェース科目は、「現代社会が抱える諸問題に目を向けて課題を発見し解決に取り組む姿勢を養い、社会に対応するための知識・技術・技能や社会を生きるための力を身に付けることにより、学士課程教育で得た知識・技能を社会において十分に活かし、将来にわたり個人と社会との持続的発展を支える力を培う」ことを目標としています。すなわち、インターフェース科目は、専門の知識・技術・技能を身につけた皆さんが、そうした知識・技術・技能を社会に活かすための能力を培うための科目です。

5-4-2 インターフェース科目の構成

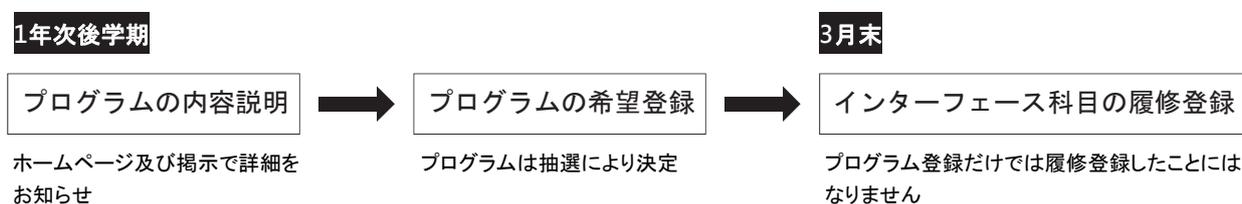
インターフェース科目は、関連する4つの授業科目からなる「インターフェースプログラム」と、プログラムの担当教員が必要に応じて開講する「インターフェース演習」とで構成されています。プログラムの授業科目は、インターフェースプログラム名にⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの番号が付されています。インターフェースプログラムの授業科目は、講義だけでなく、学生自らが主体的に参加する演習、調査、報告あるいは対話などを組み合わせ、「アクティブ・ラーニング」を志向します。

5-4-3 インターフェースプログラムの履修方法

インターフェースプログラムは、複数のプログラムから1つのプログラムを選択して登録します。登録したインターフェースプログラムでは、授業科目のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを、原則として順次履修します。インターフェースプログラムでは、関連した4つの授業科目(8単位)をすべて修得しなければなりません。

5-4-4 インターフェースプログラムの登録

インターフェースプログラムの登録を、履修登録とは区別して「プログラム登録」と呼びます。プログラム登録は、原則として、1年次の後学期の終わりまでに行わなければなりません。各インターフェースプログラムの内容、履修の申し込み期間、履修者決定方法等についてはホームページ及び掲示板に掲載しますので、注意しておいてください。プログラム登録していないインターフェースプログラムの授業科目を履修することはできません。また、インターフェースプログラムの授業科目の履修には、プログラム登録とは別に、科目ごとの履修登録が必要です。2年次後学期以降に転入学、編入学、再入学した学生は、3年次の前学期にプログラム登録を行うことができます。



5-4-5 インターフェース演習科目

「インターフェース演習」の授業科目は、インターフェースプログラムの教育内容をさらに深めるために、必要に応じて、インターフェースプログラムの担当教員が開講します。インターフェース演習の授業科目を開講する際には、ホームページ又は掲示によって履修希望者を募ります。また、インターフェース演習の授業科目で修得した単位を、インターフェースプログラムの授業科目の単位として認めることがあります。詳しくは、プログラム担当の教員に相談してください。

5-5 遠隔授業の履修について

遠隔授業の履修により修得した単位は、卒業に必要な単位数へ算入できる数に上限があります。具体的な上限数は、学部学科により異なりますが、そのうち教養教育科目については26単位までと決まっています。上限数を超えて修得した単位は、卒業要件外となります。教養教育科目、とりわけ基本教養科目の履修計画を立てる際には注意してください。

なお、ここでいう遠隔授業とは、全授業回数のうち半分以上を遠隔でしか受講できない授業のことを指します。どの科目が遠隔授業に該当するのかについては、学期毎に発表される時間割により確認してください。

6 特定の教育プログラム

教養教育センターでは、教養教育科目などを利用して、特定の教育目的をもった教育プログラムを実施しています。これらのプログラムは、教養教育の教育目的を果たしながら、同時に特定の教育目的を追求するものです。

6-1 佐賀大学データサイエンス教育プログラム(リテラシーレベル)

本プログラムは、日常生活や仕事等の場で数理・データサイエンス・AIを利活用できる基礎的素養を身に付け、これらを問題解決や他者との円滑なコミュニケーション等に正しく活用できる人材を育成することを目的としています。本プログラム修了者には、卒業時に修了証を発行します。

本プログラムでは、以下の学習到達目標を定めています。

1 社会におけるデータ・AI利活用

- 1.1 データ・AIがもたらす社会の変化やAIを活用したビジネス/サービスを知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する。
- 1.2 収集されているデータの種類やその活用事例を知る。
- 1.3 データ・AI活用領域の広がり理解し、データ・AIの活用事例を知る。
- 1.4 データ・AIの活用を支える技術の概要およびAIの可能性と限界を知る。
- 1.5 データ・AIの活用とそれによる価値創造の現状を知る。
- 1.6 データ・AIの利活用における最新動向を知る。

2 データリテラシー

- 2.1 データを適切に読み解く力を身に付ける。
- 2.2 データを適切に説明する力を身に付ける。
- 2.3 データを扱うための基本的な能力を身に付ける。

3 データ・AI利活用における留意点

- 3.1 データ・AIを利活用する際の倫理と法を理解する。
- 3.2 データ駆動型社会における脅威(リスク)を理解する。
- 3.3 データを守るために留意すべき事項を理解する。

本プログラム(リテラシーレベル)は、全学部で必修となっており、卒業に必要な単位をすべて修得すると、自動的に本プログラムも修了できます。本プログラムの授業科目と必要な単位数は以下の表のとおりです。所属学部によって授業科目が異なりますが、本プログラムの該当部分については、共通の内容となっています。

佐賀大学データサイエンス教育プログラム(リテラシーレベル)の修了に必要な授業科目と単位数

対象学部	教育科目の区分	授業科目	単位数	修了要件
教育学部	教養教育科目	情報基礎概論	2	必修
芸術地域デザイン学部	教養教育科目	情報基礎概論	2	必修
経済学部	教養教育科目	大学入門科目	2	必修
		情報基礎概論	2	必修
	専門教育科目	基本統計学	2	必修
		基本マイクロ経済学	2	必修
		基本経営学	2	必修
		基本法学	2	必修
医学部	教養教育科目	情報基礎概論	2	必修

理工学部	専門教育科目	理工リテラシーS1	1	必修
		理工リテラシーS2	1	必修
		データサイエンスⅠ	2	必修
		データサイエンスⅡ	2	必修
農学部	教養教育科目	情報基礎概論	2	必修

上記に関わらず、理工学部及び農学部の3年次編入学生については、次の表のとおりとなります。

対象学部	教育科目の区分	授業科目	単位数	修了要件
理工学部*	専門教育科目	AI・数理・データサイエンスリテラシーS	1	選択必修
		AI・数理・データサイエンスリテラシーL	2	
		データサイエンスⅠ	2	
		データサイエンスⅡ	2	
農学部	専門教育科目	情報リテラシー学	2	必修

* 理工学部については、コースごとに指定された授業科目を履修します。

6-2 佐賀大学データサイエンス教育プログラム(応用基礎レベル)

本プログラムは、数理・データサイエンス・AIに関する基礎能力を有するとともに、これを自らの専門分野や関連分野などへ応用して、課題解決や価値創造などに活かせる人材を育成する。することを目的としています。本プログラム修了者には、リテラシーレベル同様、卒業時に修了証を発行します。

本プログラムでは、以下の学習到達目標を定めています。

1 データサイエンス基礎

- 1.1 データ駆動型社会においてデータサイエンスを学ぶことの意義を理解する。
- 1.2 分析目的に応じ、適切なデータ分析手法、データ可視化手法を選択できる。
- 1.3 データ・AI利活用に必要な数学の基礎を理解する。
- 1.4 データ・AI利活用に必要なアルゴリズムの基礎を理解する。

2 データエンジニアリング基礎

- 2.1 データを収集・処理・蓄積するための技術の概要を理解する。
- 2.2 コンピュータでデータを扱うためのデータ表現の基礎を理解する。
- 2.3 データ・AI利活用に必要なプログラミングの基礎を理解する。

3 AI基礎

- 3.1 AIのこれまでの変遷、各段階における代表的な成果物や技術背景を理解する。
- 3.2 AIが社会に受け入れられるために考慮すべき点を理解する。
- 3.3 自らの専門分野にAIを応用する際に求められるモラルや倫理について理解する。
- 3.4 機械学習、深層学習等の基本的な概念を理解する。
- 3.5 複数のAI技術が組み合わされたAIシステムの例を説明できる。
- 3.6 AI技術を活用し、課題解決に活かすことができる。

本プログラム(応用基礎レベル)は、理工学部と農学部で必修となっており、卒業に必要な単位をすべて修得すると、自動的に本プログラムも修了できます。一方、教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部及び医学部の4学部では、希望する学生だけが履修できるようになっています。基本教養科目の「AI・数理・データサイエンスⅠ」を履修登録することで、プログラム受講生として登録されます。本プログラムの授業科目と必要な単位数は以下の表のと

おりです。所属学部によって授業科目が異なりますが、本プログラムの該当部分については、共通の内容となっております。

佐賀大学データサイエンス教育プログラム（応用基礎レベル）の修了に必要な授業科目と単位数

対象学部	教育科目の区分	授業科目	単位数	修了要件
教育学部	教養教育科目	AI・数理・データサイエンス I	2	必修
		AI・数理・データサイエンス II	2	必修
芸術地域デザイン学部	教養教育科目	AI・数理・データサイエンス I	2	必修
		AI・数理・データサイエンス II	2	必修
経済学部	教養教育科目	AI・数理・データサイエンス I	2	必修
		AI・数理・データサイエンス II	2	必修
	専門教育科目	基本統計学	2	必修
		経済数学	2	必修
		統計学	2	必修
		統計学演習	2	必修
		計量経済学	2	必修
マーケティングリサーチ	2	必修		
プログラミング	2	必修		
医学部	教養教育科目	AI・数理・データサイエンス I	2	必修
		AI・数理・データサイエンス II	2	必修
理工学部	専門科目	微分積分学 I a	2	必修
		微分積分学 I b	2	必修
		線形代数学 I a	2	必修
		線形代数学 I b	2	必修
		微分積分学 II a	2	必修
		微分積分学 II b	2	必修
		線形代数学 II a	2	必修
		線形代数学 II b	2	必修
		データサイエンス I	2	必修
		データサイエンス II	2	必修
		コンピュータプログラミング	2	必修
		サブフィールド PBL	3	必修
		理工リテラシー S3	1	必修
農学部	教養教育科目	AI・数理・データサイエンス I	2	必修
		AI・数理・データサイエンス II	2	必修
	専門教育科目	基礎数学	2	2 単位選択必修
		基礎統計学	2	
		生物統計学	2	

7 副専攻について

これからの新しい社会を生き抜くために必要な実用的能力を、実践や実技を通して幅広く習得させることを目的として、副専攻を実施します。

佐賀大学副専攻プログラム

プログラム名	対象学生	募集時期
欧米の言語文化専攻—英語コース	医学部以外の学部学生	入学手続き時
欧米の言語文化専攻—独語コース	全学部学生	1年次後学期
歴史文化専攻	全学部学生	1年次後学期
データサイエンス専攻	全学部学生	1年次前学期

副専攻プログラムのホームページからも確認できます。

<https://www.oge.saga-u.ac.jp/subspeciality/>



7-1 欧米の言語文化専攻—英語コース

医学部を除くすべての学部の正規課程に在籍する学生が対象です。

学部の専攻分野を問わず、国際的な知識と視野を持ち、英語での情報の正確な受信と積極的な発言ができるコミュニケーション能力を持ったグローバル人材の育成を目標としています。英語で行われるインタラクティブな授業と必修の短期留学(派遣・オンライン)で、国際プロジェクトでリーダーシップが取れる英語力を目指します。*CEFR B2を目標

本プログラムは、留学への意欲と一定の英語力を有する学生を対象に、主に英語を用いた指導体制と授業科目とによって教育を行うもので、入学時に実施される選抜テストにより本プログラムの履修を認められた学生は、次頁の表に掲げる授業科目を履修する必要があります。

ただし、表に掲げる授業科目は卒業に必要な教養教育科目の一部です。不足する授業科目については、各学部・学科・課程の卒業に必要な教養教育科目の単位数(P4)を参考に、漏れのないように履修してください。

※1年次生の追加募集をすることがあります。

欧米の言語文化専攻—英語コースの授業科目及び単位数

科目区分	分野等	科目	単位数	必修・選択	備考
基本教養科目	文化の分野	Intensive English I	2	4 単位必修	学部・学科の 修了要件単 位に含まれる
		Intensive English II	2		
		アカデミック英語	1	2 単位 選択必修	
		ビジネス英語	1		
		Critical Thinking for the Modern Age	2		
		Cultural Metaphors	2		
		Western Culture	2		
	現代社会の分野	Citizenship Education	2		
		Introduction to Sociology	2		
		Life in the Global World	2		
		Aspects of Modern Society	2		
	総合科目	Online Immersion Program	2	2 単位 選択必修	
Overseas Practicum		2			
海外交流実習*		2			
インターフェース科目	文化と共生コース	Intercultural Communication I	2	8 単位 必修	
		Intercultural Communication II	2		
		Intercultural Communication III	2		
		Intercultural Communication IV	2		

* 海外交流実習の科目は、英語圏の大学または実習が英語で行われる大学に限ります。派遣先、派遣期間、参加費用、内容等は留学生交流室へお問い合わせください。

お問い合わせ - 佐賀大学国際交流推進センター

<https://www.irdc.saga-u.ac.jp/ja/contact/>



7-2 欧米の言語文化専攻—独語コース

本プログラムは、各学部で専門分野を学んでいる全学生に英語以外の外国語としてドイツ語を習得する機会を提供するものです。基本教養科目「ドイツの言語と文化」Ⅰ・Ⅱで初級文法を学んだ後、インターフェース科目「ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化」Ⅰ～Ⅳでさらにドイツ語の文法力、読解力をつけ、3年間の継続的な学びを通してプログラム修了時に中級レベルに達することを目指します。

本プログラムの授業科目と必要な単位数は以下の表のとおりです。

プログラムの登録に際しては、「ドイツの言語と文化Ⅰ」と「ドイツの言語と文化Ⅱ」を履修している1年生を対象に12月中旬に希望者を募ります。前期の「ドイツの言語と文化Ⅰ」は3クラス(水1、水3、木1)、後期の「ドイツの言語と文化Ⅱ」は2クラス(水3、木1)で開講していますので、登録を希望する人は必ず1年次に履修してください。

欧米の言語文化専攻—独語コースの授業科目及び単位数

科目区分	分野又はコース	科目	単位数	必修・選択	備考
基本教養科目		ドイツの言語と文化Ⅰ	2	4単位 必修	学部・学科の修了要件単位に含まれる
		ドイツの言語と文化Ⅱ	2		
	文化の分野	Cultural Metaphors	2	4単位 選択必修	
		Western Culture	2		
		アカデミック独語	1		
		ドイツ文学A	1		
		ドイツ文学B	1		
		ドイツ文化論A	2		
		ドイツ文化論B	2		
	現代社会の分野	Life in the Global World	2		
		Aspects of Modern Society	2		
総合科目	海外交流実習*	2			
インターフェース科目	文化と共生コース	ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅰ	2	8単位 必修	
		ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅱ	2		
		ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅲ	2		
		ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅳ	2		

*海外交流実習は、ドイツ研修旅行に限ります。

7-3 歴史文化専攻

本プログラムは、基本教養科目とインターフェース科目を組み合わせた一連の教育を通して、歴史文化の知識、リサーチリテラシー、観察力、分析力、思考力、判断力、行動力、プレゼンテーション能力と文章作成能力を身につけた人材を育成することを目指しています。

予備知識は必要ありません。高校時代に日本史または世界史を学んでいなくても大丈夫です。

歴史文化専攻の授業科目及び単位数は、次頁の表のとおりです。

歴史文化専攻の授業科目及び単位数

授業科目の区分	分野又はコース	授業科目	単位数	必修・選択	備考
基本教養科目	自然科学と技術の分野	肥前セラミック学	2	8単位 選択必修	学部・学科の 修了要件単 位に含まれ る
		文化の分野	欧米の文化・文学		
	芸術論(副題:美術)		2		
	考古学		2		
	日本史		2		
	西洋史		2		
	哲学の世界		2		
	地域史		2		
	文化の分野特別講義(九州学Ⅰ)		2		
	現代社会の分野		社会思想		
		アジアコミュニティ論	2		
	インターフェース科目	文化と共生コース	歴史文化Ⅰ		
歴史文化Ⅱ			2		
歴史文化Ⅲ			2		
歴史文化Ⅳ			2		

7-4 データサイエンス専攻

本プログラムは、専門教育科目と教養教育科目を組み合わせ、文系学生(教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部)に数学や情報に関する科目を、理系学生(医学部、理工学部、農学部)に会計、経営、法律に関する科目を受講させる分野横断的な教育を提供することで、数理・データサイエンス・AIの理解と応用能力を兼ね備え、社会課題の解決や価値創造によって持続可能な社会構築に寄与する人材の育成を目的としています。

データサイエンス専攻の授業科目及び単位数は、次頁の表のとおりです。表1は教育学部学生、芸術地域デザイン学部学生、経済学部学生を対象とし、表2は医学部学生、理工学部学生、農学部学生を対象としています。

(表1) 対象:教育学部・芸術地域デザイン学部・経済学部の学生

授業科目の区分	分野又はコース	授業科目	単位数	必修・選択	備考
佐賀大学データサイエンス教育プログラム	各学部	リテラシーレベルプログラム	2~12	学生の所属する学部毎に定めているプログラムの対象となる授業科目を修了	16 単位以上
	各学部	応用基礎レベルプログラム	4~18		
専門教育科目	理工学部	線形代数学 I b	2	10 単位 選択必修	
	理工学部	線形代数学 II b	2		
	理工学部	データサイエンス I	2		
	理工学部	データサイエンス II	2		
	理工学部	コンピュータプログラミング	2		
	農学部	農業 ICT 学	2		
教養教育科目	自然科学と技術の分野	数理の世界	2		
	自然科学と技術の分野	情報科学の世界 I	2		
	自然科学と技術の分野	情報科学の世界 II	2		
	文化の分野	コミュニケーション論	2		
	現代社会の分野	プレゼンテーション・デザイン	2		

(表2) 対象:医学部・理工学部・農学部の学生

授業科目の区分	分野又はコース	授業科目	単位数	必修・選択	備考
佐賀大学データサイエンス教育プログラム	各学部	リテラシーレベルプログラム	2~12	学生の所属する学部毎に定めているプログラムの対象となる授業科目を修了	16 単位以上
	各学部	応用基礎レベルプログラム	4~18		
専門教育科目	経済学部	マーケティングリサーチ	2		
	経済学部	統計学	2		
	経済学部	計量経済学	2		
教養教育科目	文化の分野	コミュニケーション論	2	10 単位 選択必修	
	現代社会の分野	会計学	2		
	現代社会の分野	経営学	2		
	現代社会の分野	法律学	2		
	現代社会の分野野	現代特別 (グローバル化と証券投資)	2		
	現代社会の分野野	現代特別 (金融リテラシーと生命保険)	2		
	現代社会の分野	プレゼンテーション・デザイン	2		

7-5 副専攻の認定

プログラム毎に定められた修了に必要な単位数を修得することで、副専攻の修了が認められます。

副専攻の修了が認められた学生は、大学の卒業時に副専攻の修了証書が授与されます。

また、3年次前学期終了時において修了に必要な単位の4分の3以上を修得できている場合は、「修了見込証明書」の発行を申請することができます。

8 試験と再履修

8-1 定期試験

教養教育センターの各授業科目を履修した場合には、試験やレポートなどによって成績が判定され、合格者には所定の単位が与えられます。各授業科目の成績評価の方法については、それぞれの授業科目のシラバスに記載されています。試験は、原則として各学期の終わりに一定の試験期間を公示して行われます。これを定期試験といいます。これ以外にも、授業中に小テストなどが実施される場合があります。

定期試験において不正行為を行ったときは、その定期試験期間中に受験したすべての試験科目の成績は、所定の手続きを経て無効(失格)になります。

8-2 追試験

病気などやむを得ない理由によって定期試験を受験できなかった場合、所定の追試験願を提出して認められた学生には、追試験が実施されます。やむを得ない理由とは、天災、事故、病気、肉親の死亡(二親等以内)、大学院受験、就職試験(日時を指定された会社訪問や説明会を含みます。)、大学が行う資格等の取得に必要な実習等です。追試験を希望する場合には、願書に欠席の理由を証明する書類を添えて、公示された定期試験期間の最終日から7日以内に、教養教育教務に提出しなければなりません。ただし、就職試験等で事前に定期試験を受験できないことが明らかな場合には、事前に願書及び必要な書類を提出しなければなりません。

8-3 再試験

定期試験で不合格と判定された授業科目については、再試験が行われることがあります。ただし、外国語科目の英語については、再試験は行われません。

再試験が行われる授業科目は、成績開示日に、学生センター掲示板に発表されますので確認してください。再試験の受験を希望する場合には、発表の日から7日以内に、所定の再試験願を教養教育教務に提出しなければなりません。再試験に合格した場合の成績は、60点とします。

8-4 再履修

8-4-1 再履修

履修した授業科目に不合格の判定が下された場合、もしもその科目が卒業に必要な科目であれば、その科目を再履修しなければなりません。再履修は、不合格になったすべての科目について可能ですが、共通基礎科目の場合には、以下のとおり科目ごとに履修クラスが指定されています。

8-4-2 外国語科目の再履修・過年度履修

(1) 英語

英語の授業科目は「英語A」、「英語B」、「英語C」、「英語D」からなります。不合格になった場合、「英語A」と「英語B」については、次学期以降に同じ授業科目を通常のクラス、または再履修クラスで受講することになります。「英語C」は、「英語C」の再履修クラス(e-learning)で履修します。また、「英語D」については、再度同じ「英語D」のe-learningクラスで受講することになります。医学部についても、「英語D」のe-learningクラスで再履修します。

なお、休学や編入学などの理由で本来の履修年度とは異なる年度に履修する場合(「過年度履修」といいます。)も、再履修と同様の履修方法となります。

(2) 日本語

日本語も同じ授業科目で再履修します。例えば「実践日本語C」の再履修は「実践日本語C」で行いますが、再履修するクラスは、各学期の始めに行うプレースメントテストで決定されます。

8-4-3 情報リテラシー科目の再履修

情報リテラシー科目は、2年次以降に再履修ができます。再履修するクラスは、原則として、所属する学部・学科用のクラスとしますが、この指定クラスでの再履修が困難な場合には、指定クラスの教員及び希望するクラスの教員の許可が得られれば、希望するクラスで再履修することができます。

9 教養教育センター開講科目の概要

教養教育科目

- 大学入門科目
- 共通基礎科目
 - ・外国語科目
 - 英語
 - ・情報リテラシー科目
- 基本教養科目
 - ・自然科学と技術の分野
 - ・文化の分野
 - ・現代社会の分野
 - ・総合科目
- インターフェース科目
 - ①環境コース
 - ②文化と共生コース
 - ③生活と科学コース
 - ④人間と社会コース
 - ⑤医療・福祉と社会コース
 - ⑥地域・佐賀学コース
- 外国人留学生のための授業科目
 - ・外国語科目 日本語
 - ・基本教養科目 日本事情
 - ・外国人留学生プログラムのための授業科目

大学入門科目

(1) 大学入門科目を学ぶ意味

大学は、様々な専門分野の研究を通じて文化を創造し次世代に継承する活動を行っており、高校までとは異なる能動的な学習態度が必要となります。また、社会に出た後も、知識基盤社会において重要な役割を果たすためには、持続的に学習する必要がある、それらの基礎を培わなければなりません。大学入門科目は、このような大学生としての学習態度や志向性を身に付けるために学ぶことになります。また議論を通じて、共同して課題を解決することを学びます。

(2) 教育目的と教育目標

本学に入学した学生に、大学における学習への転換を促し、高校から大学への接続を円滑にし、本学の新入生として必要とされる知識やスキルを身に付けることを目的とします。更に、各学部の特性に応じて、論理的な理解、分析、思考及び表現等の能力またはデザイン力を養うことを目的とします。

(3) 授業科目

大学入門科目は、大学入門科目 I があります。(履修方法については「5-1 大学入門科目」参照)

(4) 教育方法

同じ学科や課程の学生によってクラスを編成し、各専門分野の特性に応じて授業を行います。講義だけでなく、様々な手法を通じて、能動的な学習への転換を促します。

外国語科目 英語

(1) 英語を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

現在、英語は国際的な場面でのコミュニケーションの手段として最も広く使用されています。国境を越えて人やものとの交流が進んでいる今日、英語によるコミュニケーション能力は、国際社会へのパスポートとして、ますます重視されています。2年間(医学部では1年間)の英語学習を通じて、国際社会で活躍できるように、国際的な視野と英語コミュニケーション能力を育成します。

今日のように、最新の情報が英語で飛び交っている時代にあっては、どの専門分野であっても英語力が必要とされます。教養教育で培った英語力を土台にして、専門教育では、自らの専門分野に関して英語でコミュニケーションできるアカデミックな英語力を育成する必要があります。

(2) 教育目的と教育目標

<教育目的>

- ① 中学・高校の6年間で培った基礎学力を基盤として、4技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指します。
- ② 異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指します。

<教育目標>

- ① 意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養います。
- ② 多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養います。

これらの目標は、佐賀大学学士力1(2)の「市民社会の一員として思考し活動するための技術」の育成に対応しています。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

教養教育の英語として、次の4つの授業科目が開設されます。

- 「英語A」(1年次前学期開講)
- 「英語B」(1年次後学期開講、医学部は1年次前学期開講)
- 「英語C」(2年次開講、医学部は1年次後学期開講)
- 「英語D」(2年次開講、医学部は1年次後学期開講、医学部以外はe-learning)

(4) 教育方法

- ①「英語B」(ただし、医学部を除く。)では、習熟度別クラスを編成し、学生の学力に合ったレベルの授業を提供します。

- ②教科書・補助教材・ICT機器などを効果的に使い、英語の4技能をバランスよく高めます。
- ③e-learningを使った教材やGraded Readersによる読書課題などを活用し、できるだけ多く英語に触れる機会を与えるために、授業外の課題も豊富に提供できるように準備されています。
- ④TOEIC・TOEFL・実用英語検定などの外部資格試験の受験を奨励し、取得したスコアや級によって、英語の単位として認定する制度もあります。
- ⑤1年次前学期には全ての学生に全学統一英語能力テスト(TOEIC IPテスト)の受験を義務づけ、継続的な英語学習を促すとともに、2年次後学期(医学部は1年次後学期)にも受験を奨励し、大学入学以降の英語学習の進捗度及び英語能力の到達度を測ります。

情報リテラシー科目

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

現代は情報化社会とも呼ばれ、情報技術が生活の様々な面で活用されています。携帯電話やスマートフォンなどは、若者のほぼ全てが保有しています。その利用は、電話としてよりも、メール、情報検索、またはSNS(ソーシャルネットワークサービス)利用などのオンライン情報へのアクセスへと重点が移動しています。更に、オンラインショッピングやオンラインバンキングのような電子決済の利用が日常となり、映像や音楽、ニュースなどの配信も、テレビやラジオ、CDやDVDといった媒体からインターネットへと移動しています。このように、市民の多くが個人の携帯情報端末を保有し、様々なオンライン情報の利用が日常となっていく傾向にあります。

また、大学で学習し、研究をするためにも、情報技術の活用が不可欠です。履修登録や成績確認といった学期毎の作業だけでなく、予習復習や資料検索もオンラインで行われます。また、就職活動においても、会社情報の収集から面接や試験の申込まで、情報技術の活用が不可欠となっています。もちろん、文書作成、統計処理、プログラミングなど、初年次教育から専門教育までの全ての教育内容そのものが、情報技術の利用を前提としています。

このように、社会生活及び大学生活を快適・効率的に行うためには、情報技術を適切に利活用しなければなりません。そのために、確かな知識と技術を習得しておく必要があります。さらに、様々な情報システム、特に社会で提供されているオンラインサービスを利活用するためには、それらの利点と課題を知り、自ら選択できる基礎を持つ必要があります。

情報に関しては、高等学校で教科「情報」を履修してきました。しかし、情報技術は日々進歩し、その重要性は増大しています。情報技術の現状と課題について、新しい情報をより正確に学ぶ必要があります。また、ソフトウェアの利用方法についても、大学の学習での利用に適切な内容を、ある部分は再学習することで確かなものとし、ある部分は新たに習得する必要があります。

(2) 教育目的と教育目標

情報技術は、我々の生活を便利にしてくれるものです。同時に、普及にともなって様々な負の側面も現れています。「情報リテラシー」科目は、現代の社会で生きていく上で不可欠な情報技術の基礎について学ぶとともに、情報化された社会とその仕組みについて、利点と課題について学びます。また、大学での専門教育及び卒業後に必要とされる情報に関する基礎技術を習得することを目的とします。

そのため、情報技術に関する基礎知識の習得と、社会で日常的に使われている様々なインターネット媒体の活用に関する利点と課題の把握を目標とします。特に、利用者としてのセキュリティ対策の基本態度の習得を行います。また、大学での学習を行う上で必要となる情報システムやソフトウェアの利用方法などの基礎的情報処理技術を、学科・課程の特性に応じて習得することを目標とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

「情報リテラシー」科目は、「情報基礎概論」及び「情報基礎演習Ⅰ」から構成します。学科・課程により、履修すべき科目とクラスを指定します。

(4) 当該分野の教育方法

「情報リテラシー」科目のうち、「情報基礎概論」は講義を中心とし、必要に応じて演習を取入れて開講します。また、「情報基礎演習Ⅰ」は、コンピュータを使った演習を中心として開講します。

基本教養科目 自然科学と技術の分野

(1) 当該の分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

現代社会において私たちは、自然科学の理解とその応用に基づく様々な恩恵を受けています。同時に、それらの未熟さに由来する環境・エネルギー問題など多くの解決しなければならない課題にも直面しています。世界中からの極めて多くの情報に溢れている現代社会においては、自然科学と技術にかかわる基本的な概念・思考方法を学び、その到達点と限界を正しく認識し、自ら科学的な根拠にもとづいて判断する力を身につけることが、主体的な判断に基づいて行動することができる市民社会の一員となるために必要不可欠なのです。基本教養自然科学と技術の分野では、科学・技術の基本的な概念や科学的思考方法、現代社会における科学・技術の役割と限界など、理学・工学・生命科学等の学問分野における基礎的かつ体系的な知識を提供します。学生の皆さんは、各授業科目を通して、自然を科学的な目で認識し、判断できる素養を身につけることで、各々の専門分野をより深く理解することができます。

(2) 教育目的と教育目標

自然科学、工学、生物・生命科学の各学問分野の基本的知識を提供することにより、学生が、佐賀大学学士力の「1基礎的な知識と技能」の(1)を身につけ、市民社会の一員として必要な市民性を育むことを教育目的とし、主体的な判断に基づき行動する素養を身につけるために、自然科学と技術に関する基礎的知識を修得し、特徴を理解することを教育目標とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

三つのサブ分野(区分)を設け、「基礎自然科学」区分では、「数理の世界」、「物理の世界Ⅰ、Ⅱ」、「化学の世界A、B」、「生物学の世界」、「地学の世界」等の、「自然科学・技術の現代的諸相」区分では、「情報科学の世界Ⅰ、Ⅱ」、「機械工学の世界A、B」、「電気電子工学の世界A、B」、「環境科学Ⅱ」等の、「生物科学・生命科学」区分では、「生物科学の世界A～D」、「生命科学の基礎A～F」、「栄養科学A、B、C」、「暮らしの中の生命科学」等の授業科目を開講します。

(4) 当該分野の教育方法

受講者が、自然科学と技術にかかわる基本的な概念・思考方法を身につけることができるように、入門的かつ包括的な授業を行います。また、主体的に学び判断する素養を身につけるために、予習復習を含めた総合的な学習を、受講生が計画的に進めることができるように配慮します。授業は原則として講義形態で行いますが、必要に応じて演習・実験・グループ学習などを導入する場合があります。

基本教養科目 文化の分野

(1) 当該の分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

現代に生きる私たちも過去から続く固有の文化によって、その存在を規定されています。私たち一人ひとりを形作っているのは、共通の言語・思想・歴史・文学・芸術などです。異文化を知ることまた、世界を認識し、自分自身を知ることへと繋がっていきます。そして自らを知り、自己を確立することが、大学での学習を終えて市民社会の一員として主体的に行動していく上での核となるのです。基本教養文化の分野では、日本と世界の文化について、各学問分野における基礎的かつ体系的な知識を提供します。学生の皆さんは各授業科目で得た基礎知識を携えて、文系学部・学科においては専門学習を積み上げていく礎石として、理数系学部・学科においては専門学習を支える豊かな人間的教養として、各々の専門分野の深い理解へと進んでいきましょう。

(2) 教育目的と教育目標

言語・思想・歴史・文学・芸術等の各学問分野の基本的知識を提供することにより、学生が、佐賀大学学士力の「1基礎的な知識と技能」の(1)を身につけ、市民社会の一員として必要な市民性を育むことを教育目的とし、そのために、上記各学問分野の基礎的知識を習得し、特徴を理解することを教育目標とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

四つの下位区分を設け、「言語と文化」では、ドイツ、フランス、中国、韓国・朝鮮の言語と文化、「文学と芸術」では、「欧米の文化・文学」、「ドイツ文学」、「芸術論」等の、「言語と表現」では、「日本語学」、「言語学」、「コミュニケーション論」等の、「歴史と文化」では、「哲学」、「日本史」、「西洋史」、「人類学」等の授業科目を開講します。

(4) 当該分野の教育方法

標準的教育方法として、受講者が、文化にかかわる諸学問分野の体系と特質を理解できるように、入門的かつ包括的な授業を行います。また知識を教養として身につけるために、予習復習を含めた総合的な学習を、受講生が計画的に進めることができるように配慮します。授業は原則として講義形態で行いますが、担当教員の方針により、必要に応じて演習あるいは実習的な授業を導入する場合があります。

基本教養科目 現代社会の分野

(1) 当該の分野を学ぶ意味:専門教育及び社会との関係

現代の社会は、国、社会や地域によって多様であるだけでなく、科学・技術の開発、応用によって、複雑化しています。他方で、私たちは、平和で安心して暮らせる、よりよい社会を目指すとともに、将来の世代に承継していかねばなりません。そのためには、現代社会の多様性や複雑性を客観的に認識し、社会が抱える課題を一つひとつ解決していく必要があります。このことは、文系を専門とする学生にかぎりません。理系の学生にとっても重要なことです。なぜなら、私たちは今ある社会を生きているのであり、構成員として、その社会のありようを決めうる立場にあるからです。専門家だけに社会の運営や将来を任せておくことは危険です。素人であっても一人ひとりが考え、発言していくことが重要です。現代社会は様々な課題を抱えています。この世界で、この国で、この社会で、いま何が問題となっているのか、原因はどこにあるのか、いかに対処すべきかを考えるにあたっては、社会をその考察対象とする社会科学の基礎的知識が必要です。自分の専門以外に、「現代社会」に関する基礎的知見を広く学ぶことが、これから社会を動かす原動力となる学生にとっての基本教養として求められています。

(2) 教育目的と教育目標

「現代社会の分野」は、「経済学」、「経営学」、「法律学」、「政治学」、「教育学」、「地理学」、「社会学」等の基本的な知識を提供することによって、学生が、「現代社会の現状を捉え、健全な社会と生活の質の向上に向けて、主体的に関わり、役立てていく素養を身につける」ことを目的とし、基礎社会科学や教育と人間、現代社会の諸相などを内容とする授業科目を開講しています。そのために、上記各学問分野の基礎的知識を習得し、問題や特徴を理解することを教育目標とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

現代社会の分野の授業科目群は、学生の学習の便宜のため、サブ分野として「基礎社会科学」「教育と人間」「現代社会の諸相」の3つで構成されています。「基礎社会科学」では現代社会に対する社会科学の基礎的な分析視角の提供を主たる講義内容とし、「教育と人間」では現代社会に生きる「人」のありようについての基礎的分析視角の提供を主たる講義内容としています。また「現代社会の諸相」はより個別的なテーマを講義対象とし、現代社会の抱える問題に対する基礎知識の提供を主たる内容としています。

(4) 当該分野の教育方法

標準的教育方法として、受講者が、現代社会にかかわる諸学問分野の体系・特質や現代社会が抱える個別の問題について理解できるように、入門的かつ基礎的な授業を行います。また知識を教養として身につけるために、予習復習を含めた総合的な学習を、受講生が計画的に進めることができるように配慮を心がけます。授業は原則として講義形式で行いますが、担当教員の方針により、必要に応じて演習あるいは実習的な授業を導入する場合があります。

基本教養科目 総合科目

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育科目及び社会との関係

総合科目は、基本教養科目のすべての分野にわたる授業科目です。高度に発展した現代社会は同時に、確実に安定した将来社会像を描くことのできない社会でもあります。こうした社会を生きる人間は、様々な人々の考えを理解しつつ、自らの力で思考し・判断して自らの将来像を描き、そして将来像へと進むべき道を自らの力で選択しなければなりません。総合科目は、現代社会を生きるために、異なる文化を有する人々の考え方を理解すると共に彼らに自らの考えを伝える力や、自らの将来像及びそこに至る方法を構築する力を養うための科目です。

(2) 教育目的と教育目標

総合科目の教育目的は、高度に発展した現代社会において市民として活動するために必要な基本的素養の涵養です。また総合科目の共通した教育目標は、市民として活動するための、異文化理解やキャリアデザインといったより一般的な知識を身につけることです。

なお、総合科目の履修により習得した単位は、4単位を上限として基本教養科目の各分野のいずれかの単位として含めることができます。

(3) 開講する授業科目

総合科目では、海外の異文化世界やそこに生きる学生を理解するために学習・交流を行う「海外交流科目群」と、受講者各人が「キャリア」についての認識を深め、将来の進路・職業について意識的に熟慮する機会を提供する「キャリア教育科目群」を開講します。

「海外交流科目群」では「海外交流実習」、「Online Immersion Program」及び「Overseas Practicum」を開講し、異文化に基づいて生きる人々と共生するための知識を身につけます。

また、「キャリア教育科目群」として、「キャリアデザイン」、「グループワークの技法と実践：キャリアデザインへの活用」、「チャレンジ・インターンシップA・B」及び「ライフデザインとセルフ・リーダーシップ」を開講します。「キャリアデザイン」では、県内外からゲストスピーカーを招いて、様々な職業についての知識、雇用環境の現状、働き方についての基礎知識を身につけ、自らの職業適性を理解し、働き方の知識を活用しつつ社会において活動してゆくための自己の将来像を設計する力を修得します。「グループワークの技法と実践」では、グループワークの基礎や技法を学ぶとともに実践することで、就職活動や将来の職場で必要となるコミュニケーション力やグループを運営する力を養います。「チャレンジ・インターンシップA・B」では、企業と協力し、Webサイトを改善する仕事やデータの可視化・分析等を通じて、「課題発見と解決に向けてチームが協力して実行する力」を身につけます。「ライフデザインとセルフ・リーダーシップ」では、ライフマネジメントを行うためのセルフ・リーダーシップ(セルフ・コーチング)の手法を修得します。

(4) 当該分野の教育方法

講義を基本としますが、各授業で必要に応じて適宜、グループワーク等による演習を実施します。また、予習・復習、レポート等の提出などの自学自習をすべての授業科目で課します。

インターフェース科目 ①環境コース

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育と社会の関係

環境問題は、資源・エネルギー・廃棄物・汚染・生物多様性・地球温暖化等、総合的なテーマです。また、身近な地域（ローカル）な課題から地球的規模での課題まで多様性を有しています。これらの解決のためには、自然科学・人文社会科学を含めた学際的な知識の修得と、高い環境倫理意識や主体的な実践力も必要です。大学で学んだ基礎的知識や主体的な行動力・応用力は、卒業後においても一市民として地域社会において必要な責務です。

(2) 教育目的と教育目標

環境・資源・エネルギー等に関する現代的課題を理解し、環境に対する高い倫理観の醸成と、市民社会の一員として環境問題の解決に主体的に取り組むことのできる知識と応用力を養うことを目的とします。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

①機械工学と環境

エネルギー・環境問題の背景と、その対策技術の動向を学び、材料、設計・加工、計測及び制御、流れ、熱エネルギーなどの機械工学の技術と、エネルギー・環境及び人間の生活とのかかわりについて理解を深めます。

科目：機械工学と環境Ⅰ（エネルギーと環境問題）、機械工学と環境Ⅱ（設計・加工技術と環境）、機械工学と環境Ⅲ（流れと環境）、機械工学と環境Ⅳ（材料と環境）、機械工学と環境Ⅴ（熱エネルギーと環境）、機械工学と環境Ⅵ（環境計測及び制御）

②エレクトロニクスと環境

通信、電磁界、プラズマ、光などのエレクトロニクスの基礎について学ぶとともに、地球規模での環境問題や身の回りの生活環境とのかかわりについて理解を深め、科学を基盤とした社会の持続的発展に貢献する力を身につける。

科目：エレクトロニクスと環境Ⅰ（通信のしくみ）、エレクトロニクスと環境Ⅱ（モータから家電製品まで）、エレクトロニクスと環境Ⅲ（プラズマでクリーンな空気・おいしい水を作る！）、エレクトロニクスと環境Ⅳ（光と半導体）

③佐賀の環境

環境に関するグローバルな視野を養うとともに、身近な地域（佐賀）の環境について学びます。このプログラムは、佐賀市との協働による環境学習・問題解決型の実践的な学習と、佐賀特有の有明海・干潟の保全及び利活用について主体的に考え、取り組む実践力を養います。

科目：佐賀の環境Ⅰ（佐賀環境フォーラムⅠ）、佐賀の環境Ⅱ（佐賀環境フォーラムⅡ）、佐賀の環境Ⅲ（有明海学Ⅰ）、佐賀の環境Ⅳ（有明海学Ⅱ）

(4) 当該分野の教育方法

講義及びフィールドワーク実習・演習・インターンシップを実施します。各プログラムにおける授業科目ⅠとⅡは2年次、ⅢとⅣは3・4年次に履修します。また、実習等は夏季休暇中等を活用した集中講義形式で実施する場合があります。

インターフェース科目 ②文化と共生コース

(1) 当該の分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

本コースで学ぶ意味は、今の日本に求められている文化に関連する力、1) 異文化を理解し、異文化からの人と交流や協働をする力、2) 性の違いにこだわらず異性とも交流し協働する柔軟性ある豊かな力、あるいは、ビジネスや学業において芸術的感性や芸術的創造を豊かに用いる力を修得し、そして、それを用いて、自分の専門で修得した技術や知力を社会で効果的に活かせるようになることにある。

(2) 教育目的と教育目標

本コースの教育目標は、1) 異文化への高い理解力、異文化間コミュニケーション能力をもった人材、2) 社会を、女性も男性も差別なく、公正・平等にひとりひとりが理解され、活かされる社会にしようとする人材、3) 芸術的感性や芸術的創造を社会で豊かに用いることができる豊かな人材を育成することである。本コース「文化と共生」コースを通して、日本と最も密接な関わりを持つアジアの経済、法律、政治、社会、文化を知る、異なる文化の人々と一緒に交流・協働する、芸術を自己における文化の表現・創造ととらえて、芸術を創造する力を養う、あるいは、社会を男性と女性に公正・平等に開かれたものにするにはどうしたらいいかを考えることができます。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

本コースは、「異文化交流」、「Intercultural Communication」、「肥前陶磁器産業体験」、「ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化」、「芸術と社会」、「歴史文化」及び「英語コミュニケーション」から構成されています。なお、「Intercultural Communication」については、[7-1 欧米の言語文化専攻—英語コース](#)の箇所を参照してください。

①異文化交流

本プログラムの目標は、多様な文化からなる世界の異文化の人と交流し、互いを尊重し協働できる力のある若者を育成することです。このプログラムの履修者は、長期留学やグローバル化する社会で必要となる異文化協働体験をします。

科目：異文化交流Ⅰ（「異文化交流入門」）、異文化交流Ⅱ（SPACE-Eの留学生と交流）、異文化交流Ⅲ（Our Life and Ethical Issue）、異文化交流Ⅳ（留学生と日本人がともに考える現代社会）

②肥前陶磁器産業体験

芸術地域デザイン学部芸術表現コースの学生、あるいは、将来、窯業関連における就職を考えている学生を対象としたプログラムである。主な仕事は窯元・商社・研究機関・分業専門工房等の業務補助で、働くための下準備や清掃を行いながら産業の実際を体験する。将来の陶磁器産業に貢献できる人材の育成のために、窯元や商業組合などに強いて協力を要請しているものであり、焼き物づくり体験の授業ではないので、安易な気持ちで抽選に参加しないこと。有田への交通費は受講者の負担である。

科目：肥前陶磁器産業体験Ⅰ、肥前陶磁器産業体験Ⅱ、肥前陶磁器産業体験Ⅲ、肥前陶磁器産業体験Ⅳ

③ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化

本プログラムではドイツの歴史と文化に関して様々な分野のテーマを取り上げ、ドイツ的思考がどのように表れているかを学びます。その際、特に言語の習得に重点を置き、ドイツ語に向き合うことを目標とします。本プログラムは副専攻プログラム「欧米の言語文化専攻—独語コース」のためのプログラムです。詳しくは「[7-2 欧米の言語文化専攻—独語コース](#)」を参照してください。

科目:ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅰ、ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅱ、ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅲ、ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅳ

④芸術と社会

多様な芸術のあり方を学び、現代社会に生きるために必要な基本的な知識と深い教養を身に付けるとともに、芸術の視座から現代の社会について考えることのできる幅広い視野を獲得することを目指します。そのために、芸術を創造することや、芸術を理解し社会に開くこととともに、芸術の諸相を学びます。

科目:芸術と社会Ⅰ(芸術創造(理論))、芸術と社会Ⅱ(ヴィジュアル・カルチャー入門)、芸術と社会Ⅲ(芸術と社会)*、芸術と社会Ⅳ(芸術創造(実践))*、芸術と社会Ⅴ(芸術の諸相(音楽・歴史・建築))(*2科目から1科目を選択)

⑤歴史文化

基本的に日本の中だけで完結していた伝統的な日本史の観点から脱却し、諸外国との交流・交渉の観点から、日本の近世史と近代史をとらえなおします。さらに地域の歴史遺産についても学びます。日本と地域の歴史文化を、東アジアないし世界の歴史文化の中で捉え、世界の目、日本の目、地域の目という三つの視座で見つめなおします。本プログラムは副専攻プログラム「歴史文化専攻」のためのプログラムです。詳しくは「歴史文化専攻」を参照してください。

科目:歴史文化Ⅰ(「鎖国」時代の異文化接触)、歴史文化Ⅱ(映画で学ぶ幕末維新)、歴史文化Ⅲ(佐賀「賢」人の足跡)、歴史文化Ⅳ(地域の文化遺産)

⑥英語コミュニケーション

English for Specific Purposes (ESP):1学年及び2学年で履修する「一般目的の英語」(EGP:English for General Purposes)とは異なり、本プログラムでは、「特定の目的のための英語」(ESP)を学習します。その際には、特に「話す」技能の習得に重点を置くことで、医療やビジネス等のある特定の分野で必要とされる専門的かつ実用的な英語コミュニケーション能力の向上を目指すとともに、主体的に考えて行動することができるグローバル人材を育成します。

科目:英語コミュニケーションⅠ(Medical English for Healthcare ProfessionalsⅠ(鍋島)・Business English(本庄))、英語コミュニケーションⅡ(Medical English for Healthcare ProfessionalsⅡ(鍋島)・English for Sustainability(本庄))、英語コミュニケーションⅢ(Medical English for Healthcare ProfessionalsⅢ(鍋島)・Professional Presentation、Discussion and Debate(本庄))、英語コミュニケーションⅣ(Medical English for Healthcare ProfessionalsⅣ(鍋島)・English for Global Citizenship(本庄))

(4) 当該分野の教育方法

インターフェース科目の目標を達成するために、教室で行うディスカッション・グループワーク・実技に加えて、調査、学外研修、留学生との交流活動など主体的な学習を促すための教育方法によって教育がなされます。各プログラムにおける授業科目ⅠとⅡは2年次、ⅢとⅣは3・4年次に並び順で履修します。ただし、異文化交流プログラムでは、科目ⅠとⅡの間の履修順序については、どちらを先に履修しても構いません。また、ⅢとⅣについても、どちらを先に履修しても構いません。ⅢやⅣを履修するには、ⅠとⅡの両方を履修中か、あるいは、履修し終わっていない必要があります。

インターフェース科目 ③生活と科学コース

(1) 当該の分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

人間と科学技術との関係を見つめ直すことにより、科学を基盤とした社会の持続的発展を思考し、リスクに対応できる安全な社会・生活の構築を支えることができる人材を育成します。

(2) 教育目的と教育目標

現代の社会生活における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集して分析できる知識と技能について学びます。また、科学理論や科学技術を背景として、成熟した市民社会の形成の担い手となるための知識と姿勢を身に付けます。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

①未来を拓く材料の科学

人類の生活を支える材料の開発の歴史とその機構ならびに利用を学び、新しい材料が新たに生み出す世界を考察します。プログラムには、有機機能性材料、無機機能性材料、生体機能材料に関する解説と実験が含まれています。なお、講義は教員が複数担当し、オムニバス形式でおこないます。

科目：未来を拓く材料の科学Ⅰ（有機機能性材料の科学）、未来を拓く材料の科学Ⅱ（無機機能性材料の科学）
未来を拓く材料の科学Ⅲ（生体機能材料の科学）、未来を拓く材料の科学Ⅳ（材料の科学実験）

②情報技術者キャリアデザイン

現代社会において、情報技術(IT)は、幅広い分野で必要不可欠となっています。本プログラムは、社会に貢献できる情報技術者として必要な知識やスキルの修得を目的とします。プログラムには、ITパスポート試験に関する講義及び演習、情報技術者として求められるプレゼンテーション技能、キャリアプランを検討するための解説が含まれます。なお、一部に学外講師によるオムニバス形式の授業を含みます。

科目：情報技術者キャリアデザインⅠ（情報技術者キャリアデザイン入門）、情報技術者キャリアデザインⅢ（情報技術者キャリアデザイン実践）、情報技術者キャリアデザインⅡ（テクニカル・コミュニケーション）、情報技術者キャリアデザインⅣ（情報技術コロキウム）（※履修順序はⅠ→Ⅲ→Ⅱ→Ⅳ）

③2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方

本プログラムでは、「事業を起こす」=新しいサービスを生み出すことをテーマにし、学生が興味をもつ分野の知識や技術とITとを融合させてアイデアを形とする力を身に着けることを目的とします。そのため、プログラミングの基礎技術を身に付けると共にアントレプレナーシップと企業経営、知財戦略の理解を深めます。プログラミングは興味・関心があれば初心者でも大丈夫です。基本から易しく教えます。この講義を通して、様々な分野を対象に（工業、教育、美術、経営、サービス業、医療、農業、etc.）、ITを活かした新しいサービスとビジネスモデルの創造にトライできる人材の育成を目指します。

科目：2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅰ（アントレプレナーシップとプログラミング入門）、2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅱ（知財戦略とプログラミングの活用）、2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅲ（ビジネスモデルとプログラミング中級）、2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅳ（企画の実施と反省）

④食糧生産の科学

食糧生産に関わる諸問題を対象に、園芸科学、植物の病害虫と生態系、作物と家畜の生産、作物育種と栽培

環境の観点から、アクティブ・ラーニングを講義の主体として、現状の理解、問題点の把握、解決方法のアイデアや実際の社会で行われている取り組みについて理解を深め、日本や世界を取り巻く農業生産や生態系の諸問題について理解を深めます。

科目：食糧生産の科学Ⅰ、食糧生産の科学Ⅱ、食糧生産の科学Ⅲ、食糧生産の科学Ⅳ

⑤ ライフサイエンス・フードサイエンス

毎日の食事は私たちの生命活動を維持する上で不可欠であるばかりか、日々の生活に潤いを与える嗜好物の側面も持っています。それぞれの食品成分を適切に分析・評価し、消費者に説明することは現代では必須の作業であると言えます。加えて、補完的なサプリメントの摂取は、健康維持の側面から、広く受け入れられていますが、その機能的側面の詳細な理解は進んでいないように思われます。本プログラムでは、これらの事柄について、講義・演習・実習形式で学びます。

科目：ライフサイエンス・フードサイエンスⅠ、ライフサイエンス・フードサイエンスⅡ、ライフサイエンス・フードサイエンスⅢ、ライフサイエンス・フードサイエンスⅣ

(4) 当該分野の教育方法

各プログラムは順次性を持った4科目で構成し、社会・生活または科学技術に関する特定の分野を体系的に学ぶことができます。インターフェース科目の教育目標を実現するために、対話・演習・実験・実技・調査など学生の主体的な学習活動を組み込みます。

インターフェース科目 ④人間と社会コース

(1) 当該の分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

人間と社会との関係を見つめ直すことにより、広く学術を応用した社会の持続的発展を探究し、人と社会の間に生じるさまざまな課題に、主体的・能動的に対応できる人材を育成します。

(2) 教育目的と教育目標

現代の人間がおかれた社会状況から生じる諸々の現象を多面的に扱い、解決に向けた分析や立案に必要となる知識や技法について学びます。また、分析や立案の実践を通して自らを社会に接続し、創造性豊かな社会の担い手となるための学問的素養を高めます。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

① チームビルディングとリーダーシップ

本プログラムは、大学生にとって必要な「リーダーシップ」と「チームビルディング」について、体系的・段階的・継続的に学ぶプログラムです。授業(グループワーク)や研究室などの正課活動、さらにサークルや地域ボランティアなど正課外活動において、一人ひとりが主体的・能動的に活動に関わることが求められます。しかし、それらの活動の中で自分自身がどのように振る舞うことがチームにとって最善なのか、自分自身がチームに対してどのように貢献できるのかということについて学習する機会は、それほど多くありません。本プログラムでは、実践と省察を繰り返しながら自分自身の持つリーダーシップについて学び、それらの活動において、主体的・能動的に関わる人材の育成を目指します。

科目: チームビルディングとリーダーシップⅠ(学生チームでの協働「企画づくりと企画書作成」)、チームビルディングとリーダーシップⅡ(学生チームでの協働「企画づくりと企画提案」)、チームビルディングとリーダーシップⅢ(企業との協働「企画書作成と企画提案」)、チームビルディングとリーダーシップⅣ(社会課題へのアプローチ)

② リサーチ・リテラシー

統計が作成され、利用される過程で暗黙のうちに混入する政治性に惑わされず、社会的責任を考えるためのリテラシーを培うことを、本プログラムの主な目的とします。プログラムには、くらしの中の統計、やさしい統計計算、調査データの分析、人文・社会・自然科学の統計が含まれます。

科目: リサーチ・リテラシーⅠ(くらしの中の統計)、リサーチ・リテラシーⅡ(やさしい統計計算)、リサーチ・リテラシーⅢ(調査データの分析)、リサーチ・リテラシーⅣ(人文・社会・自然科学の統計)

③ スポーツイベントとボランティアリーダー

スポーツに関するイベントは、有償無償も含めて様々な形のボランティアの協力のおかげで実施できています。しかし、ボランティアが「やってよかった」と思えるイベントは数少ないのが現状です。

そこで本プログラムでは、イベントの参加者だけでなく実施している側も「やってよかった」と思えるイベントに必要な要素とは何か、そのようなイベントを作るために自分ができることは何かなどを複数のイベントの実践と反省を繰り返しながら考え、まとめてもらいます。このプログラム中では数回佐賀県庁の職員の方や佐賀県にゆかりのある企業の職員の方を招いて、地方自治体や企業がスポーツイベントを実施する目的やイベントづくりに対する考え方などを教えてもらう予定になっています。

科目: スポーツイベントとボランティアリーダーⅠ(企画づくりと企画書作成)、スポーツイベントとボランティアリー

ダーⅡ(企画づくりと企画提案)、スポーツイベントとボランティアリーダーⅢ(企画の準備)、スポーツイベントとボランティアリーダーⅣ(企画の実施と反省)

(4) 当該分野の教育方法

各プログラムは順次性を持った4科目で構成し、人間と集団・社会との関係を扱う特定の分野を体系的に学ぶことができます。インターフェース科目の教育目標を実現するために、グループワークや調査演習など学生の主体的・能動的な学習をデザインします。

インターフェース科目 ⑤医療・福祉と社会コース

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

医学・看護学の専門科目履修の準備段階として、医学・看護学・福祉と社会の関わりを考えます。

(2) 教育目的と教育目標

今日の社会に内在する環境や食の問題あるいは加速する少子高齢化社会や障害者等の就労支援の現状を見据えて、支援と共生の社会を構築する担い手となる人材を育成することを目指します。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

①現代社会と医療(鍋島キャンパス開講)

現代社会における包括的医療を構築していくための基礎的理解と社会を見据える力を養うことを目的として、現在の医療科学及び体制を、先人が取り組んできた医療史とともに公害・薬害問題や人権の問題などを含めて歴史的に捉える視点を養うことを学修の目標とします。更に、現代社会が及ぼす各種疾病への影響について学び、これらに並行して、ヒトの行動科学的の理解、医療人としてのキャリア形成に資する授業科目で構成します。

科目：現代社会と医療Ⅰ(医療科学史)、現代社会と医療Ⅱ(医療人キャリアデザイン)、現代社会と医療Ⅲ(医療現場における行動科学)、現代社会と医療Ⅳ(現代社会とか感染症)

②食と健康(鍋島キャンパス開講)

人類が生存していくために必須の食と健康の関わりに焦点を絞り、健康社会を構築していく上で必要な基礎的理解と食の在り方を考える力を養うことを目的として、食品科学、栄養学、薬、運動などの授業科目で構成します。現代の食の問題点を、科学的に評価できる力を養います。また、医療人としてのキャリア形成、および行動科学の理解に資する授業科目を含みます。

科目：食と健康Ⅰ(食物科学)、食と健康Ⅱ(医療人キャリアデザイン)、食と健康Ⅲ(医療現場における行動科学)、食と健康Ⅳ(運動と栄養)

③ライフサイクルからみた医療(鍋島キャンパス開講)

生活習慣病・がん・難病患者や障害者を、ヒトの行動科学的側面を踏まえたうえで、一人の人間としてトータルに理解しようと努め、その生活や就労を支援していくことは、共生社会構築を必要とする現代社会の要請です。このプログラムでは、医療人としてのキャリア形成を考えつつ、人間のライフサイクルにおける多様性の理解をおおし、健康とは何なのか、医療に不可欠の薬剤治療とはどのようなものなのか、等について、基本となる知識を修得し、諸々の課題を見出し、それらを改善・解決していく力を養います。

科目：ライフサイクルからみた医療Ⅰ(ライフサイクルからみた健康)、ライフサイクルからみた医療Ⅱ(医療人キャリアデザイン)、ライフサイクルからみた医療Ⅲ(医療現場における行動科学)、ライフサイクルからみた医療Ⅳ(年齢と健康：薬の話)

(4) 当該分野の教育方法

このコースは、鍋島キャンパスで開講し、医学部学生は1年次から受講となります。インターフェース科目の教育目標を実現するために、対話・演習・実験・実技・調査など学生に主体的な学習活動を促すための教育方法に基づく教育内容を組み込みます。

インターフェース科目 ⑥地域・佐賀学コース

(1) 当該分野を学ぶ意味：専門教育及び社会との関係

人間はさまざまな形の社会の中で生活しています。その中でも地域は生活をするうえで重要な社会の一つです。本科目では地域を社会・文化・経済などのさまざまな面から取り上げ、具体的な地域の形について理解していきます。

(2) 教育目的と教育目標

具体的な事例をあげながら地域に現れる問題を検討し、地域を中心に思考することができる人材を育成します。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

①佐賀の歴史文化

具体的な地域として最も身近な佐賀を対象に、どのような歴史を得てどういった特徴ある文化が形成されたのかを学びます。

科目：佐賀の歴史文化Ⅰ（佐賀の歴史概説）、佐賀の歴史文化Ⅱ（史料からみる佐賀の歴史）、佐賀の歴史文化Ⅲ（佐賀の歴史性と現代）、佐賀の歴史文化Ⅳ（江戸時代佐賀の社会経済）

②地域経済と社会

さまざまな地域に現れる問題を、農業をはじめとするいくつかの産業を題材に検討し、労働問題・雇用問題としても検討します。さらに地域の自主的な存在を保障する地方自治の在り方も検討します。

科目：地域経済と社会Ⅰ（経済社会と地域）、地域経済と社会Ⅱ（地域と産業構造）、地域経済と社会Ⅲ（地域と商業）、地域経済と社会Ⅳ（地域と法）

③佐賀SDGsグローバルアクション

地域を支えるコミュニティの重要性や、どのようなコミュニティが望ましいのかを学びます。

科目：佐賀SDGsグローバルアクションⅠ、佐賀SDGsグローバルアクションⅡ、佐賀SDGsグローバルアクションⅢ、佐賀SDGsグローバルアクションⅣ

(4) 当該分野の教育方法

一般の講義を中心にしますが、調査や調査報告を基にした演習形式での議論、レポートなどで地域に対する理解を深めます。

外国人留学生のための授業科目

外国語科目 日本語(外国人留学生用)

* 科目名は「実践日本語C・D・E・F」

(1) 日本語を学ぶ意味

大学生には幅広い日本語力が必要とされます。日本で生活するときに必要な生活日本語の能力はもちろん、指導教員の先生と話すときに必要なコミュニケーション能力、問い合わせなどをするときの事務手続きの能力、専門の授業についていける専門知識、レポートや発表などで自分の意見や考え方を他の人にわかるように論理的に発信していく能力など、必要とされる能力は多岐にわたります。

これらの中でも特に自分の意見や考え方を論理的に発信していく能力は、多くの授業で課されるレポートや発表などに取り組むときに欠かせません。日本での就職活動や、社会人として働く時にも必要となる能力です。

この能力を養うためには、レポートや発表をするときの基本的な形や言い方を身につけるだけではなく、クラスメートと議論したり、他の人が書いた文を批評したり、あるいは自分たちで調査したりして、日本語力とともに思考力を高める必要があります。

本学に入学した多くの留学生は、大学生活に必要な能力を既に身につけていますが、日本語科目を履修することで、より大学生らしい日本語を身につけられるでしょう。

(2) 教育目的と教育目標

佐賀大学の日本語教育は、佐賀大学の学士力1の(2)の「市民社会の一員として思考し活動するための技能」の育成に対応しています。発表スキルやレポート作成スキルの修得、ディスカッションを通じた批判的思考力の育成などを通して、大学生として学術的活動が十分に行える日本語力を養成します。さらに、1年次修了後も、自律的に学習が継続できる力を養います。

(3) 開講する授業科目

アカデミック・ジャパニーズAとCは読解の授業で、日本事情に関わる文章を読んで、それについて調べ、グループで話し合います。アカデミック・ジャパニーズBは簡単な調査を行い、その上で発表に必要な言語技術を学びます。アカデミック・ジャパニーズDとEは作文を学びます。Dは中級後半のレベルで、Eは上級のレベルです。Eでは、レポートの書き方を学びます。

なお、大学院生、研究生には特例受講が認められ、受講証明書が発行されます。

(4) 教育方法

各授業で、中心的に学ぶ技能は異なりますが、どの授業も読む・書く・聞く・話すの4技能の向上をめざすアクティブ・ラーニングを行います。例えば、1)あるテーマに沿って読み、その内容についてディスカッションを行う、2)短いインタビューを行い、その結果をレポートにまとめる、3)あるテーマに沿って話し、その内容について調査を行い、さらにその結果を発表するなどです。どの授業でも、学生は積極的な態度で参加することが求められます。

外国人留学生のための授業科目 基本教養科目 日本事情(外国人留学生用)

(1) 日本事情を学ぶ意味

世界の様々な国には、それぞれの国に独特の歴史・文化、社会制度、それに自然環境や科学技術の利用方法があります。日本の大学で学ぶ留学生には、こうした日本の独自性を学び、母国の独自性と対比することで、物事をより広い視野をもって捉える力を培ってもらいたいと思います。

(2) 教育目的と教育目標

他国の歴史・文化、社会制度、自然環境や科学技術の利用状況などを自国と比較しながら理解することで、より広い視野を養うことが教育目的です。また、日本における自然科学と技術、文化、現代社会の各分野の状況を理解し、自国の状況と比較する力を身につけることが教育目標です。

(3) 開講する授業科目

「日本事情－自然科学と技術」、「日本事情－文化」、「日本事情－現代社会」の授業科目のうちから毎年2科目を開講します。令和6年度は、「日本事情－自然科学と技術」と「日本事情－文化」を開講します。

(4) 日本事情の教育方法

授業は講義を中心に行いますが、授業の中でグループワークを実施する場合や、小レポートを課す場合があります。

外国人留学生のための授業科目

外国人留学生プログラムのための授業科目

(1) 本授業科目の意味

外国人留学生プログラムのための授業科目は、外国人短期留学生、佐賀大学短期留学プログラム及び日本語・日本文化研修留学プログラムの学生に、「佐賀での生活に必要な日本語力」から「日本語で専門を学ぶのに必要な日本語力」までを身に付けてもらうために開講される科目群です。

なお、単位は特別聴講学生に与えられます。大学院生、研究生には特例受講が認められ、受講証明書が発行されます。

(2) 教育目的と教育目標

これらの科目を受講することによって、佐賀での生活や佐賀大学での学業がより円滑に進み、佐賀大学の学生や地域住民との交流がより活発にできるようになることを目標としています。

(3) 開講する授業科目・サブ分野・コース等の構成

外国人留学生プログラムのための授業科目は、大きく、日本語総合科目と演習科目に分けられます。レベルは、初級から上級までの5レベルがあり、学期が始まる前に行われるプレースメントテストによって決定されます。学生は日本語力に合ったそれぞれのレベルでクラスを受講します。

(4) 教育方法

これらの科目は、学生の日本語運用能力を伸ばすよう、授業の中での教師と学生、あるいは学生同士のインターアクションを重視しています。そして、必要な練習を、さまざまな形で行います。口頭練習、筆記練習、インタビュー、発表、談話練習などが含まれます。

10 役立つリンク

10-1 時間割

佐賀大学ホーム>在学生の方へ>教務関係>時間割

<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/jikanwari.html>



情報セキュリティについて

学年暦

教務関係

その他教務事項

申請・証明書発行

学生相談・支援

授業料・奨学金

課外活動

学生生活

佐賀大学における学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入れの方針

学則等

学生便覧

学生センター案内窓口

eラーニング

保健管理センター

学生センター

時間割

ホーム > 佐賀大学学生センター > 時間割

★ お気に入りリストに追加

※新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み時間割が変更となる可能性があります。変更となる場合は、ホームページでお知らせいたしますので、適宜確認を行うようにしてください。

2023年度後期時間割

学 部	大学院
教育学部	学校教育学研究科
芸術地域デザイン学部	地域デザイン研究科
経済学部 読替表	—
医学部 医学科 看護学科	医学系研究科
理工学部 読替表	理工学研究科 読替表
農学部	農学研究科 国際人材育成プログラム
—	先進健康科学研究科 医科学コース 総合看護科学コース 健康機能分子科学コース 生体医工学コース 英語教育プログラム
教養教育	大学院教養教育プログラム

履修登録はこちら
教務日程はこちら

10-2 教養教育関連事務手続日程

佐賀大学ホーム>在学生の方へ>教務関係>教務日程

<https://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/schedule.html>



情報セキュリティについて

学年暦

教務関係

その他教務事項

申請・証明書発行

学生相談・支援

授業料・奨学金

課外活動

教務日程

ホーム > 佐賀大学学生センター > 教務日程

★ お気に入りリストに追加

佐賀大学では、予め定められた日程に従って、各種行事及び事務手続が行われます。

その中でも、学生生活、とりわけ履修、成績に関する日程については、下記のとおりとなっております。

学生のみなさんは、この日程に従い、履修登録等の手続を行ってください。

- 令和6年度前学期 教務日程
- 令和5年度後学期 教務日程
- 令和5年度後学期 教養教育関係事務手続日程
- 令和5年度前学期・後学期 教務日程
- 令和5年度前学期 教務日程
- 令和5年度前学期 教養教育関連事務手続日程

時間割はこちら

10-3 教養教育1号館・2号館 建物配置図

佐賀大学ホーム>学部・大学院・全学教育機構>全学教育機構>全学教育機構

<https://www.oge.saga-u.ac.jp/>



10-4 オンラインシラバス

佐賀大学ホーム>在学生の方へ>教務関係>オンラインシラバス
https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21/init



シラバス検索

参照したいシラバスを検索してください。
一覧から科目を選択してください。

医学部のシラバスはこちらから。
医学系研究科博士課程のシラバスはこちらから。

タイトル	<input type="text" value="すべて"/>	
カテゴリ	<input type="text" value="すべて"/>	<input type="button" value="詳細検索 +"/>
<input type="button" value="クリア"/>		<input type="button" value="検索"/>

10-5 LiveCampus

佐賀大学ホーム>在学生の方へ>教務関係>ライブキャンパス
<https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/>



LiveCampus

ログイン

言語選択

お知らせ

システム不具合 2021/03/10 14:43
現在システムの不具合により成績が正しく表示されていない箇所があります。復旧次第、お知らせしますのでしばらくお待ちください。

LiveCampusの利用説明書 2021/03/03 18:50
LiveCampusが新しくなりました。
揭示物メニューから利用説明書がダウンロードできますので、ご確認ください。

ログイン→Menu→キャンパスInfo→揭示物
揭示物→マニュアル→学生 【学生向け】教務システム (LiveCampus) の利用説明資料.pdf
→教員 【教員向け】教務システム (LiveCampus) の利用説明資料.pdf

10-6 佐賀大学規程集

佐賀大学ホーム>大学案内>各種情報>佐賀大学規則集
<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/>



佐賀大学 規程集

- 更新情報
- 体系別一覧
- 50音別一覧
- 検 索
- 外部サイトリンク集

令和6年度 教養教育センター開講科目一覧

大学入門科目－大学入門科目(担当部会:初年次教育部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
大学入門科目 I	2	前学期	火2	小松美和子(教育)
大学入門科目 I	2	前学期	火2	林裕子(教育)
大学入門科目 I	2	前学期	火2	吉村圭(教育)
大学入門科目 I	2	前学期	火2	橋永貴弘(教育)
大学入門科目 I	2	前学期	火2	大林将典(教育)
大学入門科目 I	2	前学期	火2	山津幸司(教育)
大学入門科目 I	2	前学期	金2	土屋貴哉(芸術) 他
大学入門科目 I	2	前学期	金2	甲斐広文(芸術) 他
大学入門科目 I	2	前学期	火3	品川優(経済)
大学入門科目 I	2	前学期	火3	亀山嘉大(経済)
大学入門科目 I	2	前学期	火3	金子晋右(経済)
大学入門科目 I	2	前学期	火3	張韓模(経済)
大学入門科目 I	2	前学期	火3	中西一(経済)
大学入門科目 I	2	前学期	火3	上山和俊(経済)
大学入門科目 I	2	前学期	金2	野方大輔(経済)
大学入門科目 I	2	前学期	金2	篠崎伸也(経済)
大学入門科目 I	2	前学期	金2	関康炫(経済)
大学入門科目 I	2	前学期	金2	山形武裕(経済)
大学入門科目 I	2	前学期	金2	角田幸太郎(経済)
大学入門科目 I	2	前学期	火2	孫友容(経済)
大学入門科目 I	2	前学期	火2	早川智津子(経済)
大学入門科目 I	2	前学期	火2	中山泰道(経済)
大学入門科目 I	2	前学期	火2	平部康子(経済)
大学入門科目 I	2	前学期	火4,火5	柴山薫(医) 他
大学入門科目 I	2	前学期	時間割外	河野宏明(工)(理工) 他
大学入門科目 I	2	前学期	月3	田中宗浩(農) 他
大学入門科目 I	4	通年	金3	坂本麻衣子(地域C)

共通基礎教育科目－外国語科目(担当部会:英語部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
英語A	1	前学期	月3	岡有子(非)
英語A	1	前学期	月3	中野京子(非)
英語A	1	前学期	月3	Wagnitz Philip(非)
英語A	1	前学期	火1	小野浩司(非)
英語A	1	前学期	火1	名本達也(全学)
英語A	1	前学期	火1	Bowman Morgan Tyler(非)
英語A	1	前学期	金1	鈴木繁(全学)
英語A	1	前学期	金1	名本達也(全学)
英語A	1	前学期	金1	Painter Angus(非)
英語A	1	前学期	金1	Seneviratne Rohana(非)
英語A	1	前学期	金1	Soares Roger Matthew(非)
英語A	1	前学期	金1	Wagnitz Philip(非)
英語A	1	前学期	金1	Young Daniel(非)
英語A	1	前学期	火2	岡有子(非)
英語A	1	前学期	金2	小池知英(非)
英語A	1	前学期	火1	岡有子(非)
英語A	1	前学期	金1	小池知英(非)
英語A	1	前学期	火3	大城綾子(非)
英語A	1	前学期	火3	小池知英(非)
英語A	1	前学期	火3	綱 智子(非)
英語A	1	前学期	火3	Seneviratne Rohana(非)
英語A	1	前学期	火3	Chapman Andrew(非)
英語A	1	前学期	火3	Silverman Lisa Kaoru(非)
英語A	1	前学期	金2	大城綾子(非)
英語A	1	前学期	金2	名本達也(全学)
英語A	1	前学期	金2	Painter Angus(非)
英語A	1	前学期	金2	Seneviratne Rohana(非)
英語A	1	前学期	金2	Soares Roger Matthew(非)
英語A	1	前学期	金2	Wagnitz Philip(非)
英語A	1	前学期	金2	Young Daniel(非)
英語A	1	前学期	木4	岡有子(非)
英語A	1	前学期	木4	熊本千明(非)
英語A	1	前学期	木4	Clark Kate Lee(非)
英語A	1	前学期	木4	Nakano Arthur A.(非)
英語A(再履修)	1	後学期	水2	高野吾朗(医)
英語A(再履修)	1	後学期	水1	名本達也(全学)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
英語A(再履修)	1	後学期	水2	名本達也(全学)
英語B	1	前学期	火2	高野吾朗(医)
英語B	1	前学期	金2	高野吾朗(医)
英語B	1	前学期	火1	高野吾朗(医)
英語B	1	前学期	金1	高野吾朗(医)
英語B(再履修)	1	前学期	水1	鈴木繁(全学)
英語B(再履修)	1	前学期	水2	鈴木繁(全学)
英語B	1	後学期	月3	Nikandrov Nikolai(非)
英語B	1	後学期	月3	岡有子(非)
英語B	1	後学期	月3	中野京子(非)
英語B	1	後学期	火1	Bowman Morgan Tyler(非)
英語B	1	後学期	火1	小野浩司(非)
英語B	1	後学期	火1	名本達也(全学)
英語B	1	後学期	金1	Nikandrov Nikolai(非)
英語B	1	後学期	金1	Painter Angus(非)
英語B	1	後学期	金1	未定(非)
英語B	1	後学期	金1	Soares Roger Matthew(非)
英語B	1	後学期	金1	Young Daniel(非)
英語B	1	後学期	金1	名本達也(全学)
英語B	1	後学期	金1	鈴木繁(全学)
英語B(再履修)	1	後学期	水1	高野吾朗(医)
英語B	1	後学期	火3	Seneviratne Rohana(非)
英語B	1	後学期	火3	Chapman Andrew(非)
英語B	1	後学期	火3	Silverman Lisa Kaoru(非)
英語B	1	後学期	火3	綱 智子(非)
英語B	1	後学期	火3	大城綾子(非)
英語B	1	後学期	火3	小池知英(非)
英語B	1	後学期	金2	Soares Roger Matthew(非)
英語B	1	後学期	金2	未定(非)
英語B	1	後学期	金2	Painter Angus(非)
英語B	1	後学期	金2	Nikandrov Nikolai(非)
英語B	1	後学期	金2	Young Daniel(非)
英語B	1	後学期	金2	大城綾子(非)
英語B	1	後学期	金2	名本達也(全学)
英語B	1	後学期	木4	Nakano Arthur A.(非)
英語B	1	後学期	木4	Purev Myagmarjargal(非)
英語B	1	後学期	木4	森奏子(非)
英語B	1	後学期	木4	未定(非)
英語C	1	前学期	金3	大城綾子(非)
英語C	1	前学期	金3	鈴木繁(全学)
英語C	1	前学期	金3	Chapman Andrew(非)
英語C	1	前学期	木4	中野京子(非)
英語C	1	前学期	木4	森奏子(非)
英語C	1	前学期	木4	Purev Myagmarjargal(非)
英語C	1	前学期	金2	Van Deusen Brendan(非)
英語C	1	前学期	木3	岡有子(非)
英語C	1	前学期	木3	熊本千明(非)
英語C	1	前学期	木3	中野京子(非)
英語C	1	前学期	木3	森奏子(非)
英語C	1	前学期	木3	Clark Kate Lee(非)
英語C	1	前学期	木3	Nakano Arthur A.(非)
英語C	1	前学期	木3	Purev Myagmarjargal(非)
英語C	1	前学期	月2	臼井悠香(非)
英語C	1	前学期	月2	小野浩司(非)
英語C	1	前学期	月2	岡有子(非)
英語C	1	前学期	月2	中野京子(非)
英語C	1	前学期	月2	Mahmud Muhammad Al(非)
英語C	1	前学期	月2	Wagnitz Philip(非)
英語C	1	前学期	火2	大城綾子(非)
英語C	1	前学期	火2	小野浩司(非)
英語C	1	前学期	火2	小池知英(非)
英語C	1	前学期	火2	綱 智子(非)
英語C	1	前学期	火2	Bowman Morgan Tyler(非)
英語C	1	前学期	火2	Seneviratne Rohana(非)
英語C	1	前学期	火2	Silverman Lisa Kaoru(非)
英語C	1	前学期	月1	臼井悠香(非)
英語C	1	前学期	月1	小野浩司(非)
英語C	1	前学期	月1	名本達也(全学)
英語C	1	前学期	月1	Mahmud Muhammad Al(非)
英語C(再履修)	1	前学期	月6	名本達也(全学)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
英語C	1	後学期	金3	大城綾子(非)
英語C	1	後学期	金3	Chapman Andrew(非)
英語C	1	後学期	金3	Nikandrov Nikolai(非)
英語C	1	後学期	木4	熊本千明(非)
英語C	1	後学期	木4	中野京子(非)
英語C	1	後学期	木4	Seneviratne Rohana(非)
英語C	1	後学期	木3	熊本千明(非)
英語C	1	後学期	木3	中野京子(非)
英語C	1	後学期	木3	森奏子(非)
英語C	1	後学期	木3	Clark Kate Lee(非)
英語C	1	後学期	木3	Seneviratne Rohana(非)
英語C	1	後学期	木3	Nakano Arthur A.(非)
英語C	1	後学期	木3	Purev Myagmarjargal(非)
英語C	1	後学期	火2	岡有子(非)
英語C	1	後学期	金2	小池知英(非)
英語C	1	後学期	火1	岡有子(非)
英語C	1	後学期	金1	小池知英(非)
英語C	1	後学期	月2	臼井悠香(非)
英語C	1	後学期	月2	岡有子(非)
英語C	1	後学期	月2	小野浩司(非)
英語C	1	後学期	月2	鈴木繁(全学)
英語C	1	後学期	月2	中野京子(非)
英語C	1	後学期	月2	Nikandrov Nikolai(非)
英語C	1	後学期	火2	大城綾子(非)
英語C	1	後学期	火2	小野浩司(非)
英語C	1	後学期	火2	小池知英(非)
英語C	1	後学期	火2	綱 智子(非)
英語C	1	後学期	火2	Bowman Morgan Tyler(非)
英語C	1	後学期	火2	Seneviratne Rohana(非)
英語C	1	後学期	火2	Silverman Lisa Kaoru(非)
英語C	1	後学期	月1	臼井悠香(非)
英語C	1	後学期	月1	小野浩司(非)
英語C	1	後学期	月1	鈴木繁(全学)
英語C	1	後学期	月1	Nikandrov Nikolai(非)
英語C(再履修)	1	後学期	月6	鈴木繁(全学)
英語D	1	前学期	火6	鈴木繁(全学)
英語D	1	前学期	木6	鈴木繁(全学)
英語D	1	前学期	金6	名本達也(全学)
英語D	1	後学期	火6	鈴木繁(全学)
英語D	1	後学期	火2	高野吾朗(医)
英語D	1	後学期	金2	高野吾朗(医)
英語D	1	後学期	火1	高野吾朗(医)
英語D	1	後学期	金1	高野吾朗(医)
英語D	1	後学期	木6	未定(非)
英語D	1	後学期	金6	名本達也(全学)
ドイツ語Ⅰb(再履修)	1	後学期	水3	重竹芳江(全学)
ドイツ語Ⅱa(再履修)	1	前学期	木2	重竹芳江(全学)
ドイツ語Ⅱb(再履修)	1	後学期	木2	重竹芳江(全学)

共通基礎教育科目－情報リテラシー科目(担当部会:情報基礎部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
情報基礎概論	2	前学期	火3	和久屋寛(教育)
情報基礎概論	2	前学期	金1	高崎光浩(全学)
情報基礎概論	2	前学期	金2	米満潔(全学)
情報基礎概論	2	前学期	金3	米満潔(全学)
情報基礎概論	2	前学期	火2	安田伸一(経済)
情報基礎概論(再履修)	2	前学期	火2	安田伸一(経済)
情報基礎概論	2	前学期	金4	高崎光浩(全学)
情報基礎概論	2	前学期	金3	高崎光浩(全学)
情報基礎概論	2	前学期	月2	伊藤秀昭(理工)
情報基礎概論	2	前学期	月2	福本尚生(理工)
情報基礎概論	2	前学期	月2	李海峰(理工)
情報基礎概論	2	前学期	火4	光武雄一(海工)
情報基礎概論	2	前学期	火4	泉清高(理工)
情報基礎概論	2	前学期	金2	北垣浩志(農) 他
情報基礎演習Ⅰ	1	前学期	木3	小野文慈(教育) 他
情報基礎演習Ⅰ	1	前学期	月1,月2	高崎光浩(全学)
情報基礎演習Ⅰ(再履修)	1	前学期	月2	伊藤秀昭(理工)
情報基礎演習Ⅰ	1	前学期	金4	稲葉繁樹(農)
情報基礎演習Ⅰ(再履修)	1	後学期	火4	中大窪千晶(理工)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
-------------	-----	----	------	----------

基本教養科目－自然科学と技術の分野(担当部会:自然科学部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
物理の世界Ⅰ	2	前学期	木2	河野宏明(工)(理工)
物理の世界Ⅱ	2	後学期	木2	河野宏明(工)(理工)
化学の世界A	2	後学期	木2	花本猛士(理工) 他
化学の世界B	2	前学期	木2	長田聡史(理工) 他
地学の世界	2	後学期	水1	角縁進(教育)
実験化学Ⅰ	2	前学期	水2	米田宏(理工) 他
実験化学Ⅱ	2	後学期	水2	川喜田英孝(理工) 他
Introduction to Science	2	後学期	木2	山内一宏(理工) 他
数理の世界	2	後学期	木2	日比野雄嗣(理工)
原子の発見	2	後学期	水2	山内一宏(理工)
情報科学の世界Ⅰ	2	前学期	水2	日永田泰啓(総情C)
情報科学の世界Ⅰ	2	前学期	木2	山下義行(全学)
情報科学の世界Ⅱ	2	前学期	木1	只木進一(理工)
情報科学の世界Ⅱ	2	後学期	水2	山下義行(全学)
機械工学の世界A	2	後学期	水2	服部信祐(理工) 他
機械工学の世界B	2	前学期	水2	木上洋一(海工ネ) 他
電気電子工学の世界A	2	前学期	水1	木本晃(理工)
電気電子工学の世界B	2	後学期	木1	後藤聡(理工)
インタラクティブコンテンツ入門	2	後学期	集中講義	米満潔(全学)
環境をはかる	2	後学期	水2	山西博幸(理工)
肥前セラミック学	2	前学期	水1	甲斐広文(芸術) 他
AI・数理・データサイエンスⅠ	2	前学期	木2	只木進一(理工) 他
AI・数理・データサイエンスⅡ	2	後学期	木2	木下武彦(理工) 他
農学の世界A	2	前学期	木2	原口智和(全学)
農学の世界B	2	後学期	水1	近藤文義(農)
STEAM学習基礎	2	後学期	水1	露木隆(アドC)
生物科学の世界A	2	前学期	水2	鈴木章弘(農) 他
生物科学の世界B	2	前学期	木1	永野幸生(総分C)
生命科学の基礎A	2	後学期	水1	鈴木智恵子(医) 他
生命科学の基礎B	2	前学期	水1	北嶋修司(総分C) 他
生命科学の基礎C	2	前学期	木1	青木茂久(医) 他
生命科学の基礎F	2	後学期	水3	池田義孝(医) 他
栄養科学A	2	前学期	時間割外	岡島俊哉(教育)
栄養科学B	2	後学期	時間割外	岡島俊哉(教育)
栄養科学C	2	後学期	時間割外	岡島俊哉(教育) 他
自然科学と技術の分野特別講義(九州・沖縄学Ⅱ)	2	後学期	時間割外	原口智和(全学) 他

基本教養科目－文化の分野(担当部会:人文科学部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
欧米の文化・文学	2	前学期	水2	都築彰(非)
欧米の文化・文学	2	後学期	水2	都築彰(非)
芸術論	2	前学期	水2	吉住磨子(芸術) 他
日本語学	2	前学期	水2	中里理子(教育)
コミュニケーション論	2	前学期	時間割外	米満潔(全学) 他
コミュニケーション論	2	後学期	時間割外	米満潔(全学) 他
Critical Thinking for the Modern Age	2	前学期	水3	Chapman Andrew(非)
Cultural Metaphors	2	後学期	木1	Owatari-Dorgan John(非)
考古学	2	前学期	水2	重藤輝行(芸術)
考古学	2	前学期	木2	重藤輝行(芸術)
日本史	2	前学期	水3	宮武正登(全学)
日本史	2	前学期	木2	宮武正登(全学)
日本史	2	後学期	木2	宮武正登(全学)
西洋史	2	前学期	水2	岡本託(教育)
西洋史	2	後学期	木2	岡本託(教育)
人類学	2	前学期	水2	菊池泰弘(医) 他
スポーツウェルネスの世界	2	前学期	水3	倉岡晃夫(医)
スポーツウェルネスの世界	2	後学期	水3	倉岡晃夫(医)
近代サッカーの成立と進歩	2	後学期	水3	坂元康成(教育)
サッカーの歴史と技法	2	前学期	水3	坂元康成(教育)
柔道の歴史と技法	2	後学期	水3	町田正直(教育)
哲学の世界	2	後学期	木1	井本浩之(非)
地域史	2	後学期	時間割外	伊藤昭弘(地域C)
宗教学	2	後学期	木2	後藤正英(教育)
文化の分野特別講義(九州・沖縄学Ⅰ)	2	前学期	時間割外	中尾友香梨(全学)
ドイツの言語と文化Ⅰ	2	前学期	水2	重竹芳江(全学)
ドイツの言語と文化Ⅰ	2	前学期	水3	重竹芳江(全学)
ドイツの言語と文化Ⅰ	2	前学期	木1	重竹芳江(全学)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
ドイツの言語と文化Ⅱ	2	後学期	水3	重竹芳江(全学)
ドイツの言語と文化Ⅱ	2	後学期	木1	重竹芳江(全学)
フランスの言語と文化Ⅰ	2	前学期	水3	河野敦子(非)
フランスの言語と文化Ⅱ	2	後学期	水2	河野敦子(非)
中国の言語と文化Ⅰ	2	前学期	水3	谷口高志(教育)
中国の言語と文化Ⅱ	2	後学期	水3	谷口高志(教育)
韓国・朝鮮の言語と文化Ⅰ	2	前学期	木1	黄聖媛(非)
韓国・朝鮮の言語と文化Ⅰ	2	前学期	木2	黄聖媛(非)
韓国・朝鮮の言語と文化Ⅱ	2	後学期	木1	黄聖媛(非)
Western Culture	2	前学期	木2	Owatari-Dorgan John(非)
PAGE Overseas Practicum	2	後学期	集中講義	未定(非)
PAGE Online Immersion Program	2	前学期	集中講義	未定(非)
Intensive English I	2	前学期	水2	Bowman Morgan Tyler(非)
Intensive English I	2	前学期	水2	Sager Steven Jay(非)
Intensive English II	2	後学期	水2	未定(非)
Intensive English II	2	後学期	水2	Seneviratne Rohana(非)
アカデミック英語	1	後学期	水3	未定(非)
ビジネス英語	1	後学期	水3	未定(非)
アカデミック独語	1	前学期	集中講義	重竹芳江(全学)
アカデミック独語	1	後学期	集中講義	重竹芳江(全学)
ドイツ文学A	1	前学期	集中講義	重竹芳江(全学)
ドイツ文学B	1	後学期	集中講義	重竹芳江(全学)
ドイツ文化論A	2	前学期	集中講義	堺雅志(非)
ドイツ文化論B	2	後学期	集中講義	堺雅志(非)

基本教養科目－現代社会の分野(担当部会:社会科学部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
経済学	2	前学期	水2	上山和俊(経済)
経済学	2	後学期	水2	上山和俊(経済)
会計学	2	後学期	水2	角田幸太郎(経済)
経営学	2	前学期	水2	洪廷和(経済)
経営学	2	前学期	木2	篠崎伸也(経済)
法律学	2	前学期	水2	中山泰道(経済) 他
政治学	2	後学期	水2	畑山敏夫(非)
日本国憲法	2	前学期	水1	城下健太郎(非)
日本国憲法	2	前学期	水2	城下健太郎(非)
日本国憲法	2	後学期	水2	城下健太郎(非)
地理学	2	前学期	水1	五十嵐勉(非)
Introduction to Sociology	2	後学期	木1	Bowman Morgan Tyler(非)
現代社会の法と政治	2	前学期	水2	吉岡剛彦(教育)
社会思想	2	後学期	木2	石松弘幸(国際C)
心理学A	2	前学期	水1	村久保雅孝(医)
心理学A	2	後学期	水3	村久保雅孝(医)
心理学B	2	前学期	水3	村久保雅孝(医)
心理学B	2	後学期	木2	村久保雅孝(医)
Citizenship Education	2	後学期	水1	Bowman Morgan Tyler(非)
情報メディアと倫理	2	前学期	時間割外	大谷誠(総情C)
情報メディアと倫理	2	後学期	木2	山下義行(全学)
心身の発達過程	2	前学期	水1	中島俊思(学教研)
健康科学A	2	後学期	水1	木道圭子(保健C)
健康科学B	2	後学期	水1	福留健司(全学) 他
健康科学B	2	後学期	水2	福留健司(全学) 他
スポーツと健康	2	前学期	水3	町田正直(教育)
健康科学A	2	前学期	水1	福留健司(全学)
健康科学A	2	前学期	水2	福留健司(全学)
Life in the Global World	2	前学期	水2	武田桂依(非)
教育と人生	2	後学期	水3	岡島俊哉(教育)
情報メディアコミュニケーション	2	前学期	木1	米満潔(全学) 他
情報メディアコミュニケーション	2	後学期	水1	米満潔(全学) 他
Aspects of Modern Society	2	後学期	水3	Chapman Andrew(非)
プレゼンテーション・デザイン	2	前学期	水2	古賀崇朗(全学)
プレゼンテーション・デザイン	2	後学期	水2	古賀崇朗(全学)
現代教育学	2	後学期	水2	林裕子(教育) 他
教育学A	2	後学期	木1	村山詩帆(全学)
教育学B	2	前学期	木2	村山詩帆(全学)
教育学C	2	後学期	木1	山内一祥(キャリアセンター)
環境科学Ⅰ	2	前学期	時間割外	岡島俊哉(教育) 他
環境科学Ⅲ	2	後学期	時間割外	岡島俊哉(教育) 他
インスタラクショナル・デザイン	2	前学期	時間割外	古賀崇朗(全学) 他
インスタラクショナル・デザイン	2	後学期	時間割外	古賀崇朗(全学) 他

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
ジャーナリズムの現在	2	後学期	水2	伊藤正哉(経済)
知的財産学	2	後学期	時間割外	寺本顕武(理工)
アジアコミュニティ論	2	後学期	木2	張韓模(経済)
国際社会学	2	後学期	水3	石松弘幸(国際C)
現代社会の分野特別講義(グローバル化と証券投資)	2	前学期	集中講義	中村博和(経済)
現代社会の分野特別講義(西洋近代社会思想史)	2	前学期	木2	石松弘幸(国際C)
現代社会の分野特別講義(多文化社会論)	2	前学期	水3	石松弘幸(国際C)
現代社会の分野特別講義(経営工学からみたマネジメント)	2	後学期	木1	小林稔(非)
現代社会の分野特別講義(金融リテラシーと生命保険)	2	後学期	水2	中山泰道(経済)
体育実技 I	1	前学期	月2	井上伸一(教育)
体育実技 I	1	前学期	月2	山津幸司(教育)
体育実技 I	1	前学期	木3	町田正直(教育)
体育実技 I	1	前学期	木4	町田正直(教育)
体育実技 I	1	後学期	月2	井上伸一(教育)
体育実技 I	1	後学期	月2	山津幸司(教育)
体育実技 I	1	後学期	木3	町田正直(教育)
体育実技 I	1	後学期	木4	町田正直(教育)
体育実技 II	1	前学期	月2	坂元康成(教育)
体育実技 II	1	前学期	月2	原田光(非) 他
体育実技 II	1	前学期	水1	佐藤広徳(非) 他
体育実技 II	1	前学期	水2	佐藤広徳(非) 他
体育実技 II	1	前学期	木3	佐藤広徳(非) 他
体育実技 II	1	前学期	木4	佐藤広徳(非) 他
体育実技 II	1	後学期	月2	坂元康成(教育)
体育実技 II	1	後学期	月2	原田光(非) 他

基本教養科目－総合科目(担当部会:総合科目部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
キャリアデザイン	2	後学期	水3	山内一祥(キャリアセンター)
海外交流実習	2	前学期	集中講義	石松弘幸(国際C)
海外交流実習	2	前学期	集中講義	石松弘幸(国際C)
海外交流実習	2	前学期	集中講義	石松弘幸(国際C)
海外交流実習	2	後学期	水2	重竹芳江(全学)
海外交流実習	2	後学期	集中講義	石松弘幸(国際C)
海外交流実習	2	後学期	集中講義	石松弘幸(国際C)
チャレンジ・インターンシップB	2	通年	集中講義	田中宗浩(農)
ライフデザインとセルフ・リーダーシップ	2	前学期	水3	山内一祥(キャリアセンター)
Online Immersion Program	2	前学期	集中講義	未定(非)
Overseas Practicum	2	後学期	集中講義	未定(非)
データサイエンス Basic I	1	後学期	時間割外	西郡大(アドC) 他
データサイエンス Basic II	1	後学期	時間割外	西郡大(アドC) 他

インターフェース科目－環境コース(担当部会:インターフェース部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
機械工学と環境 I	2	前学期	水1	今井康貴(海エネ) 他
機械工学と環境 II	2	後学期	水2	長谷川裕之(理工) 他
機械工学と環境 III	2	前学期	木1	塩見憲正(理工) 他
機械工学と環境 III	2	前学期	木2	只野裕一(理工) 他
機械工学と環境 IV	2	後学期	木1	石田賢治(理工) 他
機械工学と環境 IV	2	後学期	木1	寺本顕武(理工) 他
電気電子工学と環境 I	2	前学期	水1	佐々木伸一(理工)
電気電子工学と環境 II	2	後学期	水1	村松和弘(理工)
電気電子工学と環境 III	2	前学期	水1	大津康徳(理工)
電気電子工学と環境 IV	2	後学期	木1	田中徹(理工)
エレクトロニクスと環境 I	2	前学期	水1	佐々木伸一(理工)
エレクトロニクスと環境 II	2	後学期	水1	村松和弘(理工)
エレクトロニクスと環境 III	2	前学期	水1	大津康徳(理工)
エレクトロニクスと環境 IV	2	後学期	木1	田中徹(理工)
佐賀の環境 I	2	前学期	水2	兒玉宏樹(総分C) 他
佐賀の環境 II	2	通年	時間割外	兒玉宏樹(総分C) 他
佐賀の環境 III	2	前学期	水1	速水祐一(農) 他
佐賀の環境 IV	2	後学期	木1	速水祐一(農) 他

インターフェース科目－文化と共生コース(担当部会:インターフェース部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
異文化交流 I	2	前学期	木1	石松弘幸(国際C)
異文化交流 II	2	後学期	水2	古賀弘毅(国際C)
異文化交流 III	2	前学期	木2	後藤正英(教育)
異文化交流 IV	2	後学期	木2	山田直子(非)
Intercultural Communication I	2	前学期	水1	石丸裕佳子(非)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
Intercultural Communication I	2	後学期	水2	Bowman Morgan Tyler(非)
Intercultural Communication II	2	前学期	集中講義	山田智久(非)
Intercultural Communication II	2	後学期	集中講義	山田智久(非)
Intercultural Communication III	2	前学期	水1	武田桂依(非)
Intercultural Communication III	2	前学期	木1	Owatari-Dorgan John(非)
Intercultural Communication IV	2	後学期	木2	Owatari-Dorgan John(非)
Intercultural Communication IV	2	後学期	木2	Clark Kate Lee(非)
肥前陶磁器産業体験 I	2	前学期	水2	田中右紀(芸術)
肥前陶磁器産業体験 II	2	前学期	集中講義	湯之原淳(芸術) 他
肥前陶磁器産業体験 III	2	前学期	木2	甲斐広文(芸術) 他
肥前陶磁器産業体験 IV	2	後学期	木2	三木悦子(芸術) 他
ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化 I	2	前学期	水1	重竹芳江(全学)
ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化 II	2	後学期	水1	重竹芳江(全学)
ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化 III	2	前学期	木2	重竹芳江(全学)
ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化 IV	2	後学期	木2	重竹芳江(全学)
芸術と社会 I	2	前学期	水2	阿部浩之(芸術) 他
芸術と社会 II	2	後学期	集中講義	花田伸一(芸術) 他
芸術と社会 III	2	前学期	木2	花田伸一(芸術) 他
芸術と社会 III	2	前学期	木2	井川健(芸術) 他
芸術と社会 IV	2	後学期	水2	有馬隆文(芸術) 他
歴史文化 I	2	前学期	水2	中尾友香梨(全学)
歴史文化 II	2	後学期	水2	西村雄一郎(非)
歴史文化 III	2	前学期	木2	中尾友香梨(全学)
歴史文化 IV	2	後学期	木2	中尾友香梨(全学)
英語コミュニケーション I	2	前学期	水2	Purev Myagmarjargal(非)
英語コミュニケーション I	2	前学期	水1	Bowman Morgan Tyler(非)
英語コミュニケーション II	2	前学期	木1	Sager Steven Jay(非)
英語コミュニケーション II	2	後学期	水2	Purev Myagmarjargal(非)
英語コミュニケーション III	2	前学期	木1	Mahmud Muhammad Al(非)
英語コミュニケーション III	2	後学期	水2	Sager Steven Jay(非)
英語コミュニケーション IV	2	後学期	木1	未定(非)
英語コミュニケーション IV	2	後学期	木2	Bowman Morgan Tyler(非)

インターフェース科目ー生活と科学コース(担当部会:インターフェース部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
未来を拓く材料の科学 I	2	前学期	水1	竹下道範(理工) 他
未来を拓く材料の科学 II	2	後学期	水1	矢田光徳(理工) 他
未来を拓く材料の科学 III	2	前学期	木1	川喜田英孝(理工) 他
未来を拓く材料の科学 IV	2	後学期	木1	成田貴行(理工) 他
エレクトロニクスと生活 I	2	前学期	水1	佐々木伸一(理工)
エレクトロニクスと生活 II	2	後学期	水1	村松和弘(理工)
エレクトロニクスと生活 III	2	前学期	水1	大津康徳(理工)
エレクトロニクスと生活 IV	2	後学期	木1	田中徹(理工)
情報技術者キャリアデザイン I	2	前学期	水1	掛下哲郎(理工) 他
情報技術者キャリアデザイン II	2	前学期	木1	岡崎泰久(理工) 他
情報技術者キャリアデザイン III	2	前学期	木2	山口暢彦(理工)
情報技術者キャリアデザイン III	2	後学期	水2	山口暢彦(理工)
情報技術者キャリアデザイン IV	2	後学期	木2	松前進(総情C)
2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方 I	2	前学期	水2	田中宗浩(農)
2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方 II	2	後学期	水2	田中宗浩(農)
2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方 III	2	前学期	木2	田中宗浩(農)
2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方 IV	2	後学期	木2	田中宗浩(農)
食糧生産の科学 I	2	前学期	木2	一色司郎(農)
食糧生産の科学 II	2	後学期	木2	吉賀豊司(農) 他
食糧生産の科学 III	2	前学期	水2	鄭紹輝(農) 他
食糧生産の科学 IV	2	後学期	水2	鈴木章弘(農) 他
ライフサイエンス・フードサイエンス I	2	前学期	水2	辻田忠志(農) 他
ライフサイエンス・フードサイエンス II	2	後学期	水2	野間誠司(農) 他
ライフサイエンス・フードサイエンス III	2	前学期	木2	川口真一(農) 他
ライフサイエンス・フードサイエンス IV	2	後学期	木2	永尾晃治(農) 他

インターフェース科目ー人間と社会コース(担当部会:インターフェース部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
リサーチ・リテラシー I	2	前学期	水2	村山詩帆(全学)
リサーチ・リテラシー II	2	後学期	水1	村山詩帆(全学)
リサーチ・リテラシー III	2	前学期	木1	村山詩帆(全学)
リサーチ・リテラシー IV	2	後学期	木2	村山詩帆(全学) 他
チームビルディングとリーダーシップ I	2	前学期	水2	山内一祥(キャリアセンター) 他
チームビルディングとリーダーシップ II	2	後学期	水2	山内一祥(キャリアセンター) 他
チームビルディングとリーダーシップ III	2	前学期	木2	山内一祥(キャリアセンター) 他

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
チームビルディングとリーダーシップⅣ	2	後学期	木2	山内一祥(キャリアセンター) 他
スポーツイベントとボランティアリーダーⅠ	2	前学期	水2	町田正直(教育)
スポーツイベントとボランティアリーダーⅡ	2	後学期	水2	町田正直(教育) 他
スポーツイベントとボランティアリーダーⅢ	2	前学期	木2	町田正直(教育) 他
スポーツイベントとボランティアリーダーⅣ	2	後学期	木1	町田正直(教育) 他

インターフェース科目－医療・福祉と社会コース(担当部会:インターフェース部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
現代社会と医療Ⅰ	2	前学期	水2	青木歳幸(非)
現代社会と医療Ⅱ	2	前学期	木1	吉田和代(医)
現代社会と医療Ⅲ	2	後学期	水2	徳島緑(医) 他
現代社会と医療Ⅳ	2	後学期	木1	島ノ江千里(医)
食と健康Ⅰ	2	前学期	水2	市場正良(医) 他
食と健康Ⅱ	2	前学期	木1	吉田和代(医)
食と健康Ⅲ	2	後学期	水2	江村正(医)
食と健康Ⅳ	2	後学期	木1	西田裕一郎(医) 他
ライフサイクルからみた医療Ⅰ	2	前学期	水2	藤野成美(医) 他
ライフサイクルからみた医療Ⅱ	2	前学期	木1	吉田和代(医)
ライフサイクルからみた医療Ⅲ	2	後学期	水2	江村正(医)
ライフサイクルからみた医療Ⅳ	2	後学期	木1	島ノ江千里(医)

インターフェース科目－地域・佐賀学コース(担当部会:インターフェース部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
佐賀の歴史文化Ⅰ	2	前学期	水2	坂本卓也(非)
佐賀の歴史文化Ⅱ	2	後学期	水2	宮武正登(全学)
佐賀の歴史文化Ⅲ	2	前学期	木2	藤井康隆(芸術)
佐賀の歴史文化Ⅳ	2	後学期	木2	伊藤昭弘(地域C)
地域経済と社会Ⅰ	2	前学期	木2	金子晋右(経済)
地域経済と社会Ⅱ	2	後学期	水2	宮崎卓朗(経済)
地域経済と社会Ⅲ	2	前学期	水2	宮崎卓朗(経済)
地域経済と社会Ⅳ	2	後学期	木2	内山真由美(経済)
佐賀SDGsグローバルアクションⅠ	2	前学期	水2	五十嵐勉(非) 他
佐賀SDGsグローバルアクションⅡ	2	後学期	水2	五十嵐勉(非) 他
佐賀SDGsグローバルアクションⅢ	2	前学期	木2	大串浩一郎(理工) 他
佐賀SDGsグローバルアクションⅣ	2	後学期	木2	三島伸雄(理工) 他

インターフェース科目－サブスペシャルティコース(担当部会:副専攻部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
プログラミング・データサイエンスⅠ	2	前学期	木2	只木進一(理工) 他
プログラミング・データサイエンスⅡ	2	後学期	木2	木下武彦(理工) 他
プログラミング・データサイエンスⅢ	2	前学期	水2	堀良彰(総情C)
プログラミング・データサイエンスⅣ	2	後学期	木1	西郡大(アドC) 他
デジタルコンテンツⅠ	2	前学期	木2	中村隆敏(芸術)
デジタルコンテンツⅡ	2	後学期	木2	中村隆敏(芸術)
デジタルコンテンツⅢ	2	前学期	水1	高崎光浩(全学)
デジタルコンテンツⅣ	2	後学期	集中講義	中村隆敏(芸術)

学部間共通教育科目－特定プログラム教育科目(担当部会:特定プログラム)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
映像表現	2	後学期	木2	中村隆敏(芸術)
デジタルメディア・デザイン	2	後学期	集中講義	中村隆敏(芸術)
アニメーション表現	2	前学期	集中講義	中村隆敏(芸術)
3DCG表現	2	後学期	集中講義	中村隆敏(芸術)

外国人留学生のための授業科目－外国語科目(担当部会:外国人留学生教育部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
実践日本語C	1	後学期	月4	古賀弘毅(国際C)
実践日本語D	1	前学期	金3	平川彩子(非)
実践日本語E	1	後学期	金2	平川彩子(非)
実践日本語F	1	前学期	火3	石田英明(非)

外国人留学生のための授業科目－日本事情(担当部会:人文科学部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
日本事情－文化	2	前学期	木3	宮武正登(全学)

留学生プログラム教育科目－日本語(担当部会:外国人留学生教育部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	Van Deusen Brendan(非)
日本語総合初級Ⅰ	3	前学期	月2,火2,木4	古賀弘毅(国際C)
日本語総合初級Ⅰ	3	後学期	月2,火2,木3	古賀弘毅(国際C)
日本語総合初級Ⅱ	3	前学期	月2,火2,金2	貞松明子(非)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
日本語総合初級Ⅱ	3	後学期	月2,火2,金2	貞松明子(非)
日本語総合中級Ⅰ	3	前学期	月4,火2,木2	石田英明(非)
日本語総合中級Ⅰ	3	後学期	月2,水5,木3	石田英明(非)
実践日本語A	1	後学期	金3	平川彩子(非)
実践日本語B	1	前学期	金2	平川彩子(非)

留学生プログラム教育科目一分野専門科目(担当部会:外国人留学生教育部会)

科目名(クラス、副題)	単位数	学期	曜日校時	担当教員(所属)
日本事情研修B	2	前学期	水4	古賀弘毅(国際C)
理工学紹介B	2	前学期	火4	MD. T. ISLAM KHAN(理工)
文法発展導入	2	前学期	金4	古賀弘毅(国際C)
日本事情研修E	2	後学期	木3	三木悦子(芸術) 他
日本事情研修F	2	前学期	木3	三木悦子(芸術) 他
自主研究C	6	後学期	時間割外	三木悦子(芸術) 他
自主研究D	6	前学期	時間割外	三木悦子(芸術) 他
農学入門B-食品と環境	2	前学期	水5	辻田忠志(農) 他
現代日本の社会経済問題	2	前学期	火5	山形武裕(経済) 他
日本・佐賀事情研修A	2	後学期	水4	古賀弘毅(国際C)

目次

(趣旨)

第1条 この規程は、佐賀大学全学教育機構規則（平成23年3月23日制定）第4条第5項の規定に基づき、**佐賀大学全学教育機構数理・データサイエンス教育推進室**（以下「推進室」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 推進室は、佐賀大学全学教育機構（以下「機構」という。）に、数理・データサイエンス教育推進に関する事業を行い、全学的な数理・データサイエンス教育の浸透を図ることにより、佐賀大学の教育の質の向上に資することを目的とする。

(業務)

第3条 推進室は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 全学教育機構における数理・データサイエンス教育の企画
- (2) 各学部及び各研究科における数理・データサイエンス教育に関する提言及び支援
- (3) 各学部及び各研究科において利用可能な数理・データサイエンス教育に係る教材開発
- (4) データサイエンス教育プログラム修了の判定
- (5) 数理・データサイエンス教育に関する質保証
- (6) 数理・データサイエンスに関する教職員向け講習に係る企画・運営
- (7) 数理・データサイエンスに関する公開講座等市民向け教育に係る企画・運営
- (8) 数理・データサイエンス教育に関する調査研究
- (9) その他推進室の設置目的を達成するために必要な業務

(組織)

第4条 推進室は、次に掲げる職員をもって組織する。

- (1) 推進室長
- (2) 副推進室長
- (3) 推進室員
- (4) その他必要な職員

2 前項第4号の職員は、推進室長の推薦に基づき、機構長が指名する。

(副推進室長)

第5条 副推進室長は、機構の専任又は併任教員のうちから、推進室長の推薦に基づき、機構長が指名する。

2 副推進室長は、推進室長の職務を補佐する。

3 副推進室長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、当該副推進室長を推薦した推進室長の任期の終期を超えることはできない。

4 副推進室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(推進室員)

第6条 推進室員は、機構の専任又は併任の教員のうちから機構長が指名する。

2 推進室員は、推進室の運営に係る業務を行う。

3 推進室員の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 推進室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(推進室会議)

第7条 推進室に、佐賀大学全学教育機構数理・データサイエンス教育推進室会議（以下「推進室会議」という。）を置く。

2 推進室会議は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 推進室の組織及び運営に関する事項
- (2) 第3条に規定する業務の運営に関する事項
- (3) その他推進室の管理運営に関する事項
（推進室会議の組織）

第8条 推進室会議は、第4条に規定する職員を委員として組織する。

（議長）

第9条 推進室会議に議長を置き、推進室長をもって充てる。

2 議長は、会議を招集する。

3 議長に事故があるときは、副推進室長がその職務を代行する。

（意見の聴取）

第10条 推進室会議は、必要に応じて、委員以外の者（学外者を含む。）の出席を求め、意見を聴くことができる。

（雑則）

第11条 この規程に定めるもののほか、推進室の組織及び運営に関し必要な事項は、推進室会議の議を経て、機構長が別に定める。

附 則

この内規は、令和2年3月25日から施行する。

附 則（令和3年3月24日改正）

この内規は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和5年3月29日改正）

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

目次

(趣旨)

第1条 この規程は、佐賀大学全学教育機構規則（平成23年3月23日制定）第4条第5項の規定に基づき、**佐賀大学全学教育機構数理・データサイエンス教育推進室**（以下「推進室」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 推進室は、佐賀大学全学教育機構（以下「機構」という。）に、数理・データサイエンス教育推進に関する事業を行い、全学的な数理・データサイエンス教育の浸透を図ることにより、佐賀大学の教育の質の向上に資することを目的とする。

(業務)

第3条 推進室は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 全学教育機構における数理・データサイエンス教育の企画
- (2) 各学部及び各研究科における数理・データサイエンス教育に関する提言及び支援
- (3) 各学部及び各研究科において利用可能な数理・データサイエンス教育に係る教材開発
- (4) データサイエンス教育プログラム修了の判定
- (5) 数理・データサイエンス教育に関する質保証
- (6) 数理・データサイエンスに関する教職員向け講習に係る企画・運営
- (7) 数理・データサイエンスに関する公開講座等市民向け教育に係る企画・運営
- (8) 数理・データサイエンス教育に関する調査研究
- (9) その他推進室の設置目的を達成するために必要な業務

(組織)

第4条 推進室は、次に掲げる職員をもって組織する。

- (1) 推進室長
- (2) 副推進室長
- (3) 推進室員
- (4) その他必要な職員

2 前項第4号の職員は、推進室長の推薦に基づき、機構長が指名する。

(副推進室長)

第5条 副推進室長は、機構の専任又は併任教員のうちから、推進室長の推薦に基づき、機構長が指名する。

2 副推進室長は、推進室長の職務を補佐する。

3 副推進室長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、当該副推進室長を推薦した推進室長の任期の終期を超えることはできない。

4 副推進室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(推進室員)

第6条 推進室員は、機構の専任又は併任の教員のうちから機構長が指名する。

2 推進室員は、推進室の運営に係る業務を行う。

3 推進室員の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 推進室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(推進室会議)

第7条 推進室に、佐賀大学全学教育機構数理・データサイエンス教育推進室会議（以下「推進室会議」という。）を置く。

2 推進室会議は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 推進室の組織及び運営に関する事項
- (2) 第3条に規定する業務の運営に関する事項
- (3) その他推進室の管理運営に関する事項
（推進室会議の組織）

第8条 推進室会議は、第4条に規定する職員を委員として組織する。

（議長）

第9条 推進室会議に議長を置き、推進室長をもって充てる。

2 議長は、会議を招集する。

3 議長に事故があるときは、副推進室長がその職務を代行する。

（意見の聴取）

第10条 推進室会議は、必要に応じて、委員以外の者（学外者を含む。）の出席を求め、意見を聴くことができる。

（雑則）

第11条 この規程に定めるもののほか、推進室の組織及び運営に関し必要な事項は、推進室会議の議を経て、機構長が別に定める。

附 則

この内規は、令和2年3月25日から施行する。

附 則（令和3年3月24日改正）

この内規は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和5年3月29日改正）

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

大学等名	佐賀大学（農学部）	申請レベル	応用基礎レベル（学部・学科等単位）
教育プログラム名	佐賀大学データサイエンス教育プログラム（応用基礎レベル）（農学部）	申請年度	令和7年度

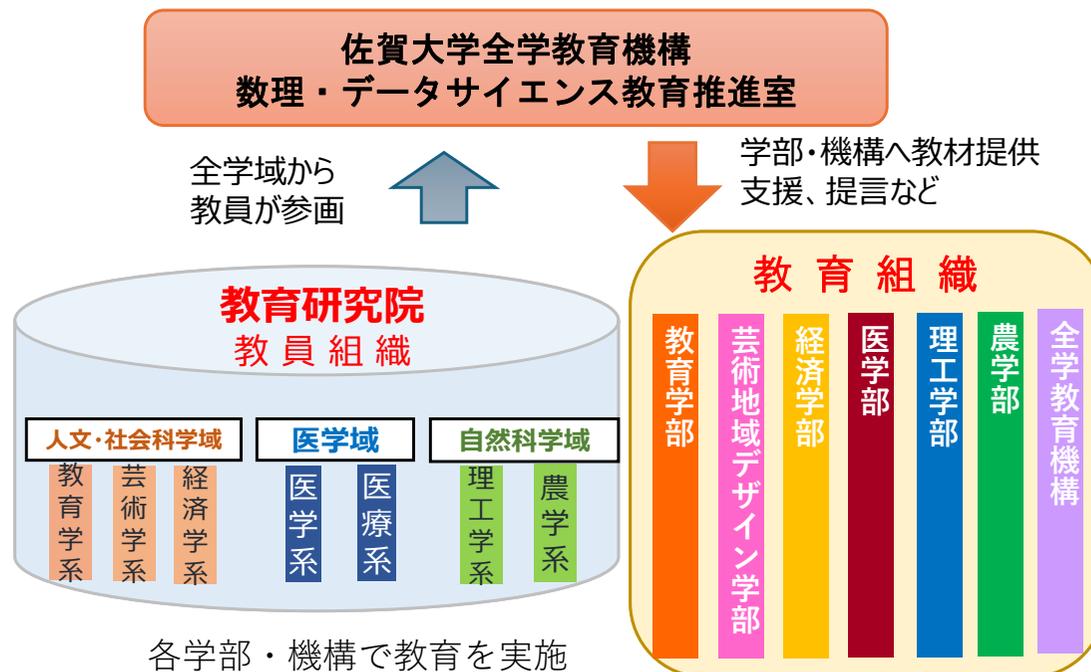
プログラムの目的

数理・データサイエンス・AIに関する基礎能力を有するとともに、これを自らの専門分野や関連分野などへ応用して、課題解決や価値創造などに活かせる人材を育成する。

学習到達目標

1. データサイエンス基礎
 - 1.1 データ駆動型社会においてデータサイエンスを学ぶこと意義を理解する。
 - 1.2 分析目的に応じ、適切なデータ分析手法、データ可視化法を選べる。
 - 1.3 データ・AI利活用に必要な数学の基礎を理解する。
 - 1.4 データ・AI利活用に必要なアルゴリズムの基礎を理解する。
2. データエンジニアリング基礎
 - 2.1 データを収集・処理・蓄積するための技術の概要を理解する。
 - 2.2 コンピュータでデータを扱うためのデータ表現の基礎を理解する。
 - 2.3 データ・AI利活用に必要なプログラミングの基礎を理解する。
3. AI基礎
 - 3.1 AIのこれまでの変遷、各段階における代表的な成果物や技術背景を理解する。
 - 3.2 AIが社会に受け入れられるために考慮すべき点を理解する。
 - 3.3 自らの専門分野にAIを応用する際に求められるモラルや倫理について理解する。
 - 3.4 機械学習、深層学習等の基本的な概念を理解する。
 - 3.5 複数のAI技術が組み合わされたAIシステムの例を説明できる。
 - 3.6 AI技術を活用し、課題解決に活かすことができる。

実施体制



農学部のプログラム修了要件

授業科目	単位数	修了要件
AI・数理・データサイエンスⅠ	2	必修
AI・数理・データサイエンスⅡ	2	必修
農業ICT学	2	必修
基礎数学	2	2単位選択必修
基礎統計学	2	
生物統計学	2	